平成 29 年度文部科学省委託事業 「専修学校による地域産業中核的人材養成」事業

認定動物看護師養成における効果的な連携事業を行うための

動物病院実習ガイドライン作成事業

中 間 実 績 報 告 書

平成 30 年 2 月

一般社団法人 全国動物教育協会

平成 29 年度文部科学省委託事業 「専修学校による地域産業中核的人材養成」事業

認定動物看護師養成における効果的な連携事業を行うための
動物病院実習ガイドライン作成事業

中 間 実 績 報 告 書

目　次

Ⅰ. 動物病院実習ガイドライン作成事業概要報告

1. 事業概要 1
2. 事業実施内容 2
   - 2-1. 事業実施の成果目標 2
   - 2-2. 事業の内容 2
   - 2-3. 事業成果の継続性について（課題と活用） 3
3. 事業の実施体制及びスケジュール 4
   - 3-1. 構成員・構成機関等、実施体制 4
   - 3-2. 事業の推進体制 7
   - 3-3. 事業実施スケジュール 7
   - 3-4. 調査項目の検討及び調整 8
   - 3-5. 実態調査の実施と取りまとめ 9

Ⅱ. 実施委員会　活動報告

1. 実施内容 11
   - 1-1. 実施委員会の目的及び活動内容 11
   - 1-2. 事業実施スケジュール 11
   - 1-3. 実施委員会実施記録 12

Ⅲ. 調査項目検討委員会　活動報告

1. 実施内容 17
   - 1-1. 調査項目検討委員会の目的及び活動内容 17
   - 1-2. 調査項目委員会実施記録 17

2. 検討結果 26
2-1. 認定動物看護師新コアカリキュラム カリキュラムマップ 26
2-2. 専門学校を対象とした動物病院実習の実態調査 調査票 29
2-3. 動物病院を対象とした動物病院実習の実態調査 ヒアリング調査票 39
2-4. 「動物病院実習ガイドライン」草案 46
2-5. 教育支援ツール情報 49

Ⅳ. 実態調査委員会 活動報告
1. 実施内容 57
1-1. 実態調査委員会の目的及び活動内容 57
1-2. 実態調査委員会実施記録 63

Ⅴ. 事業成果
1. 専門学校を対象とした実態調査の集計結果 75
1-1. 調査票の集計 75
1-2. 実態調査結果からみる考察と課題 125

2. 動物病院を対象とした実態調査の集計結果 127
2-1. 調査票の集計結果 127
2-2. 動物病院実態調査 ヒアリング調査結果サマリー 130

3. 事業成果の次年度活用について 146
3-1. 事業実施結果及び所感 146
3-2. ガイドライン骨子案への気づき（留意点） 147

第Ⅰ編　動物病院実習ガイドライン作成事業概要報告

1. 事業概要

現在、認定動物看護師養成は全国統一の試験が実施され、その受験要件である動物看護師養成高位平準コアカリキュラム（以下、「コアカリ」）を履修、実施している全国の動物系専門学校 68 校（以下本誌にて、専門学校 68 校と記す）と全国動物保健看護系大学協会の加盟大学 8 校が受検験可能校となっている。

この「コアカリ」の構成科目には、総合臨床実習として 180 時間の企業内実習（以下「動物病院実習」）が組み込まれているが、その実施時期や基礎科目との連携、学内学習との接続性等が明確になっておらず、動物病院実習における目的・教育効果・評価についても十分に整備されていないのが現状である。そのため動物病院実習をより実践的な能力の向上と標準化を図るものとすることは動物医療業界にとって重要である。

本事業では、平成 29 年度から 3 か年計画で「動物病院実習ガイドライン」の整備に取り組むこととし、平成 29 年度は実態調査、平成 30～31 年度にかけて動物病院実習ガイドラインの整備及び実証を行うことを事業計画とし、「動物病院実習」に対する教育の体系化を図る事とした。

今年度事業としては、

① 認定動物看護師統一試験受験認定校である専門学校（68 校）で既に実施されている動物病院実習の実態を調査（アンケート方式）し、実習内容、及び前後の学習との接続性・目的の位置づけを確認した。

② 学生の実習受入先である動物病院に対するアンケート、及びヒアリング調査を、全国 11 地域（札幌、新潟、埼玉、東京、千葉、静岡、京都、大阪、愛媛、広島、九州）で行い、受け入れ側の意向や状況を確認した。

③ 動物病院実習の教育の体系化を図るために、「動物病院実習」調査の結果を参照に、認定動物看護師養成コアカリキュラムに対する「カリキュラムマップ（案）」を作成し、次年度事業の中核である「動物病院実習ガイドライン」作成時の学習目標や学習成果等の検証を行った。

2. 事業実施内容

2-1. 事業実施の成果目標

（1） 動物病院実習の実態調査

認定動物看護師統一認定試験受験可能校（68 校）に対する「動物病院実習」の実態調査を実施し、さらに動物病院（24 病院）に対し調査票によるアンケート調査に加えてヒアリング調査を行うことで、一方向的に偏らない客観的な視点で、動物病院実習の実態把握を行う。

（2） カリキュラムマップ（案）の作成

動物病院実習に対する教育の体系化を図るためにはカリキュラムとの照合が必要とされる。実習を行う時期や目的・学習成果・評価等、各要因を検討しガイドラインを作成する必要性がある事から、その指標となるカリキュラムマップを作成し、検討の基礎とする。

（3） 教育支援ツールの検討

動物病院実習を実施する際、契約に関するツールや、教育に関するツール、渉外に関するツール等が存在することが判明しているため、整理を行い次年度事業に活かす。

（4） 動物病院実習ガイドライン草案の検討

上記の取組の結果を参照にあるべき姿の動物病院実習ガイドラインを事業計画段階で計画していた動物病院実習骨子案と照らし合わせ、検討する。

2-2. 事業の内容

（1） 会議体の設置及び会議の実施

① 実施委員会

目的 ： プロジェクト全体の進捗管理、部会の課題整理

① 動物病院実習実態調査項目の見直し及び調整

② 動物病院実習実態調査のデータ分析結果に関する検証

③ カリキュラムマップ（案）に関する検証

④ 動物病院実習ガイドラインに関する助言

体制 ： 代表団体がとりまとめ、動物医療関連の産業界関係者、専門学校関係者、有識者・学識関係者等で構成。

開催回数 ： 3 回（10 月、1 月、2 月/中間報告会）

② 調査項目検討委員会

目的 ： ① 専門学校に向けた実態調査項目の検討及び作成
② 動物病院に向けたヒアリング調査項目の検討及び作成
③ カリキュラムマップ（案）の検討及び作成

体制 ： 委員会リーダーがとりまとめ、動物医療関連の産業界関係者、専門学校関係者、有識者・学識関係者等で構成。

開催回数 ： 6 回（9 月、10 月/2 回、12 月、1月、2 月）

③ 実態調査委員会

目的 ： 動物病院実習ガイドライン作成に必要な情報の収集と整理
① 専門学校 68 校に対するアンケート調査を実施し、実態を把握する
② 11 地域別に専門学校 12 校が、実習を受け入れている 24 動物病院を訪問し、定められたシートを基にヒアリング調査を行い、課題や受け入れ側の意向を把握する。

体制 ： 委員会リーダーがとりまとめ、専門学校関係者、有識者・学識関係者等で構成。

開催回数 ： 2 回（10 月、1 月）

（2） 成果のとりまとめ

・中間成果報告

手法 ： 成果報告書の作成・配布、ホームページでの公開。
成果報告会を開催（平成 30 年 2 月 28 日）。

2-3. 事業成果の継続性について （課題と活用）

（1） 今年度事業で得られた動物病院実習の実態結果と、カリキュラムマップ（案）とを照合し、動物病院実習に関する、実施時期、各実施時期における教育目標と実習細目の検討、実習評価、実習前後の教育措置等を検討し、モデルプランの構築を目指す予定である。

（2） 最終的な事業成果の活用については、一般財団法人 動物看護師統一認定機構において推奨している認定動物看護師養成高位平準コアカリキュラムに科目として設定されている「動物看護総合実習」の実習ガイドラインとして活用するとともに、コアカリキュラム実施状況を確認するために予定されている教育評価にあたり評価レベルとして活用することも想定している。

3. 事業の実施体制及びスケジュール

3-1. 構成員・構成機関等、実施体制

（1）事業実施者の構成

	氏　名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	下薗　惠子	一般社団法人全国動物教育協会 会長	事業責任者	東京都
2	酒井　健夫	公益社団法人　日本獣医師会 副会長	事業推進	東京都
3	佐々木　伸雄	一般財団法人 動物看護師統一認定機構 機構長	実施・事業推進	東京都
4	横田　淳子	一般社団法人　日本動物看護職協会 会長	事業推進	青森県
5	桜井　富士郎	日本動物看護学会 理事長	事業推進	東京都
6	長崎　淳一	一般社団法人　日本小動物獣医師会 理事	事業推進	香川県
7	原　大二郎	公益社団法人　日本動物病院協会 監事	事業推進	愛知県
8	小西　恭一	全日本獣医師協同組合 副理事長	事業推進	大阪府
9	左向　敏紀	全国動物保健看護系大学協会 会長	事業推進	東京都
10	石岡　克己	全国動物保健看護系大学協会	事業推進	東京都
11	西澤　亮治	NPO 法人動物愛護社会化推進協会　事務局長	実施・事業推進	大阪府
12	上野　弘道	日本動物医療センター 院長	事業推進	東京都
13	山下　眞理子	国際動物専門学校・教育担当顧問	実施委員会/調査/実態調査	東京都
14	坂元　祥彦	宮崎ペットワールド専門学校 校長	実施委員会/調査/実態調査	宮崎県
15	荒井　英之	国際ペットワールド専門学校 副校長	実態調査	新潟県
16	坂本　敏	中央動物専門学校 校長	実施委員会/調査/実態調査	東京都
17	杉山　征人	YIC 京都ペット総合専門学校 校長	実施委員会/実態調査	京都府
18	藤原　研一	専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー 教頭	実施委員会/調査/実態調査	静岡県
19	中川　佳代子	愛犬美容看護専門学校 事務長	実態調査	北海道
20	佐藤　絵里砂	大宮国際動物専門学校 教員	実態調査	埼玉県
21	向山　俊一	専門学校ちば愛犬動物フラワー学園 副校長	実態調査	千葉県
22	青木　理子	大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長	実態調査	大阪府
23	田上　真紀	穴吹動物専門学校 教員	実態調査	広島県

24	川邊　大介	河原アイペットワールド専門学校　事務長	実態調査	愛媛県
25	岡村　慎一	学校法人 YIC 学院　理事・統括本部長	実施委員会	京都府
26	楠田　晃	宮崎ペットワールド専門学校　教務課長	実態調査	宮崎県
27	西依　ひとみ	国際動物専門学校　教員	実態調査	東京都

（2）事業実施協力機関等 （企画実施委員会、有識者会議、コンソーシアム等の構成を記載）

① 実施委員会構成員

氏　名	所属・役職
下薗　惠子	一般社団法人　全国動物教育協会　会長
酒井　健夫	公益社団法人　日本獣医師会　副会長
佐々木　伸雄	一般財団法人　動物看護師統一認定機構　機構長
原　大二郎	公益社団法人　日本動物病院協会　監事
長崎　淳一	一般社団法人　日本小動物獣医師会　副会長
桜井　富士朗	日本動物看護学会　理事長
小西　恭一	全日本獣医師協同組合　副理事長
横田　淳子	一般社団法人　日本動物看護職協会　会長
岡村　慎一	学校法人 YIC 学院　理事・統括本部長
杉山　征人	YIC 京都ペット総合専門学校　校長
坂元　祥彦	宮崎ペットワールド専門学校　校長
坂本　敏	中央動物専門学校　校長
西澤　亮治	NPO 法人　動物愛護社会化推進協会　事務局長
藤原　研一	専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー　教頭
左向　敏紀	全国動物保健看護系大学協会　副会長
上野　弘道	日本動物医療センター　院長
山下　眞理子	国際動物専門学校　教育担当顧問

② 調査項目検討委員会構成員

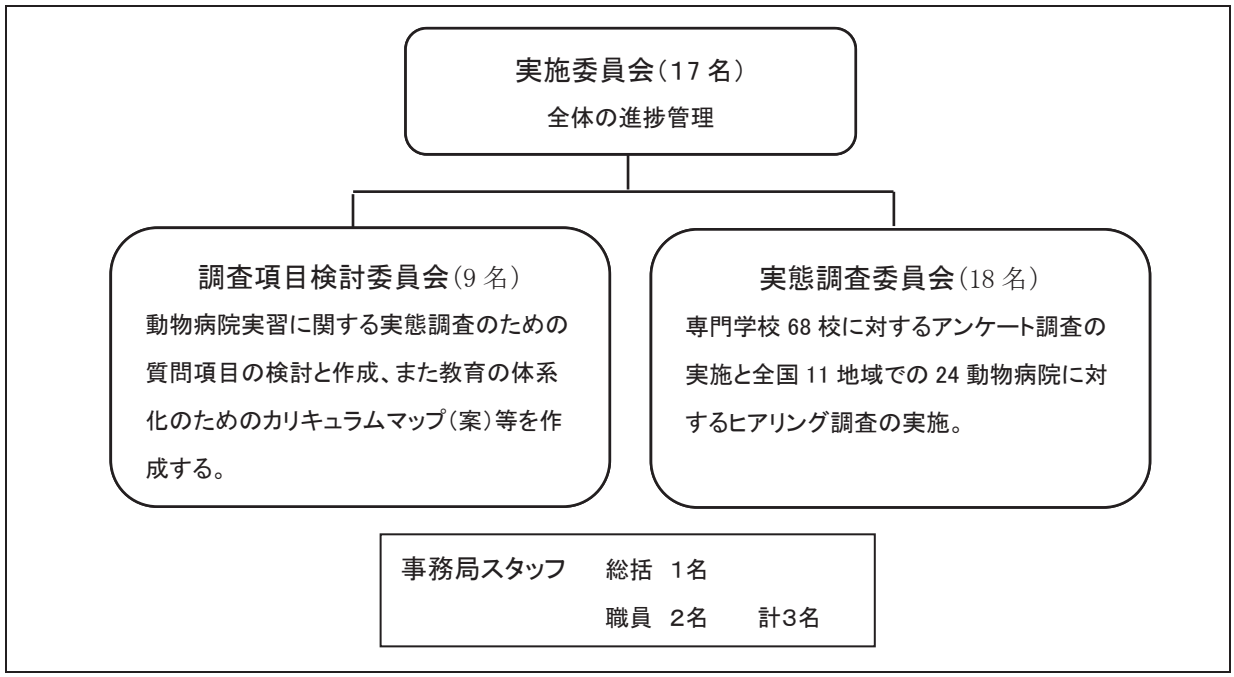
氏　名	所属・役職
佐々木　伸雄	一般財団法人　動物看護師統一認定機構　機構長
原　大二郎	公益社団法人　日本動物病院協会　監事
石岡　克己	全国動物保健看護系大学協会
坂元　祥彦	宮崎ペットワールド専門学校　校長
坂本　敏	中央動物専門学校　校長
西澤　亮治	NPO 法人　動物愛護社会化推進協会　事務局長
藤原　研一	専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー　教頭
下薗　惠子	一般社団法人　全国動物教育協会　会長

山下　眞理子	国際動物専門学校　教育担当顧問

①　実態調査委員会構成員

氏　名	所属・役職
佐々木　伸雄	一般財団法人　動物看護師統一認定機構　機構長
石岡　克己	全国動物保健看護系大学協会
杉山　征人	YIC 京都ペット総合専門学校　校長
坂元　祥彦	宮崎ペットワールド専門学校　校長
楠田　晃	宮崎ペットワールド専門学校　教務課長
西澤　亮治	NPO 法人　動物愛護社会化推進協会　事務局長
青木　理子	大阪ペピイ動物看護専門学校　副校長
坂本　敏	中央動物専門学校　校長
藤原　研一	専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー　教頭
田上　真紀	穴吹動物専門学校　教員
川邉　大介	河原アイペットワールド専門学校　事務長
中川　佳代子	愛犬美容看護専門学校　事務長
向山　俊一	専門学校ちば愛犬動物フラワー学園　事業本部長
荒井　英之	国際ペットワールド専門学校　副校長
下薗　惠子	一般社団法人　全国動物教育協会　会長
山下　眞理子	国際動物専門学校　教育担当顧問
佐藤　絵里砂	大宮国際動物専門学校　教員
西依　ひとみ	国際動物専門学校　教員

3-2. 事業の推進体制



3-3. 事業実施スケジュール

内　　容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
実施委員会				○			○	○
評価項目検討委員会			○	○○		○	○	○
実態調査委員会				○			○	
専門学校アンケート調査				―	―			
動物病院実態調査					―	―		
中間成果報告会								○

3-4. 調査項目の検討及び調整

・専門学校における動物病院実習の実態調査項目の検討

動物病院の実態調査把握に対しては、動物看護学科（及びコース）を設置している学校の設置形態が様々であるため、配慮する必要性があること。また、動物病院実習回数が複数になる事、実施時期も様々である事に配慮し、学年ごとの実習実態調査を実施する事とした。質問項目としては、必要な項目として 15 項目を設定した。また、調査の主旨を理解してもらうために、依頼状を作成し、WEB によるリマインドメールの発信などに務め回収率の向上を図った。この結果、回収率は（61 校/68 校）：回答率 89.7%となり、情報収集にレベルの高い調査となった。

・動物病院に対するヒアリング調査項目の検討

ヒアリング項目を検討する際に、現地を訪問してヒアリングを行う時間が限られている事から、質問項目が重複しない事や、予め入手可能な情報はできるだけ入手しておく事、動物病院ごとの質問に齟齬が出ない事を検討し、ヒアリング担当専門学校に対し、動物病院の選定要件・動物病院データを予め入手できるプロフィールシート作成し、該当動物病院の選定に当たっては、担当専門学校と委託先である株式会社インターズーと協議連携のうえ、該当動物病院を選定した。現地ヒアリング前にプロフィールシートで事前情報を入手したうえで、現地ヒアリングを実施する事とした。

・カリキュラムマップ案の検討及び作成

動物病院実習の標準的なガイドラインを作成するには、動物病院の教育的な位置づけが重要であると考えられる。そのために教育体系の整備を行い、広く周知できるようにカリキュラムマップ（案）の検討と作成を実施した。作成に関しては、1 年次末（春期）と 2 年次夏期の実習を想定して作成をした。今後は各専門学校の実習時期等を勘案し、段階化も踏まえながら修正し標準化を目指す予定である。

・「動物病院実習ガイドライン」草案

実態調査委員会より得られたデータや各資料と、カリキュラムマップを検討し、調査結果情報の活用項目を整理した。事業計画段階で示していた動物病院実習ガイドラインの骨子案にある教育支援ツールを含めた 8 つの分類の情報として纏め、ガイドライン作成にあたる情報の分析を行った。

3-5. 実態調査の実施と取りまとめ

・専門学校に対する動物病院実習実態調査アンケートの実施と取りまとめ

専門学校 68 校に対し、より実用度の高い動物病院実習を目指す目的とそのための指標となる「動物病院実習ガイドライン」の作成に活用するという主旨を理解してもらうために、依頼状を作成し、また回収率を確かなものにするため、メール配信に加え郵送でも同様の調査票を送付し回収にあたった(回収期間:11 月 1 日～12 月 21 日、回答校は対象 68 校のうち 61 校、回答率 89.7%)。

教育支援ツール(実習依頼書・実習受け入れ承諾書、評価表等)については、様式やフォーマットが多岐にわたっている現状が確認できた。また、実習前後の教育的措置等についても、各校の実習目的により様々な活動が行なわれている現状が確認できた。これらの資料を整理し、次年度に有用と考えられるものを抽出した。

■ 調査の目的

本アンケート調査は、動物看護師を養成する専門学校で実施されている動物病院実習について、準備状況、実習内容、実習の評価、学生の学習度合い、満足度、動物病院との連携、就職への関連等、詳細な実施状況と課題等をより正確に把握することを目的にしています。この調査には全国 68 の専門学校に協力をお願いしており、収集した様々な情報を整理・分析し、より実用度の高い学生の実習教育に十分な効果のある「動物病院実習ガイドライン」の作成に役立てることを目的としました。

■ アンケート実施方法

専門学校 68 校へ調査票をメールに添付し、回答およびメールでの返送を依頼。回答率を上げるため、郵送でも同様の調査票を送付。

2017 年 11 月 1 日に委託企業「(株)インターズー」より、11 月 30 日までを回答・返送の締め切りとして依頼。2017 年 12 月 21 日の返送を以て最終締め切りとした。

■ 回答率

回答校は 61 校／68 校に依頼:回答率 89.7%

■ 調査内容

1. 動物病院実習 実施状況について
2. 動物病院実習の目的・内容について
3. 実習を受け入れた動物病院について
4. 実習を受ける動物病院の決定方法について
5. 学生が不安感を持たずに動物病院実習に臨めるような工夫や支援について
6. 実習の事前打ち合わせについて(学校から実習動物病院に対して)
7. 実習の事前打ち合わせについて(実習動物病院から学校に対して)
8. 実習前に行った貴校の学生への教育や指導、準備等について

9. 実習期間中、実習先の動物病院への巡回について
10. 実習終了後に学校が行った対応や取り組みについて
11. 動物病院実習に関して用意をした書類について
12. 動物病院実習に関するトラブルやクレームについて
13. 実習の実施に関して、学校が有している問題点や課題について
14. 動物病院実習をよりうまく進めるために現在工夫している事や、取り組んでいる事について
15. 「動物病院実習ガイドライン」への要望・意見・提案等について

■ 動物病院に対する実態調査の実施と取りまとめ

調査項目検討委員会で協議された実態調査の内容をもとに、現地訪問ヒアリングの際、ヒアリング項目に齟齬が出ない事を最大限に配慮することとし、全ての訪問先に同じ担当者が同行し、担当専門学校が日程調整を実施後、訪問を実施した(期間:11 月～12 月)。

＜訪問先日程と担当者一覧＞

日時	地域	担当専門学校	地域担当者	担当委員	訪問動物病院
11月24日	新潟	国際ペットワールド専門学校	荒井	楠田	A, B 動物病院
11月28日	札幌	愛犬美容看護専門学校	中川	坂本	C, D 動物病院
11月29日	大阪	大阪ペピイ動物看護専門学校	青木	山下	E, F 動物病院
12月1日	京都	YIC京都ペット総合専門学校	杉山	田上	G, H 動物病院
12月4日	福山	穴吹動物看護専門学校	田上	西澤	I, J 動物病院
12月5日	松山	河原アイペットワールド専門学校	川邊	坂本	K, L 動物病院
12月11日	東京	中央動物専門学校	坂本	下薗	M 動物病院
12月14日	宮崎	宮崎ペットワールド専門学校	楠田	荒井	N 動物病院
12月15日					O 動物病院
12月15日	浜松	専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー	藤原	坂元	P, Q 動物病院
12月19日	千葉	専門学校ちば愛犬動物	向山	下薗	R, S動物病院
12月19日	埼玉	大宮国際動物	佐藤	中川	T, U動物病院
12月20日	東京	中央動物専門学校	坂本	青木	V動物病院
12月23日	東京	国際動物専門学校	西依(大木)	西澤	W, U動物病院

第Ⅱ編　実施委員会　活動報告

1. 実施内容

1-1. 実施委員会の目的及び活動内容

本事業では実施委員会の下に「調査項目検討委員」及び「実態調査委員会」の 2 つのWGを設置している。実施委員会では、事業全体の統括として、社会、動物業界、動物医療業界、動物看護師の動向を把握しつつ、認定動物看護師養成教育の質向上を目指し、動物病院実習の精度をより高めるために実習前、実習後の教育も含め「動物病院実習ガイドライン」として示せるよう事業を推進していく。同時に調査項目検討委員会、実態調査委員会の管理、指導を行い、事業成果の取りまとめを行う。

具体的には調査項目検討委員会で検討される専門学校に向けた動物病院実態調査項目及び動物病院に向けた実態および意向調査の内容が動物病院実習ガイドラインの作成に有効で活用可能な情報であるかを判断する。また専門学校、及び動物病院から実態および意向調査で収集した情報・データの調査結果をもとに動物病院ガイドラインの原案作成に向けて方向性を検討する。

1-2. 事業実施スケジュール

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
実施委員会 17名			10月13日 事業説明			1月28日 進捗確認	2月28日 中間報告会
調査項目検討委員会 9名		9月15日 今年度事業目標の確認と事業の活用についての検討	10月6日、19日 動物病院実習の実態調査項目及びヒアリング調査項目の検討		12月27日 実態調査の結果確認～分析	1月26日 ガイドライン作成に必要な情報の整理と検討	2月8日 まとめ
実態調査委員会 18名			10月30日　11月6日 実態調査の内容確認、及び意見のすり合わせ			1月8日、16日 実態調査の振り返り、意見交換	
専門学校実態調査 対象　専門学校68校			10月～11月 総合臨床実習に関する実態調査アンケートの実施				
動物病院実態調査 専門学校12校/11地域から24の動物病院を選出				11月～12月 調査票の回収と現地でのヒアリング実施			

1-3. 実施委員会実施記録

会議名	第 1 回 実施委員会
開催日時	平成 29 年 10 月 13 日（金） 13:00～15:00（2h）
場所	AP品川 10 階 N＋Oルーム 東京都港区高輪 3-25-23 京急第 2 ビル
出席者	① ご来賓 田口大介（所轄省庁：文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課） ② 委員 下薗恵子、酒井健夫、佐々木伸雄、原大二郎、長崎淳一、桜井富士朗、 小西恭一、横田淳子、岡村慎一、杉山征人、坂元祥彦、坂本敏、西澤亮治、左向敏紀、上野弘道、山下眞理子（計 16 名） ③ オブザーバー 佐久間明美（株式会社インターズー） ④ 事務局 黒岩茜、曾田早秋（計 2 名） （参加者合計 20 名／欠席 1 名 藤原研一）
議題等	〈会議の目的〉 「認定動物看護師養成における効果的な連携事業を行うためのガイドライン作成事業」を進めていく上で、適正な事業運営を図るために、方針の確認、及び予算の執行等の重要事項の意思決定、管理を行う。そのために事業全体のフレームとスケジュールについて共有を図る。また、最初に実施する 68 の専門学校を対象にしたアンケート調査、及び動物病院（24 病院）へのヒアリング調査の内容について、より精度を高め効果あるものにするための提案や助言をいただく。 〈会議の次第・内容〉 下薗実施委員長の開会の挨拶の後、田口大介様より、この事業についての概要と目的、ガイドライン作成にあたっての要望事項（汎用性、広範囲な学校での実用度を有するもの）等の説明があった。 各委員の事項紹介、当委員会への参画の目的等もあわせてお話しして頂き、事業概要、事業計画書、ガイドライン作成に向けた実態調査の内容についての検討状況が各委員に説明を行った後、各委員より活発な質問、意見交換が行われた。 〇この実施委員会での各委員からの意見、提案をもとに 10 月 19 日（木）に開催を予定している第 3 回調査項目検討委員会で調査票の内容、及び動物病院へのヒアリング内容を集約することが確認された。

平成 29 年 10 月 13 日　第 1 回　実施委員会　会議風景

文部科学省
生涯学習政策局
生涯学習推進課
田口　大介様より
事業概要説明

会議名	第 2 回 実施委員会
開催日時	平成 30 年 1 月 28 日(金) 13:00～15:00(2h)
場所	AP品川 10 階 E ルーム 東京都港区高輪 3-25-23 京急第 2 ビル
出席者	① ご来賓 ディン ミン フン(株式会社三菱総合研究所 科学・安全事業本部 産業イノベーション戦略グループ) ② 委員 下薗恵子、佐々木伸雄、原大二郎、長崎淳一、小西恭一、横田淳子、岡村慎一、杉山征人、坂元祥彦、坂本敏、西澤亮治、左向敏紀、山下眞理子 (計 13 名) ③ オブザーバー 佐久間明美、芹澤 直人(株式会社インターズー) ④ 事務局 黒岩茜、曾田早秋(計 2 名) (参加者合計 18 名／欠席 4 名:酒井健夫、桜井富士朗、上野弘道、藤原研一)
議題等	〈会議の目的〉 ガイドライン作成に繋がる実態調査が実施され、集計されたデータをもとに検討、意見交換の場として開催する。今後、この集計を分析し、取りまとめを進めていく。 〈会議の次第・内容〉 株式会社三菱総合研究所 ディン様より、専修学校が企業等と連携し効果的な教育手法を開発し、学校・産業界の双方にとって、より効果的な教育を実施するためのガイドラインを作成・共有することが事業の目的であることが再確認の意味も含め説明があった。その後、動物病院実習実態調査／全国の動物系専門学校 68 校へアンケート調査及び動物病院ヒアリング調査、の実施とその結果についての報告があった。調査は以下の 15 項目とし、得られた回答を纏めて提示、報告を行った。 1.動物病院実習 実施状況について 2.動物病院実習の目的・内容について 3.実習を受け入れた動物病院について 4.実習を受ける動物病院の決定方法について 5.学生が不安感を持たずに動物病院実習に臨めるような工夫や支援について 6.実習の事前打ち合わせについて(学校から実習動物病院に対して) 7.実習の事前打ち合わせについて(実習動物病院から学校に対して) 8.実習前に行った貴校の学生への教育や指導、準備等について 9.実習期間中、実習先の動物病院への巡回について 10.実習終了後に学校が行った対応や取り組みについて 11.動物病院実習に関して用意をした書類について

	12.動物病院実習に関するトラブルやクレームについて 13.実習の実施に関して、学校が有している問題点や課題について 14.動物病院実習をよりうまく進めていくために現在工夫していることや、取り組んでいることについて 15.「動物病院実習ガイドライン」への要望・意見・提案等について 上記の専門学校へのアンケートと並行し、全国 11 地域（札幌、新潟、埼玉、東京、千葉、静岡、京都、大阪、愛媛、広島、九州）から選出した 24 の動物病院へ調査票とヒアリングによる調査を実施し、学生を受け入れる側の考えや実習内容等について意見を収集した。実施委員会での意見、提案をもとに専門学校、及び動物病院の動物病院実習の現状の現状把握に努め、効果的で実用性のある動物病院実習ガイドライン作成に向けて次年度以降へ繋げていく。

平成 30 年 1 月 28 日　第 2 回　実施委員会　会議風景

実施委員長
下薗委員より開会挨拶

第Ⅲ編　調査項目検討委員会活動報告

1. 実施内容

1-1. 調査項目検討委員会の目的及び活動内容

調査項目検討委員会では、「動物病院実習」の教育の体系化を図るためにカリキュラムマップ案を作成した。同時により効果的な専門学校における動物病院実習の実態を把握するために、専門学校と動物病院に対する実態調査項目を検討・協議し作成を行った。また専門学校、動物病院それぞれの実態調査から得られたデータを基に分析を行い、次年度事業の核心である「動物病院実習ガイドライン」の草案作成に着手した。

1-2. 調査項目検討委員会実施記録

会議名	第1回 調査項目検討委員会
開催日時	平成 29 年 9 月 15 日(金) 14:00～16:30 (2.5h)
場所	一般財団法人　動物看護師統一認定機構事務局　会議室 東京都文京区本郷　5-23-13　タムラビル 8 階
出席者	① 委員 佐々木伸雄、原大二郎、坂元祥彦、坂本敏、西澤亮治、 藤原研一、下薗惠子、山下眞理子(計 8 名) ② オブザーバー 佐久間明美、芹澤直人(株式会社インターズー・計2名) ③ 事務局 黒岩 茜 (参加者合計 11 名／欠席 1 名:石岡克己)

議題等	〈会議の目的〉 ガイドラインを作成する上で、現状を把握するために実施する実態調査において、68の専門学校を対象にしたアンケート調査、及び動物病院（24病院）へのヒアリング調査における必要な調査内容・項目ついて協議・検討し集約する。 〈会議の次第・内容〉 下薗委員から、今回の事業計画と調査項目検討委員会の役割、スケジュール等について説明があり、各委員の自己紹介後、あらかじめ事務局で用意された調査票案、ヒアリング内容案にそって、協議を行った。 〈協議に際しての確認事項〉 ・株式会社インターズー社に、調査票の発送、集計、ヒアリング調査の実施、集計を委託する。 ・今事業のガイドラインの作成時期が 3 年後の予定であるため、新コアカリで進める ・デュアル事業は、企業（動物病院、動物医療関係企業）と効果的な連携がとれているか、それに沿ったより先進的な教育効果が得られているかが目的。 ・教育支援ツールについては実施委員会での検討事項とする。 〇用語の統一 ・「カリキュラムツリー」は「カリキュラムマップ」に、「実習」は「総合臨床実習」に用語を統一して使用する。 〈専門学校を対象にした調査票の内容についての協議〉 〇協議を行った調査票の内容については、添付資料の〈専門学校への調査票案 2017 年 9 月 15 日版〉を参照。 〈動物病院を対象にしたヒアリング調査の内容についての協議〉 〇協議を行った調査票の内容については、添付資料の〈動物病院へのヒアリング内容案　2017 年 9 月 15 日版〉を参照してください。 〇　各委員への宿題として、動物病院へのヒアリング調査について、具体的な質問項目を 9 月 26 日（火）までに提出する。

平成 29 年 9 月 15 日
第 1 回　調査項目検討委員会
会議風景

会議名	第 2 回　調査項目検討委員会
開催日時	平成 29 年 10 月 6 日（金） 13:00～15:00（2h）
場所	一般財団法人　動物看護師統一認定機構事務局　会議室 東京都文京区本郷 5-23-13　タムラビル 8 階
出席者	①　委員 佐々木伸雄、原大二郎、石岡克己、坂元祥彦、坂本敏、西澤亮治、 下薗惠子、山下眞理子（計 8 名） ② オブザーバー 佐久間明美、芹澤直人（株式会社インターズー・計 2 名） ③ 事務局 黒岩 茜 （参加者合計 11 名／欠席 1 名：藤原研一）

議題等	〈会議の目的〉 ・ガイドラインを作成する上で、現状を把握するために実施する実態調査において、68 の専門学校を対象にしたアンケート調査、及び動物病院（24 病院）へのヒアリング調査における必要な調査内容・項目ついて協議・検討し集約する。9 月 15 日に開催した第 1 回調査項目検討委員会で協議された「調査票案／9 月 15 日版」の検証、加筆修正を行う。 〈会議の次第・内容〉 下薗委員より会議の冒頭で「動物病院実習ガイドライン作成の目的」の共有と確認が行われ、「調査内容案／9 月 15 日版」をもとに、各委員から意見がだされ設問の内容、用語等について詳細な協議検討を行った。 〇調査票発送までのスケジュールについて 10 月 19 日（木）に開催を予定している第 3 回調査項目検討委員会でこの調査票の内容について最終の確認、集約し完成を予定する。次週 10 月 23 日（月）からの週の初めには 68 校へアンケート調査票を発送できるよう作業を進める。 〇そのため、10 月 10 日（火）までに本日の協議によって出された修正、追加事項を反映した調査票案（10 月 6 日版）を各委員に配信、それをもとに 12 日（木）までに各委員でチェックを行い、追加の訂正を提出する。 〇動物病院のヒアリング調査案についても 10 月 16 日（月）までに、各委員で確認し、訂正・追加事項を提出する。

平成 29 年 10 月 6 日　第 2 回　調査項目検討委員会　会議風景

会議名	第 3 回 調査項目検討委員会
開催日時	平成 29 年 10 月 19 日（金） 10:00～12:00 （2h）
場所	一般財団法人 動物看護師統一認定機構事務局 会議室 東京都文京区本郷 5-23-13 タムラビル 8 階
出席者	① 委員 佐々木伸雄、石岡克己、坂元祥彦、坂本敏、西澤亮治、 藤原研一、下薗惠子、山下眞理子（計 8 名） ② オブザーバー 佐久間明美、芹澤直人（株式会社インターズー・計 2 名） ③ 事務局 黒岩 茜 （参加者合計 11 名／欠席 1 名：原大二郎）
議題等	〈会議の目的〉 ・専門学校へ送付する調査票案について、これまでの会議で示された調査票案についての意見交換を踏まえ、集約を行う。集約後、専門学校への依頼に関わる送付状、手順、回収率を上げるための工夫、等について協議を行う。1 校でも多くの学校から回答が得られるよう、その視点からも設問の設定を行う。 〈会議の次第・内容〉 前回、「調査内容案／10 月 6 日訂正版」をもとに、各委員から意見がだされ、完成版に向けた最終の設問の内容、用語等について協議、修正作業を行い、集約を図った。あわせて、調査票の発送～回収時期、得られたデータの集計についてもスケジュールの確認を行った。

平成 29 年 10 月 19 日 第 3 回 調査項目検討委員会 会議風景

会議名	第 4 回 調査項目検討委員会
開催日時	平成 29 年 12 月 27 日（水） 13:00～15:00（2h）
場所	国際動物専門学校　4 階　会議室 東京都世田谷区上馬　4−3−2
出席者	②　委員 佐々木伸雄、原大二郎、坂元祥彦、坂本敏、西澤亮治、藤原研一、 下薗惠子、山下眞理子（計 8 名） ② オブザーバー 佐久間明美、芹澤直人（株式会社インターズー・計2名） ③ 事務局 黒岩 茜 （参加者合計 11 名／欠席 1 名：石岡克己）
議題等	〈会議の目的〉 専門学校 68 校へ送付したアンケート調査の回収～データ整理状況の確認。今回広範囲な情報、データが収集できたため、どのように整理分析しガイドラインの草案作成に活かすかの意見交換と協議を行う。 〈会議の次第・内容〉 下薗委員から、61 の専門学校から回答を得たアンケートデータの整理状況と、並行して実施された動物病院へのヒアリング調査状況について報告があった。 用意された現時点で整理された情報について 委員での意見交換を行い、その傾向や分析の方法について協議を行った。

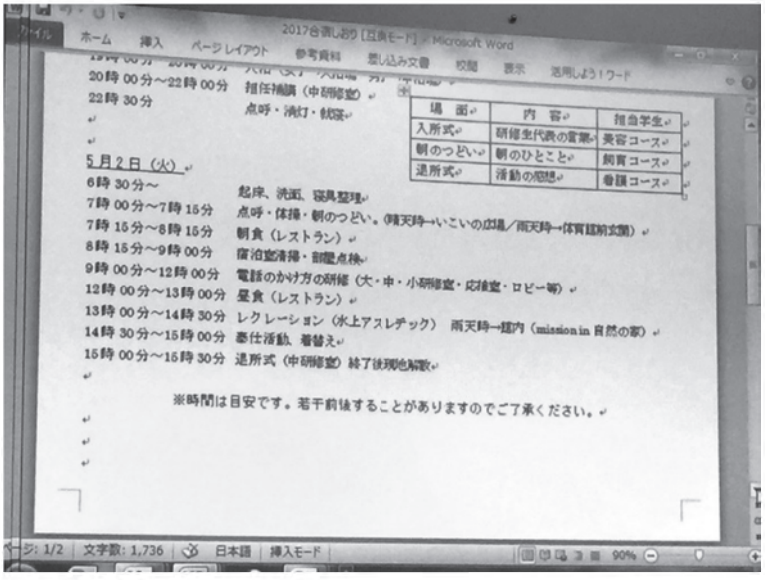
平成 29 年 12 月 27 日　第 4 回　調査項目検討委員会　会議風景

会議名	第 5 回 調査項目検討委員会
開催日時	平成 30 年 1 月 26 日(金)　　15:00～17:00(2h)
場所	一般財団法人　動物看護師統一認定機構事務局　会議室 東京都文京区本郷 5-23-13　タムラビル 8 階
出席者	③　委員 佐々木伸雄、:原大二郎、石岡克己、坂元祥彦、坂本敏、西澤亮治、 藤原研一、下薗惠子、山下眞理子(計 9 名) ② オブザーバー 佐久間明美(株式会社インターズー) ③ 事務局 黒岩 茜 (参加者合計 11 名)
議題等	〈会議の目的〉 専門学校のアンケート調査から得られた情報の集約とそこから導き出される課題について意見交換、協議を行う。また動物病院実態調査によって得られた情報、データについても、課題を抽出し、動物病院実習の実態に関する、専門学校側、動物病院側それぞれについて検討～集約を図る。 〈会議の次第・内容〉 前回に続き、回答から得られた多岐にわたる情報について、各委員から意見がだされ、それぞれの設問の回答についての分析を行った。また中間実績報告の作成を準備するために、報告事項の整理とスケジュールの確認を行った。

平成 30 年 1 月 26 日　第 5 回　調査項目検討委員会　会議風景

会議名	第 6 回 調査項目検討委員会
開催日時	平成 30 年 2 月 8 日（木） 13:00～17:00（4h）
場所	一般財団法人　動物看護師統一認定機構事務局　会議室 東京都文京区本郷 5-23-13　タムラビル 8 階
出席者	④　委員 佐々木伸雄、原大二郎、石岡克己、坂元祥彦、坂本敏、西澤亮治、 下薗惠子、山下眞理子（計 8 名） ② オブザーバー 佐久間明美、芹澤直人（株式会社インターズー・計 2 名） ③ 事務局 黒岩 茜 （参加者合計 11 名／欠席 1 名：藤原研一）
議題等	〈会議の目的〉 初年度の実態調査の結果集約と中間発表に向けての課題整理。抽出された情報について、各委員の考察、意見を交換し、集約を行った。 〈会議の次第・内容〉 収集したデータ、情報をどのように分析し課題の抽出、次年度の計画、について、細かくチェックを行い、各委員方の意見、提案をもとに集約を図った。 中間実績報告に向けては、重要な課題点、検討すべき事項について協議を行い、専門学校側では、実習前、実習中、実習後、それぞれでの各校での取り組み、課題・、問題点を整理した。学生数の違い、動物病院と連携、実習の内容・時間、実習後のフォロー体制についても違いがあることが把握できた。 動物病院側では、特にヒアリング調査で収集されたデータの整理、重要な事項の抽出に重点をおいた。24 の動物病院から得たヒアリング内容を全て文字に起こし、その内容の把握に努めた。動物病院の方針、責任者（院長）の考え方の違いから、学生が実際に受けている実習内容も様々であることが再確認された。また多くの動物病院で学生の実習受け入れが動物病院の新人動物看護師を採用する機会となっていることも確認され、専門学校側、学生、動物病院、それぞれの立場での状況の分析と考察が今後のガイドライン作りに重要なポイントであることが確認、共有された。 2 月 28 日の中間報告、3 月初旬の文科省への報告など、スケジュールの確認と合わせ成果と取りまとめについて最終的な集約を行った。

平成 30 年 2 月 8 日
第 6 回　調査項目検討委員会
会議風景



各校から提供された「教育支援ツール」等の資料についても、プロジェクターを用いて委員全員で共有し、その特徴や効果について協議を行った。

2. 検討結果

2-1. 認定動物看護師新コアカリキュラム　カリキュラムマップ

動物病院実習の標準的なガイドラインを作成するには、動物病院実習の教育的な位置づけが重要であると考えられる。そのために教育体系の整備を検討し、広く周知できるようにカリキュラムマップ（案）の検討と作成を実施した。

作成に関しては、一年次末（春）と 2 年次夏期の実習を想定した。今後は各専門学校の各実習時期等を勘案しながら修正し標準化を目指す予定である。

2019 年 4 月から統一認定試験受験対象校である大学 8 校、専門学校 68 校で採用される動物看護師養成高位平準新コアカリキュラム（以下「新コアカリ」）は、「基礎動物看護学」「応用動物看護学」「臨床動物看護学」「実習」の 4 分野から為り、全 28 科目から構成されている。新コアカリ総時間数は 1,650 時間とされ、これを修得すると共に専門学校においては各校の特色を活かした科目 630 時間を加えて総計 2,280 時間の授業時数となっている。また、大学においては単位制の定める学習時間とすることとされている。

新コアカリでは、「習得した知識の実践力を身につける」を学習目標とする「動物看護総合実習」として 180 時間が設定されており、90 時間以上を動物病院での実習とすることが望ましいとされる。

この「動物看護総合実習」の実施時期を一年次末（春）と 2 年次夏期に想定したカリキュラムマップ（案）を作成した。この時期に行われる実習前までに「修得していたほうが良い」と思われる科目の「いつ授業するか」という時期を新コアカリ表中に線で表した。カリキュラムマップは、受け入れ先となる動物病院にとっても受け入れる学生が、どのような分野（科目）について知識を持ち、どの程度の技術を修得しているのかが明示されるため指導時にも有効ではないかと思われる。

「1 年春」の実習までには「動物形態機能学」「動物感染症学」「動物看護学概論」「公衆衛生学」「動物臨床栄養学」「動物臨床検査学」など基礎的な知識とともにそれに関わる実習の基礎授業を設定し、加えて、動物に直接接する時に必要となる「動物福祉・倫理」や「伴侶動物学」も設定した。

また、サービス業である動物病院では院内スタッフや飼い主にたいするコミュニケーション力が必要とされ、動物病院実習指導者からも要求されることが多いことから「動物医療コミュニケーション」も 1 年次に学習することとした。

2 年次夏期の実習時には、疾病の成り立ちや動物の臨床看護に必要な知識を修得し、動物病院業務に必要な知識を修得するための科目を学習していることとした。

認定動物看護師養成新コアカリキュラム対応カリキュラムマップ

臨床実習対応プラン

分野	学習目標	授業科目（例）	時間数	1年生		2年生		概要	キーワード
				前期	後期	前期	後期		
基礎動物看護学	動物の体の構造と機能を理解する	動物形態機能学	120	―	―			動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。	細胞、組織、遺伝子、循環器、呼吸器、消化器、内分泌、泌尿器、神経、運動器、造血器、皮膚、感覚器
		動物繁殖学	30			―		繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。	雄性生殖器、雌性生殖器、性周期、交配、妊娠、分娩、新生子管理、遺伝学概論
	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	動物病理学	30			―		様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	組織標本の作製法、炎症、変性、壊死、浮腫、充血、うっ血、過形成、低形成、肥大、萎縮、奇形、腫瘍
		動物薬理学	60			―	―	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	投薬法、投薬量計算、薬物動態、半減期、代表的な治療薬とその作用、副作用、薬物間相互作用、耐性、中毒、薬剤管理
		動物感染症学	90	―	―			微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。	細菌、真菌、ウイルス、原虫、吸虫、条虫、線虫、節足動物、自然免疫、獲得免疫、ワクチン、アレルギー、滅菌、消毒、衛生管理
応用動物看護学	人と動物の調和に関わることを学ぶ	動物看護学概論	60	―	―			獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	獣医療の歴史、動物看護の歴史、資格制度、職域、職務範囲、動物看護者の倫理綱領、獣医療倫理、インフォームドコンセント
		動物医療関連法規	30				―	動物や獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。	獣医師法、獣医療法、動物の愛護及び管理に関する法律、ペットフード安全法、身体障害者補助犬法、狂犬病予防法、感染症法、家畜伝染病予防法、鳥獣保護管理法、等
		公衆衛生学	60	―		―		環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	環境衛生、食品衛生、食中毒、疫学、人獣共通感染症、薬剤耐性菌
		人間動物関係学	30				―	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。	人と動物の関係、動物介在活動（AAA）、動物介在療法（AAT）、動物介在教育（AAE）、使役動物、補助犬
		動物福祉・倫理	30	―				動物愛護や動物福祉（アニマルウェルフェア）、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。	動物愛護、動物福祉（アニマルウェルフェア）、生命倫理、5つの自由、3つのR、安楽死
		動物行動学	30			―		犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	維持行動、発達過程、社会化、学習理論、問題行動、行動治療
	様々な動物の特性と人との関わりを理解する	伴侶動物学	60	―	―			伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチック動物の生態について学ぶ。	伴侶動物の種類、品種、飼育管理法（犬、猫、フェレット、ウサギ、ハムスター、飼鳥、等）
		産業動物学	45				―	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ。	産業動物の種類、品種、飼養管理法、畜産業（馬、牛、綿羊、山羊、豚、鶏）
		実験動物学	15				―	実験動物の歴史や品種、飼育管理法、動物実験との関わりについて学ぶ。	実験動物の種類、飼育管理法、遺伝的コントロール、微生物学的コントロール、環境コントロール
		野生動物学	30				―	日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ。	野生動物の種類、外来生物、展示動物、鳥獣害、保全、絶滅危惧種、レッドリスト、動物園の役割
臨床動物看護学	動物の臨床看護に必要な知識を修得する	動物内科看護学	30	―				犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。	保定、身体検査、バイタルチェック、採血法、採尿法、投薬法、輸液、輸血
		動物外科看護学	60		―			外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	動物の術前管理、手術室管理、滅菌消毒法、術前準備、麻酔法、手術器具、術中管理、術後管理、包帯法、救急救命法、理学療法
		動物臨床看護学総論	30		―			動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	事例、チーム獣医療、動物看護過程、動物看護記録、QOL、ターミナルケア
		動物臨床看護学各論	120				―	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。	循環器疾患、呼吸器疾患、栄養代謝性疾患、消化器疾患、泌尿器疾患、内分泌疾患、生殖器疾患、整形外科疾患、皮膚疾患、神経疾患、眼疾患、造血器疾患、腫瘍、免疫介在性疾患、感染症、救急疾患、等
	動物病院業務に必要な知識を修得する	動物臨床栄養学	60	―		―		5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。	5大栄養素、食性、ライフステージ、給餌計算、肥満、削痩、ボディコンディションスコア、総合栄養食、療法食、強制給餌法、経管栄養法、静脈栄養法
		動物臨床検査学	60	―	―			様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する。	血液検査、尿検査、糞便検査、細胞診、病理組織検査、遺伝子検査、心電図、X線検査、放射線防護、CT/MRI、超音波検査、内視鏡、神経学的検査、皮膚検査、眼科検査
		動物医療コミュニケーション	30	―	―			日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。	クライアントエデュケーション、院内コミュニケーション、病院マネージメント、グリーフケア
実習	修得した知識の実践力を身につける	動物形態機能学実習	45	―	―			動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	顕微鏡操作法、標本による骨格形態と機能の理解、模型による内臓形態と機能の理解、主要臓器の組織像観察
		動物内科看護学実習	90	―		―		犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得	グルーミング、口腔内衛生管理、爪切り、肛門嚢絞り、耳掃除、基本的トレーニング法、飼育環境整備、POMR、SOAP、保定、身体検査、バイタルチェック、採血、採尿、注射、留置針設置、輸液、輸血
		動物臨床検査学実習	90	―			―	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	血液検査（血球検査、生化学検査）、尿検査、糞便検査、細胞診、心電図、X線検査、超音波検査、神経学的検査、皮膚検査、眼科検査
		動物外科看護学実習	90		―	―	―	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	手術準備（動物・手術器具）、術中管理、術後管理、抜糸、包帯法、麻酔準備、麻酔監視、手術助手、創傷管理、歯科処置、救急救命
		動物臨床看護学実習	45			―	―	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	動物看護過程、動物看護記録、入院動物看護、褥瘡管理、栄養管理、痛みの評価
		動物看護総合実習	**180**		**1年春**	**2年夏**		動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。	インターンシップ（90時間以上を動物病院での実習とするのが望ましい）
		計	1,650	―	900	―	750		

注1）時間数は専修学校においては授業時数、大学においては単位制の定める学修時間とする。

注2）上記コアカリキュラムを修得するとともに、専修学校においては各校の特色を活かした科目（630時間）を加えて**総計2,280時間**の授業時数、大学においては資格認定時に各校が定める卒業要件相当の学修をそれぞれ必要とする。

注3）キーワードは各科目の概要を理解するための補助として記載したものであり、対応する科目の内容全てを網羅するものではない。

注4）臨床技術に関する実習は症例動物を対象としたものではなく、学内飼育動物または代替教材等を活用して実施する。

2-2. 専門学校を対象とした動物病院実習の実態調査　調査票

専門学校を対象とした動物病院実習の実態調査 **調査票**

文部科学省委託事業
平成29年度「専修学校による地域産業中核的人材育成事業」
認定動物看護師養成における効果的な連携事業を行うためのガイドライン作成事業

□ 実施主体　一般社団法人　全国動物教育協会
□ 委託事業者　株式会社インターズー

調査業務、及び集計業務は株式会社インターズーに委託して実施しています

株式会社インターズー　　担当：佐久間明美　芹澤直人
電話：03-6407-9690　メール：sakuma@interzoo.co.jp　serizawa@interzoo.co.jp
〒151-0062　東京都渋谷区元代々木町 33-8　元代々木サンサンビル 2F

□ 調査の目的・主旨

このアンケート調査は、動物看護師を養成する専門学校で実施されている動物病院実習について、準備状況、実習内容、実習の評価、学生の学習度合い、満足度、動物病院との連携、就職への関連等、詳細な実施状況と課題等をより正確に把握することを目的にしています。この調査には全国 68 の専門学校様に協力をお願いしており、収集した様々な情報を整理・分析し、より実用度の高い学生の実習教育に十分な効果のある「動物病院実習ガイドライン」の作成に役立てます。調査票の回答にご協力をよろしくお願い致します。

□ 回答の記入方法に関するお願い

設問には、あてはまるものにひとつだけに［○］印をつけていただくものと、あてはまるものすべてに［○］印をつけていただく【複数回答】があります。また、回答を記述していただく設問もありますので、記入もれのないようにお答えください。ただし、回答が難しい設問については、可能な範囲での回答、もしくは空欄のままでもかまいません。

※貴校名・担当者様の御名前は、調査票の最後のページにご記入ください。
※記述回答については、随意に回答スペース枠を広げてご回答ください。

□ 回答の締め切り

ご記入いただきました調査票は 2017 年 11 月 30 日（木）まで に以下のメールアドレス宛にお送りください。

●返送先メールアドレス sakuma@interzoo.co.jp　（株式会社インターズー　佐久間 宛）

□ 調査票により取得した情報の守秘事項について

この調査票に御回答いただいた内容は厳重な管理の下にすべて統計的に処理しますので、学校名や個人を特定する情報が外部に公表されることはございません。また外部の組織・個人に対して譲渡・開示することはありません。

調査の結果は、報告書に取りまとめ、2018 年 2 月下旬に開催を予定している「中間報告会」で発表いたします。また一般社団法人全国動物教育協会のホームページでも公開しますが、学校名や個人を特定する情報が公開されることはありません。

□ 今回の調査に関する問い合わせ先

文科省委託事業事務局　一般社団法人 全国動物教育協会 事務局　担当：黒岩
電話：03-5430-5121　メール：zendoukyou@iac.ac.jp
〒154-0011　東京都世田谷区上馬 4-3-2（国際動物専門学校内）

1

専門学校を対象とした動物病院実習の実態調査 **調査票**

貴校の 平成28年度の動物病院実習 についてお聞きします。(1_ ～11_)

1. 平成28年度の動物病院実習 実施状況についてご記入ください。

※「学生総数」は、統一認定試験受験対象の動物看護系学科もしくはコースの学生数を記入してください。

1年次	[ ]実施した ●1年生学生総数 ( )人 ●実習参加学生数 ( )人	実習を実施した時期は？	
		実習期間、時間は？	( )日間 ／ 1日( )時間
		学習目標を設定しましたか？	[ ]した [ ]していない
		実習の評価はしましたか？	[ ]した [ ]していない
		学生が実習先動物病院に就職を希望した割合は？	[ ]～2割 [ ] 3～4割 [ ]5～6割 [ ] 7～8[ ]9割～
	[ ]実施しなかった	実施しなかった理由は？	
2年次	[ ]実施した ●2年生学生総数 ( )人 ●実習参加学生数 ( )人	実習を実施した時期は？	
		実習期間、時間は？	( )日間 ／ 1日( )時間
		学習目標は設定しましたか？	[ ]した [ ]していない
		実習の評価はしましたか？	[ ]した [ ]していない
		学生が実習先動物病院に就職を希望した割合は？	[ ]～2割 [ ] 3～4割 [ ]5～6割 [ ] 7～8割 [ ] 9割～
		実際に実習先動物病院へ就職した学生数は？	[ ]～2割 [ ] 3～4割 [ ]5～6割 [ ] 7～8割 [ ] 9割～
	[ ]実施しなかった	実施しなかった理由は？	
3年次	[ ]実施した ●3年生学生総数 ( )人 ●実習参加学生数 ( )人	実習を実施した時期は？	
		実習期間、時間は？	( )日間 ／ 1日( )時間
		学習目標は設定しましたか？	[ ]した [ ]していない
		実習の評価はしましたか？	[ ]した [ ]していない
		学生が実習先動物病院に就職を希望した割合は？	[ ]～2割 [ ] 3～4割 [ ]5～6割 [ ] 7～8割 [ ] 9割～
		実際に実習先動物病院へ就職した学生数は？	[ ]～2割 [ ] 3～4割 [ ]5～6割 [ ] 7～8割 [ ] 9割～
	[ ]実施しなかった	実施しなかった理由は？	

2. 動物病院実習は、どのような目的、内容で実施されましたか？

年次別に、動物病院実習の目的と内容をできるだけ具体的にご記入ください。

	動物病院実習の目的	動物病院実習の内容
1年次		
2年次		
3年次		

2

3. 平成28年度に実習を受け入れた動物病院についてご記入ください。

3－1. 貴校の学生実習を受け入れた動物病院数は？

（　　）病院

3－2. 動物病院に勤務している獣医師数（院長含む）は？※獣医師数の常勤・非常勤は不問

1人　（　　）病院
2～5人　（　　）病院
6人以上　（　　）病院
不 明　（　　）病院

3－3. 動物病院に勤務している認定動物看護師数は？※認定動物看護師の常勤・非常勤は不問

1～2人　（　　）病院
3～6人　（　　）病院
7人以上　（　　）病院
不 明　（　　）病院

3－4. 動物病院がこれまでに貴校の実習学生を受け入れている継続年数は？

1年（新規）　（　　）病院
2～5年　（　　）病院
6年以上　（　　）病院
不 明　（　　）病院

3－5. 動物病院が1回の実習で受け入れた貴校の学生数は？

1名　（　　）病院
2～3名　（　　）病院
4名以上　（　　）病院
不 明　（　　）病院

3－6. 実習先の動物病院へ実習指導料、もしくは謝礼金を支払いましたか？

［　］支払った

→ 支払っている実習動物病院の件数（　　）病院

［　］支払っていない

3－7. 学生の動物病院でのアルバイト(報酬有)を正規の動物病院実習として認めていますか？

[ ] 認めている

→ その学生の動物病院実習に対する評価は行っていますか？

[ ] 評価を行っている

→ どのような方法で評価しているか具体的にご記入ください

[ ] 評価は行っていない

[ ] 認めていない

[ ] その他 (　　)

3－8. 平成26年、27年、28年の3年間で、実習動物病院のうち、貴校の学生を採用した動物病院の件数をご記入ください。

全実習動物病院 (　　)病院のうち (　　)病院が学生を採用

4. 貴校の学生が実習を受ける動物病院の決定方法についてお聞かせください。

4－1. 実習動物病院の選定に関し、実習前に学生と事前の相談の機会を設けましたか？

[ ] 設けた

[ ] 設けていない

4－2. 実習動物病院はどのような方法で決定しましたか？

[ ] 学生が自主的に探して決めている

[ ] 学校が主導して学生の実習先動物病院を決めている

[ ] 原則学生が主体的に決めているが、学校で支援する場合もある

[ ] その他(　　)

4－3. 学生の実習を受け入れる動物病院を確保するために、学校ではどのような活動や取り組みを行いましたか？

[ ] 行った → 下記にその活動や取り組み内容をご記入ください

(例)地元の獣医師会へ協力を依頼した。獣医師の学会やセミナー等で広報を行った。等

[ ] 特に行っていない → その理由をご記入ください

5. 貴校の学生が不安感を持たずに動物病院実習に臨めるような工夫や支援を行いましたか？

[ ] 行った → その内容をお知らせください 【複数回答】

[ ] 事前説明会、オリエンテーション等の実施
[ ] 実習動物病院に関する情報の提供
[ ] 実習に関わる特別授業の実施
[ ] 先輩動物看護師からのアドバイス、情報の提供
[ ] その他（ ）

[ ] 特に行っていない → その理由をご記入ください

6. 実習先の動物病院と事前に打ち合わせを行いましたか？〈 学校から実習動物病院に対して 〉

[ ] 行った →その内容をお知らせください 【複数回答】

[ ] 実習目的・到達目標の提示
[ ] 実習内容に関する要望・提案
[ ] 実習の期間・時間について
[ ] 実習の動物病院側の担当者について
[ ] 学生情報の提供（履修状況、成績、通勤ルート、時間等）
[ ] 実習での注意事項、動物病院の就業規則等について
[ ] 学生の保険加入状況、その保険のカバー範囲について
[ ] 学校側の緊急の場合の担当者、連絡先について
[ ] 実習終了後の評価と回収の方法について
[ ] その他（ ）

[ ] 特に行っていない → その理由は？（ ）

7. 実習先の動物病院から事前に貴校に対して学生の受け入れに関する注意事項、受け入れ要綱などの提示はありましたか？ 〈 実習動物病院から学校に対して 〉

[ ] 提示があった → 提示があった動物病院数 （ ）病院
動物病院から提示を受けた内容をお知らせください 【複数回答】

[ ] 職場のルール・方針など
[ ] 実習の時間・スケジュール、内容について
[ ] 実習学生に関する情報提供の依頼（履修状況、成績、通勤時間等）
[ ] 動物病院の実習担当者
[ ] その他（ ）

[ ] 特に提示はなかった

8. 実習前に行った貴校の学生への教育や指導、準備等についてお聞かせください。

8－1. 動物病院実習に関わるカリキュラムマップを整備しましたか？

※カリキュラムマップとは、どの授業科目でどのような知識・技術が習得されるかの相関関係を表す一覧表にしたものになります。動物病院実習までにどのような授業科目で何を学んでいるかを明確にできる資料になります。

[ ] 整備した
[ ] 整備していない

8－2. 実習日誌などの報告書の規定について整備しましたか？

[ ] 整備した
[ ] 整備していない

8－3. 実習前教育として特別授業等を実施しましたか？

[ ] 実施した
[ ] 実施していない

8－4. 実習前教育で特に注力した指導項目、内容、教科はありましたか？

[ ] あった →その内容をお知らせください 【複数回答】

[ ] マナー（挨拶・言葉使い・身だしなみ等）
[ ] マナー（SNS、携帯電話等での情報発信、写真の撮影）
[ ] 看護実技の復習・確認
[ ] 動物病院で予定されている実習内容の復習
[ ] 連絡・報告の徹底
[ ] 守秘義務、守秘事項について
[ ] 特に注力した教科（ ）
[ ] その他（ ）

[ ] 特になかった

8－5. 動物病院実習の意義・目的についての指導は十分に行いましたか？

[ ] 行った
[ ] 行っていない その理由は？（ ）

8－6. 動物病院での実習に能力・スキルのレベルが違していない、または実習が困難と思われる学生には、どのような対応をとりましたか？具体的にご記入ください。

8－7. 実習中における緊急時の連絡方法、連絡先は事前に学生へ提示しましたか？

[ ] 提示した

[ ] 提示していない

8－8. 実習を受けた学生は、学校で保険に加入しましたか？

[ ] 保険に加入した

→ 加入した保険の種類（ ）

加入した学生の割合 約（ ）%

[ ] 保険には加入しなかった → その理由は？（ ）

8－9. その他、学生に対して行った取組みや工夫がありましたらその内容をご記入ください。

9. 貴校の学生の実習期間中、実習先の動物病院へ巡回を行いましたか？

[ ] 巡回を行った → 巡回を行ったのはどなたですか？

[ ] 担任の教員

[ ] 就職課の担当者

[ ] 教職員全員で分担

[ ] その他（ ）

→ 巡回を行った実習動物病院の件数は？

（ ）病院 全体の（ ）%

→ 巡回を行った目的は？【複数回答】

[ ] 学生の実習状況の把握、激励

[ ] 巡回者（教員）自身の実習動物病院の把握

[ ] 実習先動物病院の責任者（院長）への挨拶

[ ] 実習先動物病院の実習指導者への挨拶と状況確認

[ ] トラブルやクレームへの対応

[ ] その他（ ）

[ ] 巡回は行っていない → その理由は？（ ）

10. 実習終了後に学校が行った対応や取り組みについてお聞かせください。

10－1. 実習を受けた学生の評価方法について

[ ] 実習動物病院が評価したものを、そのまま学校の評価として使用した
[ ] 実習動物病院が評価したものに、学校の評価を加えて総合的に評価した
[ ] その他の方法で評価した（ ）
[ ] 実習の評価はしなかった → その理由は？（ ）

10－2. 実習先の動物病院に対する対応・取り組みについて【複数回答】

[ ] 実習を受けた学生の評価を依頼
[ ] 評価結果の回収を依頼
[ ] 実習を受けた学生の感想、意識の変化など実習効果のフィードバック
[ ] その他（ ）

10－3. 貴校の学生に対する対応・取り組みについて【複数回答】

[ ] 十分なヒアリング（実習の振り返り）
[ ] 評価後の面談と課題の再設定
[ ] その他（ ）

10－4. 動物病院実習を受けた学生を評価した際、学生自身の成長や意識の向上のために、学校が工夫をしたこと、気を付けたこと等がありましたらご記入ください。

11. 動物病院実習に関して用意をした書類についてお聞かせください

11－1. 学生が実習を受ける動物病院に対して、用意をした書類はどれですか？【複数回答】

[ ] 実習内容が記載された依頼書
[ ] 実習内容が記載されていない依頼書
[ ] 協定書
[ ] 履歴書
[ ] （実習学生の）評価書
[ ] カリキュラム表
[ ] その他（ ）

11－2. 実習を受ける学生に対して、用意をした書類はどれですか？【複数回答】

[ ] 誓約書
[ ] （実習病院への）御礼状
[ ] 実習の報告書
[ ] 実習後の感想文
[ ] 評価書
[ ] その他（ ）

8

貴校がこれまで（平成28年度に限りません）に実施した動物病院実習、及び現在の状況についてお聞きします（12. ～15. ）

12. 動物病院実習に関するトラブルやクレームについてお聞かせください。

12－1. これまでに貴校の学生を受け入れた実習動物病院から、トラブルやクレームの報告を受けたことはありますか？

[ ] ある → その内容と、対応について、具体的にご記入ください

[ ] 特にない

12－2. これまでに実習中の学生からトラブルやクレームの報告を受けたことはありますか？

[ ] ある → その内容と対応について具体的にご記入ください

[ ] 特にない

12－3. その他、これまでに動物病院実習に関するトラブルやクレーム、事故等の発生がありましたら、その内容や対応についてご記入ください。

13. 動物病院実習の実施に関して、現在貴校が有している問題点や課題をお聞かせください。

14. 貴校が動物病院実習をよりうまく進めていくために現在工夫していることや、取り組んでいることがありましたらお聞かせください。

15. この調査票の結果を参考に、より学生への教育効果、動物病院での就業に役立つ「動物病院実習ガイドライン」の作成を予定しています。この「動物病院実習ガイドライン」について、要望や意見、提案等がございましたらお聞かせください。

以下に貴校名と御担当者様をご記載ください。

貴校名

御担当者様

調査票への御回答 ありがとうございました。

この調査票は sakuma@interzoo.co.jp （株式会社インターズー 佐久間 宛）に

メールにてご返送ください。

2-3. 動物病院を対象とした動物病院実習の実態調査　ヒアリング調査票

動物病院を対象にした動物病院実習の実態調査 ヒアリング調査票

1. 貴院の学生の動物病院実習の受け入れについてお聞きします。

1－1.　学生を受け入れるようになってから何年になりますか？

- □ 1年(昨年から受け入れを始めた)
- □ 2～4年
- □ 5～9年
- □ 10年以上

1－2.　1年に平均何人の学生を受け入れていますか？

- □ 1人
- □ 2人～3人
- □ 4人～7人
- □ 8人以上

1－3.　これまでに累計で何人の学生を受け入れましたか？

- □ 10人未満
- □ 10人以上
- □ 20人以上
- □ 30人以上

1－4.　学生の受け入れはどの学校から？全て聞かせください。

- □ 1校のみ　学校名(　　)
- □ 2校から　学校名(　　)(　　)
- □ 3校から　学校名(　　)(　　)(　　)
- □ 4校から　学校名(　　)(　　)(　　)(　　)

1－5.　貴院が学生の実習を受け入れている理由、目的をお聞かせください。【複数回答】

- □ 学校から依頼されたので
- □ 学生から直接依頼があったので
- □ 動物病院の現場での実習が学生にとってとても大事な教育になると考えているので
- □ スタッフが学生に直接指導することは、スタッフ自身にとっても勉強になると考えているので
- □ 受け入れた実習学生の能力や資質を見ることができ、採用・内定に繋がる良い機会と考えているので
- □ 学生を受け入れると、動物病院の犬舎・猫舎の清掃や洗濯などスタッフの業務が軽減されるので
- □ その他(　　)

1

動物病院を対象にした動物病院実習の実態調査 **ヒアリング調査票**

【インタビュー内容】
＜主なポイント＞
・汎用性のあるガイドライン作成のため、年によって、学校によって、実習内容に統一性があるか（ムラがないか）を知る
・動物病院が重要視している、実習の目的を知る

＜質問事項＞
①「実習人数が多すぎる」など受け入れに無理はないか？

1-1 の質問で 2 年以上と答えた病院に対して
②継続して受け入れている場合：毎年同様の実習内容か、毎年変えているか？
③継続して受け入れている場合：長年受け入れている中で、学校や学生の変化に気づいたことはあるか？

1-4 の質問で 2 校以上と答えた病院に対して
④複数の学校から受け入れている場合：学校によって対応の違いを感じるか？ 具体的にはどのような違いか？（例：学生の差、学校への不満、学生への不満）
⑤動物病院側の実習の目的は、「採用」か「教育を通したスタッフのモチベーションやスキルのUP」か「獣医療発展のための（社会的）貢献」か。（優先順位とその理由を聞く）

2. 動物病院実習に関して学校側と事前に行っている打ち合わせの内容についてお聞きします。

2－1. 学校と学生の実習前に行う打ち合わせ項目はどれですか？【複数回答】
- □ 実習の日数、時間について
- □ 実習で学生に指導する具体的な内容について
- □ 実習で学校が望む目標、到達点について
- □ 学生のプロフィール（氏名、住所、連絡先等）
- □ 学生のカリキュラムの習得度合、学習レベル
- □ 実習中の服装、マナー、ルールについて
- □ 実習に臨む学生の意識、意欲について
- □ 学生の評価方法について
- □ 緊急時の連絡方法について
- □ 学生が加入している保険についての情報
- □ その他（ ）

2

動物病院を対象にした動物病院実習の実態調査 **ヒアリング調査票**

2－2. 学生が実習に入る前に学校と取り交わしている文書・書類はありますか？
【複数回答】

- □ 実習内容が記載された依頼書
- □ 実習内容が記載されていない依頼書
- □ 協定書
- □ 履歴書
- □ (実習学生の)評価書
- □ カリキュラム表
- □ その他(　　)

2－3. 学生を実習で受け入れる際、学校の対応は十分だと思われますか？

- □ 十分にできている
- □ やや不足しているように感じている
  → 不足していると思うのはどの部分ですか？
  (　　)
- □ その他、学校への要望事項があればご記入ください
  (　　)

【インタビュー内容】
＜主なポイント＞
・動物病院と学校側の事前のやりとりが、スムーズに行われているかを知る
・動物病院と学校側の事前やりとりで「実習目的」「トラブル対策」といった重要なポイントについて、すり合わせができているかを知る

＜質問事項＞
①現在実施している事前打ちあわせは、十分と感じているか？
　十分と感じている場合：特記できる満足点は？
　過不足がある場合：具体的にどのような点に過不足を感じているか？
②事前打ちあわせで、学校側からの目的・目標が具体的な業務内容に落とし込まれた状態で、動物病院は実習の依頼を受けているか？
③事前打ちあわせで、病院側からも専門学校側に要望を提示され実施しているか？(している場合は具体例も聞く)
④これまでの実習で、専門学校・動物病院間でトラブルや事故に発展してしまったことはあるか(具体例を聞く)？　その際の学校の対応はどうだったか？
⑤事前打ちあわせで、起こりうるトラブル対策についてのすり合わせは行われているか？
⑥事前打ちあわせで、専門学校から動物病院に学校内実習についての説明はあるか？(動物病院実習との連携はとれているか？)

3

3. 実習中の学生に対する貴院の対応、貴院が提供する実習のプログラム・内容についてお聞きします。

3－1. 学生の実習中の指導担当者は決まっていますか？

□ 決まっている
- □ 院長が主に指導する
- □ 看護師長が指導する
- □ 同じ学校出身者の先輩動物看護師が指導する
- □ その他（　　）

□ 特に決めていない
- □ 実習内容によって指導担当を変えているため担当は決めていない
- □ 気付いたスタッフや勤務医がその都度指導、注意する
- □ 朝、その日の予定を伝え、終了後の日報でチェックしている
- □ その他（　　）

3－2. 貴院での学生に提供している実習内容、実習プログラムについてお聞かせください。

□ 学校と事前の打ち合わせで決められたことだけを実施している
□ 学校と事前に打ち合わせで決めたことに加えて、動物病院で実習に適切と思われる内容も実施している
□ 動物病院で独自に考えた、学生のレベルに合わせた実習を実施している
□ その他（　　）

【インタビュー内容】

＜主なポイント＞

・動物病院が学生への指導者を決めるのに、明確な基準があるかを知る

・学校主導で実習が行われているか、病院主導で実習が行われているかを知る。またその連携はスムーズに進んでいるかを知る

＜質問事項＞

①動物病院が学生指導者を選ぶ際に優先順位が高いのは、以下のどれか？

「（院長クラスが担当し）安全性などを踏まえた責任」にあるから

「（看護師長クラスが担当し）実践力の向上」にあるから

「（同じ学校出身者の先輩動物看護師が担当し）教育に慣れさせることや、学生との親和性・相性」にあるから

②実習の進行は動物病院側がやりやすいものになっているか？

4

③やりやすいものと答えた病院に対して
その理由は以下のどれか？
学校提示のカリキュラムが充実しているから
病院側で適時変更しているから
病院側主導でのカリキュラムだから
④これまで学校が提示した実習カリキュラムで、病院側に無理や負荷が生じ中止・変更したことはあるか？
中止・変更したと答えた病院に対して、以下の質問をする
学校への連絡・連携はスムーズに進んだか？
学校はどのように対応したか？

4. 動物病院実習を修了した学生に対する評価方法についてお聞きします。

4－1. 学生への評価をしていますか？

□ している
→ 評価方法についてご記入ください
□ あらかじめ学校側から示された評価表をもとに評価している
□ 動物病院独自の評価方法で評価している
□ その他（ ）

□ していない
→ していない理由は？
□ 学校から要求されていないため
□ 評価が行えるレベルに達していなかった
□ もともと評価できる業務をさせていないため
□ その他（ ）

4－2. 院長、もしくは指導担当者が大事にしている評価のポイントをお聞かせください
【複数回答】

- □ マナー（挨拶、言葉遣い、身だしなみ等）
- □ 実習に対する意欲、意識、姿勢
- □ 保定技術
- □ 動物看護に関する技術
- □ 動物看護に関する知識
- □ 動物の扱い方
- □ 飼い主様への対応
- □ 連絡・報告の徹底
- □ コミュニケーション力
- □ 性格（明るい、前向き）
- □ その他（ ）

【インタビュー内容】

＜主なポイント＞

・実習修了後の評価方法について、動物病院側で明確な基準もうけているか。
・動物病院の評価のフィードバックが、スムーズに学校に伝達されているか、学校と連携がとれているか、を知る

＜質問事項＞

①学校側から明確な評価方法を提示されているか？
　されていない場合、動物病院ではどのような基準で評価をしているか？
②評価について、学校と動物病院で、実習後の打ちあわせを行っているか？
③病院側で最も重要視している評価のポイントは？またその理由は？
④病院側で重要視している評価ポイントと、学校が重要視しているポイントにズレを感じたことはあるか？ある場合、どのあたりに感じるか？
⑤動物病院から学校に実習の評価のフィードバックを行う際、やりとりはスムーズに進んでいるか？　もし言いにくいことがあれば、どのあたりが言いにくいか？　言いにくい原因はなにか？
⑥学生に実習を通して学んでほしいこと、気づいてほしいこととは？

動物病院を対象にした動物病院実習の実態調査 **ヒアリング調査票**

5. 動物病院実習を受け入れた学生の就職・採用についてお聞きします。

5－1. 貴院で実習を受け入れた学生を卒業後に採用した実績はありますか？

□ ある

□期待通りの勤務状況ですか？

□ はい

□ いいえ → 不足しているのはどのような点ですか？

（ ）

□ 採用したことはない

□ 採用したかった学生はいたが、採用に至らなかった

□ 実習の受け入れ採用は別のことと考えている

□ 採用したいと思った学生がいなかった

□ その他（ ）

【インタビュー内容】

＜主なポイント＞

・実習後の学生の採用についての実績を知る

・実習中と採用後の実習生の働きぶりのギャップを知る

＜質問事項＞

①採用に至る実績がある場合、どのような点を評価したのか？

②実習中と採用後の実習生の働きぶりに違いある場合、どのようなギャップがあったか？

以上

7

2-4.「動物病院実習ガイドライン」草案

「動物病院実習ガイドライン」骨子案作成にあたっては、デュアル教育のガイドラインとして先に示された、

Ⅰ　1. デュアル教育の企画
- ①　目的の明確化
- ②　教育目標、教育内容、方法の明確化
- ③　役割分担の明確化
- ④ 学生に対する報酬・知的財産の帰属
- ⑤ 実施上の協定・契約の締結
- ⑥ リスクマネジメント

Ⅱ　2. デュアル教育の実施
- ① 受入動物病院の開拓
- ② 希望学生と受入動物病院のマッチング
- ③ 学生の受入準備
- ④ 動物病院内実習
- ⑤ 事前／実後の教育
- ⑥ 学生の評価

Ⅲ. 3. デュアル教育の評価
- ① プログラムの評価法
- ② プログラムの改善方法

以上の14項目に留意しながら 検討を行い骨子案の作成にあたった。

＜動物看護分野デュアル教育　ガイドライン骨子（案）＞

目　次

1. 動物病院実習の在り方・目標
2. 枠組、要件
3. 専門学校への指針
4. 実習施設（動物病院）への指針
5. 指導する動物看護師への指針
6. 実習内容
7. 評価

1. 動物病院実習の在り方・目標

1）「認定動物看護師として求められる基本的な資質」の修得

2）公平で幅広く参加・体験できる実習

3）専門学校、動物病院の連携

2. 枠組み・要件

1） 実習の枠組み

2） 実習期間　実習時期

（教育課程編成における）実習習前・実習後学習

（カリキュラムツリーモデル）

3） 実習施設の要件基準

3. 専門学校への指針

（実習前準備事項）

1）教員の臨床教育に対する意識の共有

2）学生に関する情報の集収および管理体制の整備

3）学内の実習実施体制の整備

4）実習施設との連携体制の整備

5）適切かつ充実した臨床準備教育の実施

＊学生に臨床教育の目標を提示し、学習意識を高める

＊学生の理解度、到達度についての評価を行い、必要に応じて学習方法を修正するなど、獣医療現場で実習できる水準を確保する

＊臨床準備教育については、実習先の意見を聞くことも重要

＊自己評価・教員評価（実習開始前、実習終了後、卒業時）

{実習実施に際し準備すること}

1）教員の臨床教育に対する意識の共有

2）学生に関する情報の集収および管理体制の整備

3）学内の実習実施体制の整備

4）実習施設との連携体制の整備

5）適切かつ充実した臨床準備教育の実施

＊学生に臨床教育の目標を提示し、学習意識を高める

＊学生の理解度、到達度についての評価を行い、必要に応じて学習方法を修正するなど、獣医療現場で実習できる水準を確保する

＊臨床準備教育については、実習先の意見を聞くことも重要

＊自己評価・教員評価

（実習開始後から終了までに準備すること）

1）実習実施計画に沿った進捗・到達目標への注目管理

2）実習における不足が生じた場合の対処方法

（実習終了後の対応 ）

1） 振り返り（実習方法、指導、評価方法）

＊成果／課題

＊教育機関と実習実施施設との共有

（学生への指導指針）

1） 社会人としての態度（心構え、マナー、個人情報の取り扱い、守秘義務）

2） 自身の健康管理と問題発生時の対処法

3） カリキュラムの把握と履修した内容の把握をもとに実習時に活かし、また復習する

4） 患者への接遇力、動物病院内での協働力

4. 実習施設への指針

1）受け入れ時の学生の基本的資質に対する理解

2）実習環境・業務内容の整備

3）教育・指導体制の整備

＊受け入れ時の担当者（認定動物看護師・獣医師）

4）専門学校および地域関連団体との連携体制の整備（職業実践専門課程）

5. 指導する認定動物看護師への指針

1） 実習における指導体制

＊実施計画書の作成

＊実習時のスタッフの役割分担

＊実習の記録

＊学習到達度の評価

2） コアカリの意義・目的・内容の把握

3） 専門学校との連携（常に連携を持ち、実習を実施）

4） 実務実習を担当する認定動物看護師の指導能力の向上 ※各獣医団体

＊アドバンスワークショップ

＊実習報告会

6. 実習内容

1） 実習の目的による

7. 評価

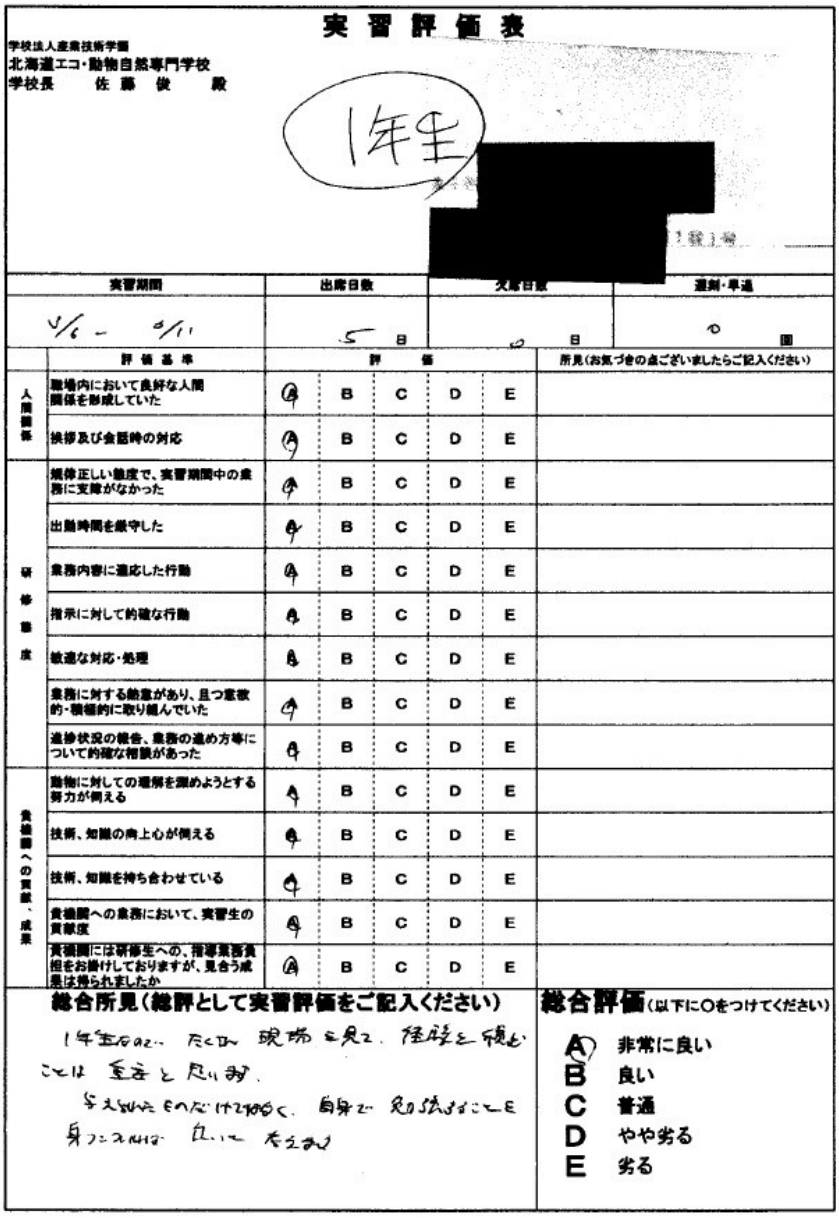
1） 実習細目による

2-5. 教育支援ツール情報

専門学校に対する動物病院実態調査において、「動物病院実習ガイドライン」作成において必要となるツールの提示を求め、各専門学校から提供いただいた評価シートや実習内容の細目表などが次年度事業に有用であることを確認した。

また、前後の教育取組として実習前には事前準備としてマナーやコミュニケーショントレーニング等を実施、専門的な分野では学校内で実施されている実習の点検等を行っている実態が判明した。実習後については学生評価の回収や、評価内容の振り返り等を実施していることが、判明した。これらの中で一年次の実習（春期）二年次の実習（夏期）ごとに取り組みを行っている学校があり、次年度の事業に活用できる要素が含まれているため記載する事とした。

【参考資料：実習評価表】



実習評価表

学校法人産業技術学園
北海道エコ・動物自然専門学校
学校長　佐藤俊　殿

1年生

[redacted]

実習期間	出席日数	欠席日数	遅刻・早退
3/6 – 3/11	5 日	0 日	0 回

	評価基準	評価					所見（お気づきの点ございましたらご記入ください）
人間関係	職場内において良好な人間関係を形成していた	A	B	C	D	E	
	挨拶及び会話時の対応	A	B	C	D	E	
研修態度	規律正しい態度で、実習期間中の業務に支障がなかった	A	B	C	D	E	
	出勤時間を厳守した	A	B	C	D	E	
	業務内容に適応した行動	A	B	C	D	E	
	指示に対して的確な行動	A	B	C	D	E	
	敏速な対応・処理	A	B	C	D	E	
	業務に対する熱意があり、且つ意欲的・積極的に取り組んでいた	A	B	C	D	E	
	進捗状況の報告、業務の進め方等について的確な相談があった	A	B	C	D	E	
貴機関への貢献、成果	動物に対しての理解を深めようとする努力が伺える	A	B	C	D	E	
	技術、知識の向上心が伺える	A	B	C	D	E	
	技術、知識を持ち合わせている	A	B	C	D	E	
	貴機関への業務において、実習生の貢献度	A	B	C	D	E	
	貴機関には研修生への、指導業務負担をお掛けしておりますが、見合う成果は得られましたか	A	B	C	D	E	

総合所見（総評として実習評価をご記入ください）

1年生なので たくさん 現場を見て、経験を積むことは 重要と思います。
与えられたものだけではなく、自身で 勉強することを 身つこれば 良いと 考えます

総合評価（以下に○をつけてください）

A 非常に良い
B 良い
C 普通
D やや劣る
E 劣る

【参考資料：実習評価シート】

「実習生評価シート」

実習生氏名：

日付　2017年	評価（各項目5段階評価でお願い致します。）				ご担当者様サイン欄
月　日	意欲	実習態度	身だしなみ	挨拶・返事	
	低　　高	悪　　良	悪　　良	悪　　良	
（　）	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	
月　日	意欲	実習態度	身だしなみ	挨拶・返事	
	低　　高	悪　　良	悪　　良	悪　　良	
（　）	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	
月　日	意欲	実習態度	身だしなみ	挨拶・返事	
	低　　高	悪　　良	悪　　良	悪　　良	
（　）	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	
月　日	意欲	実習態度	身だしなみ	挨拶・返事	
	低　　高	悪　　良	悪　　良	悪　　良	
（　）	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	
月　日	意欲	実習態度	身だしなみ	挨拶・返事	
	低　　高	悪　　良	悪　　良	悪　　良	
（　）	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	

実習期間総合評価

	ご確認印

【参考資料:実習指導項目シート】

1） 去勢･避妊手術の見学

到達目標	周術期の一連の流れを理解する		
番号	**項目名**	**指　導　内　容**	**チェック欄**
①	術前検査	検査項目の説明、実際に検査をさせる	
②	術前準備	手術器具や手術室の準備に必要なものの説明	
③	術中モニター	麻酔モニターの解説 モニターの読み上げ、麻酔記録を取らせる	
④	執刀医による解説	執刀医による手技・術法の解説	
⑤	術後管理	術後に確認する項目や注意点の説明	
⑥	片付け・掃除	手術器具や手術室の片付け・清掃の仕方を教え、 実際に行わせる	
⑦	オーナー様への 説明	術後の注意事項など、 オーナー様への説明の様子を見学させる	

2） 検査実習

到達目標	学校で学んだ検査手技について、実際の病院内で行う。 学内でできない検査の基本的手技を身につける。

番号	項目名	指　導　内　容	チェック欄
①	CBC	手技説明し、実際に行わせる	
②	生化学検査 （CRP、Na-k含む）	手技説明し、実際に行わせる	
③	レントゲン	手技説明し、見学および保定をさせる	
④	超音波検査	手技説明し、見学および保定をさせる	
⑤	眼科検査	スリットランプ、トノベット等の手技・保定の解説、使用しているところを見せる	
⑥	皮膚検査 （ウッド灯検査等含む）	実際に行っているところを見せ意義を説明	
⑦	内視鏡	実物を見せ、メンテナンスの方法等を説明	
⑧	保定	採血・エコー・X線撮影時等の各種保定	

3） その他実習

到達目標	院内におけるその他業務を経験し、病院業務に貢献する。

番号	項目名	指　導　内　容	チェック欄
①	入院ケージの清掃	適宜清掃をさせる	
②	院内の清掃		
③	受付	各種受付業務	
④	調剤	薬割り、薬袋記入など	
⑤	輸液ライン	輸液ラインの設定や接続確認	

【参考資料:1年次実習前の取組事例　就職セミナーの開催】

在校生各位

○○○専門学校
教務部　○○

平成29年度「就職セミナー」のご案内

1年生の皆さん、毎日楽しく充実した学校生活を過ごしていますか？
さて、皆さん方は、これから待望のインターンシップが開始されます。このインターンシップは、就職へと繋がる重要なキーワードとなりますので、一箇所でも多く実習に挑んでほしいと思います。しかし皆さん方は、インターンシップに対する期待感や不安要素が多々あると思います。

今回の就職セミナーでは、実習に対する心構えや守秘義務等を事前に学習をし、さらに面接試験では、自己PRを通じてお客様とのコミュニケーションがしっかり図れる練習をします。
しっかり事前学習と練習をしてインターンシップに挑んでください。

又、セミナーの中では、内定をゲットされた2年生の先輩方から、実習先での成功談や失敗談など色々なエピソードを聞くことが出来ます。インタビュー形式という事もあり、楽しく体験談を聞いて内定のコツを掴んで下さい。

「成功の秘訣はいかに準備をするか」です。今回の就職セミナーに参加して、これからのインターンシップ及び就職に向けて活用して行きましょう。

記

1　日　時　：平成２９年１２月８日（金）９：４０～
（９：３５集合）時間厳守

2　場　所　：①全体会：本館４０１教室

3　目　的　：②求職者登録の為の面接試験：各面接試験会場にて（面接官を含めて当日発表）
合格点７０点以上

4　参　加　者：1年生　○○名　　2年生内定者数約６名
職　員　　9名対応

5　プログラム　９：４０～１０：１０　校長挨拶
１０：１０～１０：４５　インターン実習について
１０：４５～１０：５０　休憩
１０：５０～１１：４０　内定者の声（インタビュー形式）
１１：４０～１１：５０　面接官発表・面接試験について
１１：５０～１２：４０　面接控え室へ移動・昼食
１２：４０～１２：５０　課題配布・面接準備
１２：５０～ 終了まで　面接試験

6　そ　の　他：面接試験実施の為スーツで登校してください。

【参考資料:2 年次実習前の取組事例　就職実践合宿の開催】

２０１７　〇〇専門学校

就職実践合宿のしおり

日　　程：平成 29 年 5 月 1 日（月）～2 日（火）
場　　所：〇〇県青島青少年自然の家（〇〇市大字熊野字藤兵衛中洲 ）
参加対象：２年生全コース・担当教員

プログラム

5 月 1 日（月）

集合 10 時 00 分（青島青少年自然の家現地集合）

《タイムスケジュール》

10 時　全員集合（必ず 10 時までには集合してください。）
10 時～11 時 00 分　入所式・オリエンテーション。終了後入室。（中研修室）
11 時 00 分～11 時 30 分　入室・避難経路確認
11 時 30 分～12 時　研修（発声）
12 時～13 時　昼食（レストラン）
13 時～13 時 30 分　研修のスケジュール及び内容の説明
13 時 40 分～17 時 40 分　就職実践に向けての面接等の試験（大研修室・中研修室・体育館等）
スタンプラリー形式によるスピーチ・面接研修
17 時 40 分～18 時 00 分　総評
18 時 00 分～18 時 15 分　片付け・移動・準備
18 時 15 分～19 時 00 分　夕食（レストラン）・結果発表　カード返却
19 時 00 分～20 時 00 分　入浴（女子→大浴場・男子→中浴場）
20 時 00 分～22 時 00 分　担任補講（中研修室）
22 時 30 分　点呼・消灯・就寝

場　面	内　容	担当学生
入所式	研修生代表の言葉	美容コース
朝のつどい	朝のひとこと	飼育コース
退所式	活動の感想	看護コース

5 月 2 日（火）

6 時 30 分～　起床、洗面、寝具整理
7 時 00 分～7 時 15 分　点呼・体操・朝のつどい。
（晴天時→いこいの広場／雨天時→体育館前玄関）
7 時 15 分～8 時 15 分　朝食（レストラン）
8 時 15 分～9 時 00 分　宿泊室清掃・部屋点検
9 時 00 分～12 時 00 分　電話のかけ方の研修（大・中・小研修室・応接室・ロビー等）
12 時 00 分～13 時 00 分　昼食（レストラン）
13 時 00 分～14 時 30 分　レクレーション（水上アスレチック）
雨天時→館内（mission in 自然の家）
14 時 30 分～15 時 00 分　奉仕活動、着替え
15 時 00 分～15 時 30 分　退所式（中研修室）終了後現地解散

※時間は目安です。若干前後することがありますのでご了承ください。

【参考資料:院内実習報告書】

日付	実習先	氏名

② 院内実習報告書

実習先			
動 物 看 護 科		学年	年
氏 名			
期 間			

教務使用欄	校長	副校長	教務課長	科長	担任

時間	実習内容
出勤時間 ： 退勤時間 ：	

感想と反省

通信欄：学生に対する指導・評価のコメントをお願いいたします。　ご確認印

実習報告書

No.________

第Ⅳ編　実態調査委員会活動報告

1. 実施内容

1-1. 実態調査委員会の目的及び活動内容

● 動物病院における動物病院実習の実態調査を実施

動物病院に対して実態調査を実施する上で、動物病院の選定が重要と考え、動物病院の情報を有する専門学校へ、アンケート調査の回答、及び実態調査を行う 2 動物病院を以下の条件で選出するよう依頼した。

・アンケート調査、ヒアリング調査の意義、目的を正しく理解して頂けること
・学生の動物病院実習を実際に受け入れていること
・獣医師数1名（小規模）、2～5 名（中規模）、6 名以上（大規模）から、2 動物病院を重ならないように選出すること
・委員会の検討資料として、動物病院の概要、資料の提供、写真等の撮影について承諾が得られること
・専門学校に、訪問前に動物病院のプロフィールシートを作成し提出をしていただくこと

これらに則した動物病院が専門学校から選出された後、以下の手順で調査を実施した

・候補動物病院のプロファイリングと選定作業を実施し決定
・アンケートの回答を依頼～回収
・動物病院とのヒアリング訪問日の日程調整
・担当訪問者の決定とスケジュールの調整
・訪問担当者に対する主旨説明とヒアリング項目の確認

● 動物病院に対する実態調査の内容

〈調査票によるアンケート調査〉

○ 実習前／専門学校との打ち合わせ内容、取り交わす書類等について、
○ 実習中／受け入れる学生数、学校数、実際の実習や指導内容等について
○ 実習後／学生の評価、学校との連絡等
○ 全　般／動物病院の概要（勤務する獣医師数、動物看護師数等）、実習学生を受け入れている理由、動物看護師の採用、学生を評価するポイント、動物病院・院長の考え方・方針、動物病院実習での事故やトラブル等について

これらの回答を得るために設問を用意した。

〈動物病院に訪問して行うヒアリング調査〉

動物病院に対するヒアリング調査は、調査票を使用したアンケートで得られた情報を補完する為、そして動物病院の実際／待合室、診察室、勤務中の獣医師、動物看護師、その様子や雰囲気等をできるだけ正確に把握するために実施した。動物病院の診療時間中に訪問することになるため、業務に支障の無いよう十分に配慮する必要があった。また、主旨を理解し協力を仰ぐ必要があるため、事前の連絡・日程調整を慎重に行い、訪問日時を決定した。

＜訪問先日程と担当者一覧＞

日時	地域	担当専門学校	地域担当者	担当委員	訪問動物病院
11月24日	新潟	国際ペットワールド専門学校	荒井	楠田	A，B 動物病院
11月28日	札幌	愛犬美容看護専門学校	中川	坂本	C，D 動物病院
11月29日	大阪	大阪ペピイ動物看護専門学校	青木	山下	E，F 動物病院
12月1日	京都	YIC京都ペット総合専門学校	杉山	田上	G，H 動物病院
12月4日	福山	穴吹動物看護専門学校	田上	西澤	I，J 動物病院
12月5日	松山	河原アイペットワールド専門学校	川邊	坂本	K，L 動物病院
12月11日	東京	中央動物専門学校	坂本	下薗	M 動物病院
12月14日	宮崎	宮崎ペットワールド専門学校	楠田	荒井	N 動物病院
12月15日					O 動物病院
12月15日	浜松	専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー	藤原	坂元	P，Q 動物病院
12月19日	千葉	専門学校ちば愛犬動物	向山	下薗	R，S動物病院
12月19日	埼玉	大宮国際動物	佐藤	中川	T，U動物病院
12月20日	東京	中央動物専門学校	坂本	青木	V動物病院
12月23日	東京	国際動物専門学校	西依（大木）	西澤	W，U動物病院

［添付資料：専門学校へ送付した動物病院実習実態調査への協力のお願い］

動物看護師養成専門学校
各位

平成２９年１０月吉日

平成２９年度　文部科学省委託事業
事務局

文部科学省委託事業における
『動物病院実習実態調査』依頼

専門学校動物看護分野教育におきまして、下記の文部科学省委託事業に取り組んでおります。
文科省委託事業の詳細は別添の「文部科学省説明資料」をご確認ください。

事業の成果は高位平準化教育整備の一環として、また統一認定試験の受験要件となっている「コアカリキュラム履修」の審査等に活用していく計画です。

動物病院実習の実態調査は、動物病院実習の教育効果および潤滑な動物病院との連携、就職支援などに効果的なガイドライン作成への貴重な情報収集となります。

ご多用のことと存じますが、『動物病院実習の実態調査』にご協力のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

尚、実態調査に関しては文科省事業として株式会社インターズーに委託しております。

【送付書類】　専門学校を対象とした総合臨床実習の実態調査　調査票

【提出期日】　２０１７年１１月３０日必着

【提出方法】　ご記入いただいた「調査票」は、同封の返信用封筒でご返送をお願い申し上げます。

【問い合わせ先】　株式会社インターズー　佐久間明美／芹澤直人
TEL：03-6407-9690　FAX：03-6407-9375
MAIL：佐久間：sakuma@interzoo.co.jp　芹澤：serizawa@interzoo.co.jp

［添付資料：専門学校へ提示した動物病院実習実態調査の説明資料］

動物病院実習　実態調査（ヒアリング）の要項

【1】ヒアリングの趣意

ガイドライン作成の元となる、動物病院での実習の実際の状況、実習内容、時期、評価方法、学生の教育効果、動物病院との連携等について調査を行い、動物病院と潤滑な実習連携が取れるガイドライン作成になるよう実態および意向調査を行う。

【2】ヒアリング内容

ヒアリング内容は資料B「ヒアリング調査票」参照

動物病院実習についての「ご意見・ご提案」や「学校、学生に対する要望」、「動物看護師の職域」、「期待する役割」、「採用に関すること」など

尚、回答はあくまでも協力いただける範囲とし、答えにくい項目は回答不要で構いません。

【3】ヒアリングを行う動物病院の選出基準および協力していただく内容

①学生の動物病院実習を継続して受け入れてもらっている動物病院であること。

②このヒアリング調査の意義、目的を正しく理解して頂ける動物病院であること。

③本年11月～12月中旬の間に訪問し、90分程度、可能であれば院長先生ならびに実習を担当されている担当者様にヒアリングをさせて頂きます。どちらか一方の場合でも構いません。その場合、優先順位は院長先生になります。

④訪問ヒアリング調査の前に「調査票」（資料 B）を動物病院に提示し、事前に回答を頂けること。
（当日のヒアリングをスムーズに行うためになります）
調査票を渡す方法、回収する方法については各校に一任します。

⑤動物病院外観、待合室（診察室）など支障のない限りで写真撮影の了解を得られること。
（実績報告書掲載）

⑥インタビュー時は録音させていただく。 インタビュアーは、全動物病院のインタビューの一貫性を取るため（株）インターズーが担当する

⑥ 規模＞獣医師数　1名の動物病院
獣医師数　2～5名の動物病院
獣医師数　6名以上の動物病院
上記3つの規模別動物病院の中から、重ならないように2病院を選出

【ヒアリング体制】　動物病院への訪問　以下３名体制

・各校の動物病院実習の担当教員１名
・実態調査委員会から委員１名
・（株）インターズー１名
※ヒアリング時は録音させていただきます。

☆選出した動物病院様の「概要」を記入し、本事業事務局に提出ください
【→ 資料A「ヒアリング動物病院選出理由」を参照ください】

【ヒアリングまでの流れ】

２動物病院を選び「ヒアリング動物病院選出理由書を事務局に提出
※⑥で示す規模より2動物病院を選出ください

調査依頼書および調査票をヒアリング先動物病院に提示し、依頼

訪問日程候補を提出

調査票を動物病院から回収し、インターズーに提出

【ヒアリング当日】

ヒアリング主担当　　インターズー佐久間様、芹澤様

記録（録音、写真撮影）インターズー佐久間様、芹澤様

委員の役割　　インタビュー内容よりガイドライン作成の為の情報収集補足

動物病院選出理由書・訪問候補日程・動物病院回答済み調査票は下記すべてに送信ください。

a-kuroiwa@iac.ac.jp
keiko-shimozono@iac.ac.jp
sakuma@interzoo.co.jp
serizawa@interzoo@ne.jp
nishizawa@peppy.jp

［添付資料：専門学校に提出を依頼したヒアリング調査を実施する動物病院の選考資料］

2017年度　文部科学省委託事業
認定動物看護師養成における効果的な連携事業を行うためのガイドライン作成事業
実態調査委員会　ヒアリング調査動物病院　選考資料

作成日　　年　　月　　日

訪問候補日 ①　　月　　日
訪問候補日 ②　　月　　日
訪問候補日 ③　　月　　日

※ 変わる範囲で結構です。不明の点は訪問時に確認ください。

1. 動物病院様名	3. 獣医師数（院長、非常勤も含む）　該当するものに○を入れてください　1人 [　] 2～5人 [　] 6人以上 [　]
2. 代表者／院長　氏名	
所在地　〒	電話番号
アクセス	ファックス番号
ホームページ　[　] 有　URL:	[　] 無し
診察時間・休診日	
その他、この動物病院に関するご存知の情報がありましたら記入してください（動物病院の特徴、得意な動物医療分野、動物医療以外のサービスの提供など）	
4. 過去3年にこの動物病院が受け入れた貴校の学生数	H26年（　）人・H27年（　）人・H28年（　）人
5. 過去3年にこの動物病院に就職した貴校の学生数	H26年（　）人・H27年（　）人・H28年（　）人
6. この動物病院で主に動物病院実習の指導を担当しているご担当者　氏名(役職)	
選考した理由	

貴校名		
御担当者様／役職		
ご連絡先電話番号	（携帯電話）	
（メールアドレス）		
訪問予定日		確定日時 ※
動物病院の面談予定者様		
訪問予定者	貴校ご担当者様	
	実態調査委員会 ※	
	(株)インターズー ※	

※印欄は委員会で記入

1-2. 実態調査委員会実施記録

会議名	第 1 回 実態調査委員会 （1 回目）
開催日時	平成 29 年 10 月 30 日（月） 15:00～17:00（2h）
場所	国際動物専門学校 4階 会議室 東京都世田谷区上馬 4-3-2
出席者	① 委員 下薗 惠子、佐々木 伸雄、西澤 亮治、石岡 克己、杉山 征人、坂本 敏、 向山 俊一、川邊 大介、藤原 研一、中川 佳代子、田上 真紀、 山下 眞理子、佐藤 絵里砂、西依 ひとみ（計 14 名、） ② オブザーバー 佐久間明美、芹澤 直人（株式会社インターズー） ③ 事務局 黒岩茜 （参加者合計 17 名）
議題等	〈会議の目的〉 「専門学校へのアンケート調査」及び「動物病院実態調査」について、調査項目検討委員会で集約、示された設問の内容、調査の手順などについて説明を行い、円滑に回答の回収ができるよう理解と協力を依頼する。 ※出席者の都合上、10 月 30 日と 11 月 6 日の 2 回開催。 〈会議の次第・内容〉 下薗実施委員長の開会の挨拶の後、アンケート調査の手順、注意事項、アンケートの発送から回収までのスケジュールについての説明が事務局よりあった。委員から活発な質疑、意見、提案が行われた。また、動物病院実態調査への協力を依頼する 2 件の動物病院の選出、動物病院の選出理由、概要を記載するプロフィールシートの作成を依頼した。

平成 29 年 10 月 30 日　第 1 回　実態調査委員会（ 1 回目） 会議風景

会議名	第 1 回 実態調査委員会 （2 回目）
開催日時	平成 29 年 11 月 6 日（月） 15:00～17:00（2h）
場所	国際動物専門学校 4階 会議室 東京都世田谷区上馬 4-3-2
出席者	① 委員 下薗 惠子、坂元祥彦、楠田晃、青木理子、荒井英之 （計 5 名、） ② 事務局 黒岩茜 （参加者合計 6 名）
議題等	〈会議の目的〉 10 月 30 日に実施した内容と同じ。「専門学校へのアンケート調査」及び「動物病院実態調査」について、調査項目検討委員会で集約、示された設問の内容、調査の手順などについて説明を行い、円滑に回答の回収ができるよう理解と協力を依頼する。 〈会議の次第・内容〉 下薗実施委員長の開会の挨拶の後、アンケート調査の手順、注意事項、アンケートの発送から回収までのスケジュールについての説明が事務局よりあった。委員からの質問の応答、意見交換が行われ、動物病院実態調査の協力を依頼する 2 件の動物病院の選出、動物病院の選出理由、概要を記載するプロフィールシートの作成を依頼した。

平成 29 年 11 月 6 日　第 1 回　実態調査委員会（2 回目）会議風景

会議名	第 2 回 実態調査委員会
開催日時	平成 30 年 1 月 8 日（月）　13:00～15:00（2h）
場所	国際動物専門学校　4階　会議室　東京都世田谷区上馬 4-3-2
出席者	① 委員 下薗　恵子、佐々木　伸雄、西澤　亮治、石岡　克己、杉山　征人、坂本　敏、 向山　俊一、川邊　大介、藤原　研一、中川　佳代子、田上　真紀、 山下　眞理子、佐藤　絵里砂、西依　ひとみ（計 14 名、） ② オブザーバー 佐久間明美、芹澤　直人（株式会社インターズー） ③ 事務局 黒岩茜 （参加者合計 17 名）
議題等	〈会議の目的〉 「動物病院実態調査」において、ヒアリング調査の結果をふまえ、意見交換を行い、課題点の抽出を行った 〈会議の次第・内容〉 ●議事内容 1．各委員とり動物病院のヒアリング調査についての所感、意見提示を行った 【11 月 24 日(金)北信越地区】 楠田委員 ・実習前の具体的な打ち合わせがなかなかできていない。実習内容について、コミュニケーション、マナー、人間性を重点的に指導している。2 病院とも、専門学校に対して、認定動物看護師の公的資格化に向けて応援している。 佐久間様 ・ヒアリング調査全体を通して、委員の方々が動物病院実習で求めているのは、技術を評価されることであったが、病院側は、学生の人間性を評価しており、技術は後からでも十分であると考えている。人間性等は、病院実習では教えることはできないので、もう少し、専門学校で教育してほしいとの意見が多かった。 芹澤様 ・がちがちに固めたガイドラインよりは、病院に任せた方が良いような印象があった。 【11 月 28 日(火)北海道地区】 中川委員 ・2 病院とも、動物看護師の教育に熱心な病院である。

	・大きい病院は、コンプライアンスの問題があるので、動物を触らせないようにしている。その反対に小さい病院は、どんどん触らせていて、人手として考えていて、好意的に考えている。 坂本委員 ・学校のことをよく熟知している病院である。受け入れ人数もコンスタントにあり、協力的な病院である。技術より人間力、コミュニケーション力を重視している。チーム医療なので、それに順応できる人材がほしい。 ・病院実習は、就職の1つのツールと言いつつも、受け側も、ミスマッチがないようにとの印象を受けた。 ・フィードバッグ(評価後のやり取り)がある方が良いという意見と無い方が良いという意見の二分化があった。 【11 月 29 日(水)関西地区】 青木委員 ・技量よりは、コミュニケーション力をとても大事にしている。 ・1 つの病院からは、学生の健康面や精神面の情報も、もらえれば嬉しいとの意見があった。 ・実習内容に関して、決められていなくても問題はない。担当者は決まっている訳ではなく、その日に出勤した者が担当している。 【12 月 1 日(金)関西地区】 杉山委員 ・病院側との打ち合わせは、完璧ではない。 ・フィードバックが大事だと思っているのだが、病院によっては、指導する方がいい加減な方もいる。 佐久間様 ・A動物病院の●院長は、●●市獣医師会会長でもあり、獣医師会で病院実習のモデルケースを作ろうとしている。獣医師会が音頭を取っており、動物看護師の病院実習について、本腰を入れ始めている。 ・動物看護師がいないと成り立たないと思っている。 【12 月 4 日(月)中国地区】 西澤委員 ・学生にも病院側にも、リクルートの良い機会になっている。 ・人間性を重視、優先は当たり前となっているが、このことに関して、学生がどう捉え

	ているかをもう少し次の課題として考えるべきである。 ・学生が実習病院に就職を希望しないというのが疑問点でもある。 ・B動物病院が行っている外科実習など、目的を持った実習を今後導入するべきことであると感じた。 ・C動物病院では、一切動物を触れせず、実習をさせないと明確にしていたことが、不思議であった。中規模な病院は、その子の技量に合わせて、実習をさせるとしていたので、学校が事前に打ち合わせしている実習内容との整合性が取れているのかが疑問に思った。 ・学校側は、より良い病院に就職をさせることも大事である。求人票だけでは分からないことも多いので、学校側がどこまで病院の事を把握されて、就職指導をされているのか。 佐久間様 ・大きい病院の傾向として、学生に動物を触らせない理由は、半人前の人をお客様のペットには触らせることはしないとはっきりとおっしゃっていた。 【12 月 5 日(火)四国地区】 川邉委員 ・学校との目的のすり合わせができていないと感じた。 ・私は、福祉の学校から、動物専門に移動してきたが、介護福祉等は厚労省が段階の基準を明確に決めている。実習施設も厚労省に届けており、受入側の質も厚労省が保証している。福祉の実習と動物看護師の実習を比べると、動物看護師の実習は規制が何もない。 ・昔は技術より笑顔と言っていたが、今は若い先生が中心となって、技術が必要であり、認定動物看護師の資格がないと採用できないと話していた。 ・2 病院とも、評価のフィードバックは大変という意見があった。 ・好意的な動物病院のヒアリング調査だったので、今後はランダムに選出して調査した方が良い。 佐々木委員 ・小さなグループでも、研究会を行っているので、そういう所に協力してもらって、調査ができれば、もう少し一般的な病院の考え方が聞けるかもしれない。 ・公的資格の事を考えると、こういう基準が望ましいというような内容を出しても良いのかもしれない。 坂本委員 ・D動物病院は、病院業務だけでなく、いろいろなことに熱心な病院である。

	・コミュニケーションが大事である。師長は認定動物看護師ではないのは、技術よりも、人をコントロールできる人や中核になれる人が大事であり、技量に応じた人材配置をしている病院である。 【12 月 11 日(月)関東地区】 坂本委員 ・E動物病院は、院長が就職説明会に来る、とても熱心な病院である。 ・F動物病院は、院長が教育課程編成委員であり、学校の事を良く知ってもらっている。中学校を中心に体験実習を行っている。 ・専門学校に入るよりも前に、学生が動物に関わることの重要性もある。 青木委員 ・F動物病院は、良く理解している病院であった。 ・先生より、統一認定試験ができてから、専門学校の目的意識が変わったのではないか、目的意識を持って勉強をしているようになってきたというお言葉を頂いた。 ・小学校・中学校の体験実習の方が、目的がはっきりしているので、実習をやりやすいが、専門学校は、丸投げのようなイメージがある。しかし、その方が、自分の病院のスケジュールに合わせやすいということもある。 ・また、一年生の早い段階から、実習をした方が良いのではないかとお話があった。その方が、実際の現場は、サービス業であることや、早い段階で成功体験をさせることができ必要であると考える。 佐久間様 ・F動物病院は、学校がどういう教育をしているのか、病院側が学校を見に行っており、24 病院のうちでたった 1 つの病院であった。 下薗委員 ・積極的な病院で、症例数が多い病院であり、動物看護師がしっかりと指導している。 ・動物病院マネージャー研究会に参画しており、ガイドライン作成協力をお願いしても良いかなと思った。 【12 月 14 日(木)九州地区】 楠田委員 ・G動物病院は、卒業生がたくさん働いており、卒業生から指導をしてもらうので、聞きにくいことも聞ける環境である。 ・実習生が書く実習日誌の目的が幼稚すぎるので、指導してほしいとのことである。 ・H動物病院は、スタッフが 38 名もおり、中学生の職業体験もしており、オリエンテー

	ション VTR もある。 ・チーム医療を重視しており、動物看護師がいないと、病院は成り立たないので、応援している。 ・カリキュラムと実習(学内実習と学外実習)のリンク性を高めるために、評価を最適に見てほしいという意見があった。 佐久間様 ・I動物病院は、総合病院の理想形であり、動物看護師は、週 3 日休みのシステムが組めるくらい人材が揃っている。 【12 月 15 日(金)中部地区】 藤原委員 ・動物病院からもらった評価のポイントで、学生に対して、保定技術、動物看護に関する技術・知識を上げているのが、2～3 病院という実態に対して、果たして、これで十分なのか、それとも、評価に値しないと捉えるべきなのかを冷静に考えなくてはいけない。 ・本校の取組と他校の取組が違うとの意見があり、他校では、学校からのコンタクトが全くなく、学生がいきなり電話をかけてきて、「明日からお願いします」という所もある。しかし、実績報告書を見ると、事前打ち合わせを行っている学校がほとんどであるので、やっている内容に差があることを見なくてはいけない。 坂元委員 ・学校によっての取組の姿勢の差があると感じている。 ・2 病院の先生から、ルネサンスは、事前に学生の情報をもらえて、どのような学生が来るか教えてくれるが、名古屋の方の学校の学生は、本人から電話で、実習の申し出があり、実習に来てから、こういう子だったんだという事が分かる。 ・J動物病院は、新しいマネージメントシステムを構築しようとしていて、マネージャー(看護師長)は、動物看護師の仕事をせず、院長と共にマネージメントを行っている。 ・実習担当者は、若年者に行わせており、そのことにより、本人も成長があるからだとおっしゃっていた。その結果をマネージャーが聞き、指導をしており、このような階層化ができているのが、今後の動物病院のあるべき姿であると感じた。 【12 月 19 日(火)関東地区】 下薗委員 ・●●県獣医師会としっかりとした連携が取れていて、インターンを目指したというよりは、動物病院実習という 1 つの課程の中で動かせている。 ・獣医師も、動物看護師を育成させていくことに、とても関心を寄せている。

	・学校との連携がミスマッチな所もあるが、大きな問題ではない。 ・K動物病院は、来院者さんと話をさせ、電話応対もさせており、子育てのように、どんどん突き放してやらせている。人と話をさせて、度胸をつけさせている。 ・L 動物病院は、M専門学校さんとタグを組んでおり、教育にも精通である。病院のポスターや HP にM専門学校のロゴ入りがあり、病院との繋がりができており、お手本にしたい所である。 【12 月 19 日(火)関東地区】 佐藤委員 ・M 動物病院の担当獣医師は、夜間動物病院の取締役をされており、外科実習で大変お世話になっている。教育課程編成委員でもあり、動物看護師の教育にも、ご意見を良く頂いている。 ・N動物病院は、卒業生が活躍しており、企業連携実習でもお世話になっている。スタッフの働きやすい環境整備や動物看護師の役割を非常に良く話をしてくれる先生である。 中川委員 ・研修生個人に対して対応が違うので、ガイドラインがとても必要だと思う。 ・とても忙しい病院なので、前もっての打ち合わせやフィードバックをお願いしても良いものなのかなと感じた。 ・年次大会でガイドラインの発表をすることや、先生たちが集まっている時に、情報共有すると良いのではないか。 ・学年ごとのガイドラインが必要であると感じた。 【12 月 23 日(土)関東地区】 西依委員 ・O動物病院は、動物を触らせない、人手として扱わないとしている。 ・P 動物病院は、その子の技術に合わせてやらせており、飼い主と話をすることをお願いしている。 西澤委員 ・Q動物病院は動物医療だけでなく、トリミング・ホテルなど、多角的な経営をしている。 ・コミュニケーションや第一印象が大事である。 ・地方にはない最先端、集客力が高い病院であり、働いている方も明るく元気であり、来院者さんも良いと思うような病院作りをしている。 ・R動物病院は、その子の意欲、やる気で決めている。人間性、コミュニケーション力

	がスタート地点である。 ・それほど大きな病院ではなく、目が行き届く規模なので、積極的な子には、いろいろな事をやらせている。 ・学校側が病院の特徴を知る必要がある。 佐久間様 ・週休二日制などをして、質を高めるのが良いとしている病院もある。 芹澤様 ・学内実習と病院内実習の連続性がない。 下薗委員 ・事前の打ち合わせ、情報をどれだけ渡せるかということと、どの位置で何を学びにいくのかということを明確にできるガイドラインを作ることができればと思っている。 佐々木委員 ・カリキュラムの中で、病院の現場を見せてもらうことが大事である。 ・病院の事情があるので、動物を触れなくても、どこを見せてほしいなどの依頼をした方が良い。

平成 30 年 1 月 8 日　第 2 回　実態調査委員会　会議風景

会議名	第 2 回 実態調査委員会
開催日時	平成 30 年 1 月 16 日（火）　15:00～17:00（2h）
場所	国際動物専門学校　4階　会議室　東京都世田谷区上馬 4-3-2
出席者	① 委員 下薗　惠子、西澤　亮治、石岡　克己、坂元　祥彦、向山　俊一、荒井　英之 田上　真紀、山下　眞理子（計 8 名、） ② オブザーバー 佐久間明美、芹澤　直人（株式会社インターズー） ③ 事務局 黒岩茜、曾田早秋 （参加者合計 12 名）
議題等	〈会議の目的〉 1 月 8 日に続き、「動物病院実態調査」において、ヒアリング調査の結果をふまえ、意見交換を行い、課題点の抽出を行った 〈会議の次第・内容〉 ●議事内容 1. 各委員とり動物病院のヒアリング調査についての所感、意見提示を行った 荒井委員 ・何をどこまで体験させるのかガイドラインがあると良い。 ・カリキュラムは充実し学生の知識は向上しているが現場では人間力が問われる。人間力は動物看護師に限らず、どの分野にも必要不可欠なことである。 山下委員 ・大規模病院、小規模病院のどちらも協調性を重視していた。 田上委員 ・患者の動物には触らせないということを知りイメージの違いがあった。 坂元委員 ・実習を通じて新規採用に繋げたいという病院側の意図とコアカリキュラムの動物病院実習とのバランスの取り方が重要である。 ・小さなハードルでも良いので学生を実習に行くことを許可するラインを作り、責任を持って学校が学生を動物病院へ送り出すようにすべきではないか。 石岡委員 ・問題点や気づきを書き出しておき、「動物実習ガイドライン」を作成する上で必要な

	部分をまとめておくと良い。 西澤委員 ・動物病院実習とは、学校ではできないことを外部の動物病院で体験し補完するというイメージを持っていた。動物に触らせない病院に行くことは実習として成り立つのか疑問がある。またそのような動物病院に実習へ行った学生の満足度はどうだろうか。 ⇒山下委員、石岡委員 コアカリキュラムの記載では、現場での体験を付加するものとしている。技術を身に付けることを目的とした実習ではない。動物に触れなくとも先輩職員と行動を共にし、現場の流れを体感することは貴重な体験になる。 2、獣医師会、動物病院、学校の連携が優れている事例の報告 ・動物看護師が不足している現状の中、コアカリキュラムで教育を行っている学校は千葉県内では、専門学校ちば愛犬動物フラワー学園の一校のみであり、動物看護師養成のためには獣医師会が学校と連携を図っていく必要があると千葉県獣医師会が判断した。 ・動物病院実習への理解を促し、学生を受け入れる側の勉強会も実施すべきだと千葉県獣医師会が主体となって動いてくれた。 ・はじめは就職を見据えたインターンシップとカリキュラムの中での実習違いを分かってもらえなかったが真摯に説明することで賛同してくれる病院が増加し、現在では実習へ送り出す学生が足りないほどである。 ⇒坂元委員、下薗委員＞獣医師会が現状に危機感を持ち、現場が変わらなければいけないという意識の下、獣医師会、動物病院、学校の三者の連携が取れている素晴らしい例である。 学生の教育を行える病院であるということは優れた病院であることを意味し、病院としての価値も上がる。病院が学生を実習で受け入れていることを公示できると良い。

平成 30 年 1 月 16 日　第 2 回　実態調査委員会　会議風景

第Ⅴ編. 事業成果

1. 専門学校を対象とした実態調査の集計結果

1-1. 調査票の集計

○ 貴校の 平成 28 年度の動物病院実習 についてお聞きします。(1.～11.)

1. 平成 28 年度の動物病院実習 実施状況についてご記入ください。

※「学生総数」は、統一認定試験受験対象の動物看護系学科もしくはコースの学生数を記入してください。

【 1年次 】

● 実習実施の有無について

≪有効回答校数 61校≫

実施した	44校	72.1%
実施していない	15校	24.6%
回答なし	2校	

● 実施していない場合、しなかった理由は？ （自由回答・記述での回答）

・1年時は合同コースであるため。
・カリキュラム上の理由。
・学事予定が多かったため。
・2 年次に 2 回実施するため。
・2 年次にコース分かれをするので、希望職種が定まっていない。
・1 年次はコース分かれしていないため。
・2 年次に実施するため。
・知識を身につけてから、2 年次で実施するため。
・カリキュラムの進度を考慮し、実習は 2 年次より。
・1年次では動物看護に関する知識も乏しく、実践的な研修に送り出す準備が整っていないため。
・技術、コミュケーション能力も不足していたため。
・対象学生不在のため。
・1 年次には基本教育が重要と考えたため。

【 1年次 】

● 学生総数

≪有効回答校数 43校≫

平均	24.7名
最大	79名
最少	2名

● 実習参加学生数

≪有効回答校数 43校≫

平均	21.0名
最大	71名
最少	0名

● 実習に参加した学生数

≪有効回答校数 43校≫

平均	21.0名
最大	71名
最少	0名

● 実習期間は？

≪有効回答校数 43校≫

平均	8.59日間
最大	20日間
最少	1日間

● 1日あたりの実習時間は？

≪有効回答校数 39校≫

平均	8.03時間
最大	10時間
最少	6時間

● 実習を実施した時期は？（自由回答・記述での回答）

・3 月（3 校が回答）
・2017 年 1 月下旬から 2 月上旬（2 校が回答）
・2017 年 1 月
・10 月
・2017 年 3 月
・2 月中旬（春休み前）
・春期
・夏季休暇、春季休暇などの長期休暇期間
・10 月、2 月、3 月
・春休み（H29.3～4 月）、他学校指定で秋～冬期に希望者のみ 1 週間
・1 月～3 月　・5/16～7/9（必須）
・学年末
・3 月 1 日～3 月 10 日、3 月 14 日～3 月 23 日
・7～8 月、12 月～1 月
・7・8 月、12 月、3 月
・5 月～2 月
・3 月（1年次終了の春休み期間）
・1 年後期
・2～3 月
・2017 年 1 月下旬～2 月上旬
・2018 年 8 月～29 年 3 月
・夏季休校、冬季休校

・2017 年 1～2 月
・夏期休暇・冬期休暇・春期休暇
・1 年次夏休み（7～8 月末）
・2016 年 9 月下旬、2017 年 1 月下旬
・2017 年 1 月下旬～2 月上旬
・2 月 13 日～2 月 26 日
・1 月中旬
・12 月、3 月
・10 月
・2017 年 2 月
・夏期、冬期、春期長期休暇
・冬期および学年末休暇
・2 月下旬
・9 月 12 日～25 日
・春期休暇期間
・通年

【 1年次 】

● 学習目標を設定しましたか？

≪有効回答校数 44校≫

設定した	39校	88.6%
設定していない	4校	0.9%
回答なし	1校	

● 学習の評価はしましたか？

≪有効回答校数 44校≫

評価した	41校	93.1%
評価していない	2校	5.0%
回答なし	1校	

● 学生が実習先動物病院に就職を希望した割合は？

≪有効回答校数 44校≫

～2割	24校	54.5%
3～4割	6校	13.6%
5～6割	4校	9%
7～8割	5校	11.4%
9割～	2校	4.5%
回答なし	3校	

【 2年次 】

● 実習実施の有無について

≪有効回答校数　60校≫

実施した	59校	98.3%
実施していない	1校	1.6%
回答なし	0校	

● 実施していない場合、しなかった理由は？（自由回答・記述での回答）

・対象学生不在のため記入無し

【 2年次 】

● 学生総数

≪有効回答校数　56校≫

平均	27.2名
最大	99名
最少	4名

● 実習参加学生数

≪有効回答校数　54校≫

平均	24.4名
最大	90名
最少	4名

● 実習に参加した学生の割合

≪有効回答校数　55校≫

平均	94.2%
最大	100.0%
最少	27.3%

● 実習期間は？

≪有効回答校数　57校≫

平均	9.58日間
最大	22日間
最少	2日間

● 1日あたりの実習時間は？

≪有効回答校数　51校≫

平均	7.97時間
最大	10時間
最少	5.2時間

● 実習を実施した時期は？（自由回答・記述での回答）

・通年【4 校が記載】
・夏休み期間中【2 校が記載】
・夏期 【2 校が記載】
・6 月【2 校が記載】
・7 月【2 校が記載】
・8 月【2 校が記載】
・2017 年 6、7、8、12 月
・夏休み(7～8 月)
・7 月～8 月
・6 月、7月
・2017 年 8 月下旬及び 9 月下旬

・2017 年 3 月下旬・8 月下旬・9 月下旬
・2017 年 3 月、7・8 月、10・11 月
・6 月下旬～7 月下旬、3 月上旬～中旬
・7 月中旬（夏休み前）
・6 月と 9 月
・8 月・12 月
・7/11～8/13（必須）
・4 月から 3 月
・3 月～2 月
・3 月 14 日～3 月 23 日、8 月 2 日～8 月 11 日
・3～4 月、7～8 月
・随時
・5～12 月
・3・8 月
・2 年前期
・2017 年 3 月
・4～2 月
・2017 年 8 月下旬および 9 月下旬
・2017 年 4 月～29 年 1 月
・6/13～18、夏季休校、冬季休校
・2016 年 7～8 月
・夏期休暇・冬期休暇・春期休暇・9 月
・1 年次の 2 月下旬
・2017 年 9 月下旬、および 2017 年 9 月下旬～12 月下旬
・2017 年 8 月下旬、および 9 月下旬
・7 月以降
・9/5～9/18
・3 月、7 月、12 月
・春休みから夏休みまで
・2017 年 7 月
・6 月～12 月
・夏季、冬季長期休暇、土日
・夏期・秋期・冬期休暇など授業日以外
・2 月下旬から
・夏期・冬期休暇期間

【 2年次 】

● 学習目標を設定しましたか？

≪有効回答校数 59校≫

設定した	50校	84.7%
設定していない	8校	3.6%
回答なし	1校	

● 学習の評価はしましたか？

≪有効回答校数 59校≫

評価した	41校	93.1%
評価していない	2校	5.0%
回答なし	1校	

● 学生が実習先動物病院に就職を希望した割合は？

≪有効回答校数 59校≫

～2割	10校	16.9%
3～4割	5校	8.0%
5～6割	5校	8.0%
7～8割	20校	33.9%
9割～	13校	22.0%
回答なし	6校	10.4%

● 実際に実習先動物病院へ就職した学生数は？

≪有効回答校数 59校≫

～2割	11校	18.6%
3～4割	6校	10.0%
5～6割	7校	11.9%
7～8割	14校	23.7%
9割～	12校	20.3%
回答なし	9校	15.2%

【 3年次 】

● 実習実施の有無について

≪有効回答校数 61校≫

実施した	13校	21.3%
実施していない	16校	26.2%
回答なし	32校	52.4%

● 実施していない場合、しなかった理由は？（自由回答・記述での回答）

・2 年制のため【「3 年次が存在しない」など同様のものを含む：14 校が記載】

・在籍なし

・3 年制課程設置 2 年目のため、学生なし

【 3年次 】

● 学生総数

≪有効回答校数 13校≫

平均	21.3名
最大	72名
最少	3名

● 実習参加学生数

≪有効回答校数 13校≫

平均	20.2名
最大	70名
最少	3名

● 実習に参加した学生の割合

≪有効回答校数 13校≫

平均	93.1%
最大	100.0%
最少	41.7%

● 実習期間は？

≪有効回答校数　12校≫

平均	10.04日間
最大	21日間
最少	3日間

● 1日あたりの実習時間は？

≪有効回答校数　9校≫

平均	8.06時間
最大	8.5時間
最少	8.0時間

● 実習を実施した時期は？（自由回答・記述での回答）

・8 月【2 校が記載】
・6 月下旬～7 月下旬、3 月上旬～中旬
・1 年を通して実施
・6 月
・8 月 2 日～8 月 11 日
・2017 年 8～9 月
・夏期休暇・冬期休暇・春期休暇・9 月
・3 月、7 月、12 月
・春休みから夏休みまで
・夏期・冬期休暇期間

【 3年次 】

● 学習目標を設定しましたか？

≪有効回答校数　13校≫

設定した	11校	84.6%
設定していない	2校	15.4%
回答なし	0校	

● 学習の評価はしましたか？

≪有効回答校数　13校≫

評価した	13校	100.0%
評価していない	0校	
回答なし	0校	

● 学生が実習先動物病院に就職を希望した割合は？

≪有効回答校数　13校≫

～2割	1校	8.0%
3～4割	2校	15.4%
5～6割	1校	8.0%
7～8割	3校	23.1%
9割～	4校	30.8%
回答なし	2校	15.4%

● 実際に実習先動物病院へ就職した学生数は？

≪有効回答校数　13校≫

～2割	1校	8.0%
3～4割	2校	15.4%
5～6割	2校	15.4%
7～8割	2校	15.4%
9割～	4校	30.8%
回答なし	2校	15.4%

2. 動物病院実習は、どのような目的、内容で実施されましたか？
年次別に、動物病院実習の目的と内容をできるだけ具体的にご記入ください。

【 1年次 】

● 動物病院実習の目的

≪有効回答校数 46≫

回答あり	44校
回答なし	2校

● 1年次の動物病院実習の目的（自由回答・記述での回答）

・動物看護師養成コアカリキュラムに準拠した単位を取得するため。また、修学した知識と技術が実際の獣医療現場で、どのように活かされているのか体験、学習する【4校が記載】
・動物看護師の1日の仕事を知る
・動物病院業務全般の一日の流れや動物看護師業務の見学や実習を行い、理想とする動物看護師像を明確にする
・動物病院での仕事を知る
・実際の診療の流れや入院管理、接客業務を見て学び正しい知識を身につける・現場を知る
・学校で身につけた知識・技術を確認／動物病院内でのマナー、清掃、基本的な飼育管理を動物病院内の流れを把握／動物看護師としての心構えを学び、その中でも動物病院内のスタッフの方々とのコミュニケーション能力を高め、積極的な行動力・研究心の強化
・新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任感を養う
・動物病院の役割と業務内容への理解を深め、就職へのイメージ作り
・職業観を育む（業務内容の把握）／働くことの認識を深める
・動物病院の流れを理解し、どのような仕事をしているのかを知る／病院によって異なる方針をそれぞれ知り、就職先を具体的に考える
・実習ではなく、動物病院一日見学を実施。病院の内容・流れを実際にみて学ぶ
・専門的知識の習得。専攻コース決定の最終確認として
・動物看護について学び始める最初の時期に、一度現場の仕事を体験する
・新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任感を養う
・病院業務内容の把握と理解
・動物看護師に求められる動物病院業務を理解することを目的とする
・現場を知り、将来の目標を明確にするため
・動物病院の1日の流れと、動物看護師の業務を見て学ぶ
・現場の雰囲気を肌で感じながら、職業理解を深め、自分とのマッチングを考える
・動物病院での看護師としての仕事理解
・動物病院の現場を経験し、授業・実習履修に活かす（「総合臨床実習」）／就職活動の一環として
・動物病院および看護師の仕事に携わることで、自身の課題を明確にし、授業にフィードバックする
・病院の雰囲気、仕事内容を知る。受付・診療・治療の流れを知る

・動物病院の医療現場で日頃の成果を発揮し、今後の課題を見つける
・動物看護師の業務・役割を知る。学内での学習と関連付ける。社会の規律を体得
・CT や MRI などの検査機器を扱う AH で検査や実務に携わる
・動物病院、動物看護師の仕事、役割を理解し将来の目標につなげられるよう理解を深める
・現場で働いている動物看護師の仕事を体感する。また、動物看護師養成コアカリキュラムに準拠した単位を取得するため。修学した知識と技術が実際の獣医療現場で、どのように活かされているのか学習する
・現場業務を見学・体験することで、将来動物業界へ就職する上で自分に必要な知識・能力・技術の必要性を学び、今後の学校生活および就職活動に役立てる機会とする
・校内での実習・演習で取得した知識や技術を各施設や現場で活用し実践力を養成する
・一般的な動物病院の業務の補助を行い今後必要な知識技術の参考にする
・講義・学内実習で学んだ知識と技術を基に、実務経験を通して総合的な動物看護、動物医療が実践できるための基礎能力を習得する
・病院内での仕事の概要を知る／社会人のマナー習得
・動物病院の流れを知り、動物看護師の仕事内容を学ぶ
・実際の動物病院を見学・体験することで、動物看護師としての役割や業務について知見を深める／実際の臨床現場における動物看護師の職に対する知見を深める／就職活動として
・動物病院の仕事の実際を見せていただく
・動物病院、動物看護師の業務内容を理解する
・実習生としてのマナー・常識を学ぶ。また、その職業を知り、進路の決定に生かす
・現場を知る。自身の習熟状況の把握
・動物病院実習を通して、動物看護の基礎と動物看護師の役割を理解する

【 1年次 】

● 動物病院実習の内容

≪有効回答校数　46≫

回答あり	43校
回答なし	3校

● 1 年次の動物病院実習の内容（自由回答・記述での回答）

・診察補助、主な処置法、院内清掃、衛生管理など、動物看護技術の実践を学ぶ【5 校が記載】
・見学、掃除
・清掃・消毒・滅菌・検査・調剤・受付・飼主対応・電話対応・手術見学・入院動物の看護など
・動物病院での仕事を学ぶ
・見学、保定、入院管理、清掃
・各々の動物病院の通常業務に準じたもの（基本、研修生にさせていただける内容は、保定、オペ見学、掃除など）

・動物病院・医院内での礼儀作法／応答マナー（問診票、証明書の書き方）／処方食／動物の保定方法、身体一般検査の補助／動物の飼育管理および症状観察／受け付け、処置室、手術室の清掃管理／寄生虫の検査方法／検査器具の操作方法と管理／薬浴の実習と毛刈り（バリカン使用）
上記のうち、病院側で実施できるものを行う
・動物病院での体験実習
・動物病院業務全般
・基本的な動物看護師業務の見学やサポートしてくれるスタッフの下での機材準備や検査助手
・1 年生ということで、まずは病院の流れを知るために見学、企業先によってどこまでさせて頂けるかは、各場の判断に委ねている
・基本的に見学という形。動物病院での、様々な業務・診察・手術などを見学する
・動物病院の実業務体験
・病院での一般業務について学ぶ／処置・手術等の見学
・動物病院での体験実習
・各病院によって実施内容が異なる
・個々の動物病院の方針により異なるが、動物看護師のサポートが中心となる
・病院により異なるため、記入が難しいです
・院内の清掃・雑務、診察・検査・手術見学
・研修生として病院内の雑務一般を担当する
・掃除、治療設備の扱い方、入院動物の世話、保定
・実習先動物病院に一任
・掃除・看護業務補助など
・診療、検査、処置、手術の見学。入院動物処置解説、受け付け、検査補助
・清掃・受付補助・保定補助・手術補助の手伝いなど
・診察・外科手術等の見学、環境整備・衛生管理（院内の清掃など）、器具の滅菌、糞便検査・尿検査・血液検査等の準備、診療補助、患者動物の看護補助など
・各検査機器を使用した検査の補助など
・学校側からの希望、病院側からの提案など意見をすり合わせ、その年次の学生に身に付けたいスキルをつけることができるよう内容を工夫して組んでいる
・清掃、開院準備、入院している動物のお世話、業務補助（受付、診察、会計）、手術の見学、器具洗浄、備品管理、電話応対、カンファレンス等の業務のうち各実習病院で体験させていただけるもの
・礼儀作法、清掃管理、飼育管理及び症状観察、動物の保定方法、臨床検査の補助、治療補助、調剤補助、コミュニケーションを学ぶ
・掃除、洗濯、診察補助、備品補充
・日本小動物獣医師会動物看護師養成校認定基準動物病院実習教育カリキュラム1年生項目
・病院内清掃・洗濯、事務業、など
・掃除、備品の補充、診察見学、手術見学　など
・基本的な実習内容は、動物病院ごとの業務に準拠したものであり、実習先によって指示される業務は様々

・見学のみ。受け入れ先により実際の診療補助もさせていただく
・研修先の病院により異なる。掃除、保定、カルテの整理、手術見学など
・清掃、診察見学、その他業務
・各動物病院のスケジュールに合わせ、犬舎掃除や保定など、動物看護に必要な技術を学ぶ

【 2年次 】

● 動物病院実習の目的

≪有効回答校数 59≫

回答あり	57校
回答なし	2校

● 2 年次の動物病院実習の目的（自由回答・記述での回答）

・動物看護師養成コアカリキュラムに準拠した単位を取得するため。また、修学した知識と技術が獣医療現場で、どの程度役立つのかを確認する【5 校が記載】
・コアカリの一部を現場で履修させる「院内実習」として、またはいわゆる就活の「インターンシップ」として
・実際に動物病院で就業体験を行う事で、仕事理解を深める。保定や血液検査を経験し、知識及び技術を身に付ける
・様々な動物病院に適応できる動物看護師を目指し、各々の病院の看護技術を習得する
・受診動物への理解を深め、寄り添う心を養う。授業で学べない知識技術、コミュニケーション能力を修得する
・動物病院での仕事を身に付ける
・学内で学んだ知識を活用し、積極的に実践していく。また就職も視野に入れ様々な角度からそれぞれの病院の特徴を知る
・コアカリキュラムにおける総合臨床実習として
・就職内定を見据えて
・動物医療現場にて臨床経験からより実践的な看護と専門職としての意識を身につける
・現在までに身につけた知識・技術の確認／コミュニケーション能力、積極的な行動力、研究心の強化／第一段階実習で得た経験を振り返り、より確実に業務を遂行
・新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任感を養う
・就職活動／高度医療への理解
・就職を前提とした実習／社会人としての在り方の実践
・自分が目指す就業先を意識し、かつ仕事として役立てられる動きを身に付ける
・動物病院での仕事を体験し、仕事に対する考え・理解を深める。就職先を前提とする
・専門的知識の習得。卒業を控え社会に出て行く学生に実際に職場で仕事を体験する機会を与えるため
・就職を目指し、より実践的な目線で病院での業務を経験する

・新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任感を養う
・就職活動として行き、実際の現場での仕事を体験し、学ぶ
・VT の仕事内容の理解／就職活動
・就職活動兼病院業務内容の習得
・動物看護師の仕事をより深く知り、自ら考え行動できることを目的とする
・実際に就職先を探し、実習を通し病院と本人のマッチングをする為
・それぞれの動物病院の違いを知り、そこで必要とされる動きを学ぶ
・2 年制：就職に向けて意識・技術の向上／2 年制：職業理解の更なる向上
・看護師としての知識、技術の習得。就職を希望する病院での職場研修
・動物病院で働く上での基本的な心構えと 3 年次の実習への足掛かりとする
・動物病院の現場を経験し、授業・実習履修に活かす（「総合臨床実習」）／就職活動の一環として
・動物看護師養成コアカリキュラムに準拠した単位を取得するため。また、修学した知識と技術が獣医療現場で、どの程度役立つのかを確認する
・実習を通して、課題と目標を明確にし、不足部分の強化を図るとともに、進路選択にも役立てる
・検査方法、手術準備、受付、電話応対等の手順を学ぶ
・就職を希望する医療現場で習得した知識と技術、コミュニケーション能力を発揮し新人スタッフとしての心構えと責任感を養う
・実務をとおし、動物看護師の業務に関する理解を深め専門職としての能力を高める。患者動物に対する動物看護技術の向上を目指す。学内で学ぶことが出来ない飼主応対を体得する
・就職を前提としたインターンシップ
・各地域にある個人病院にて、現場での実務に携わる
・就職・内定を視野に入れ、動物看護師の業務の理解を深め、日々学んでいるスキルの確認、新たな技術の習得など日々の学習意欲にもつなげる
・就職活動を兼ねた病院見学
・学校で学んだことがどのように現場で使われているかを知る／プロの技術や職業観を間近で見学・体感する／VN としての意識向上につなげる
・臨床実務実習を通じて一次診療施設と二次診療施設の役割や目的の違いを理解する
・前回の実習で学んだこと、学校で学んだことを発揮する
・就職活動の一環として現場を体験し、現場における様々な事柄を体験する
・講義・学内実習で学んだ知識と技術を基に、実務経験を通して総合的な動物看護、動物医療が実践できるための基礎能力を習得する
・動物医療現場での看護師の役割を体験実習によって理解する
・就職の希望
・現場でしか学べないことを学ぶ
・就職先とのミスマッチを防ぐ
・授業で学習したことを活かし、積極的に行動できるようになる
・学生の職業意識と、卒業までの学習目標を自覚させ、学習意欲を高めるため

・実際の動物病院を見学・体験することで、動物看護師としての役割や業務について知見を深める／実際の臨床現場における動物看護師の職に対する知見を深める／就職活動として
・動物病院の仕事の理解
・就職活動を視野に入れ、動物病院・動物看護師の業務内容を理解し現場で必要な力を身につける。学校で学んだ知識・技術がどの程度身についているか確認し今後の課題を見つける
・社会人としてのマナー・一般常識を学ぶ。様々な病院を見学し、実習の経験を増やすことで就活に生かす
・現場経験を積む。就職活動（卒業年度生）
・就職を見据えた研修として、自身の目標を明確にし、看護技術の向上を図る

【 2年次 】

● 動物病院実習の内容

≪有効回答校数　59≫

回答あり	56校
回答なし	3校

● 2 年次の動物病院実習の内容（自由回答・記述での回答）

・動物病院での勤務を想定した内容で、カルテ管理、会計業務を含む受付業務全般及び、治療、手術の補助業務、入院動物の飼養管理などを行う【5 校が記載】
・院内実習（別紙参照）
・1.動物病院内にて実習　2.看護過程
・清掃・消毒・滅菌・検査・調剤・受付・飼主対応・電話対応・手術見学・入院動物の看護など
・診察、手術見学、清掃、消毒、入院管理補助、調剤補助、検査の補助。各動物病院での特色活動、トリミング
・動物病院での仕事を身に付ける。可能であれば飼主さんへの対応も含む
・見学、保定、入院管理、清掃、検査助手、手術助手、診療補助
・コアカリキュラムに法り実施
・各々の動物病院の通常業務に準じたもの（基本、研修生にさせていただける内容は、保定、オペ見学、掃除など）
・①院内清掃②病院受付③診療補助④臨床検査⑤入院動物の管理　※左記の内容で、可能な範囲
・動物の臨床検査の補助（血液検査、生化学検査、尿検査、細胞診）／内用、外用薬各種の名称、投薬量計算、薬の計量方法、分包方法／術前の準備（滅菌と殺菌）とバイタルサインと血液ガス分析手技／動物の手術の補助、麻酔管理の見学／術後のICU管理／手術後の器具洗浄、滅菌の実習／治療の補助（補液の仕方、留置処置、採尿の仕方、歯石除去／X線フィルムの現像の仕方、現像器の管理／動物病院医療実務（受付業務におけるカルテ出し、カルテ管理、コンピュータ入力の仕方、会計処理）
上記のうち、病院側で実施できるものを行う

・動物病院での体験実習
・動物病院業務全般／CT・MRI検査の見学、手術見学
・患者動物の検査実施、患者動物の看護など、現場スタッフさんが求める業務を実施している
・求人がある場合は、内定判断の場としてどこまでの仕事をさせて頂けるかは各場の判断に委ねている
・動物病院の指導者のもと実習を行う。病院での仕事を理解できるよう、実技及び見学という形の指導を受ける
・動物病院の実業務体験
・指示に応じて様々な業務をこなす
・動物病院での体験実習
・病院業務の補助／掃除、消耗備品補充、保定、受付等
・清掃・保定・補充・診察補助・手術見学
・各病院によって実施内容が異なる
・個々の動物病院の方針により異なるが、獣医師の診療補助が中心となる
・病院により異なるため、記入が難しいです
・診察準備、外科手術の補助、検査補助
・2 年制：スタッフ候補生として病院内の仕事全般を担当する／3 年制：研修生として病院内の雑務一般を担当する
・動物看護師業務全般の補助
・保定補助、カルテ作り、清掃、診察補助、入院動物世話
・実習先動物病院に一任
・掃除・看護業務補助・オペ見学
・受付・電話対応対、診察、検査の補助および実施
・清掃・受付補助・保定補助・手術準備・手術補助・グルーミング補助など
・上記（診察・外科手術等の見学、環境整備・衛生管理（院内の清掃など）、器具の滅菌、糞便検査・尿検査・血液検査等の準備、診療補助、患者動物の看護補助など）に加え、臨床検査の補助または実施、調剤の補助、飼主応対、患者動物の看護、外科手術の補助など
・動物病院業務全般
・受付業務や、診察時の保定、手術補佐など
・研修先として選択する病院により異なる。検査や入院患者のお世話、電話対応、受付対応、保定など幅広く「一緒に働くスタッフになる」ことも視野に実習させていただいている
・動物看護師業務全般（病院様により行う内容は変わります）
・清掃、開院準備、入院している動物のお世話、業務補助（受付、診察、会計）、手術の見学、器具洗浄、備品管理、電話応対、カンファレンス等の業務のうち各実習病院で体験させていただけるもの
・臨床検査準備、診察の補助、高度の手術の準備や補助、エックス線撮影やCT撮影の補助等の業務を実習する
・掃除、洗濯、診察補助、備品補充受付、薬作り
・動物病院での開院準備～閉院作業までの業務全般
・日本小動物獣医師会動物看護師養成校認定基準動物病院実習教育カリキュラム2年生項目

・①受付業務と接遇　②診察補助、手術見学　③病理検査と検査器具の説明④調剤と処方⑤総合業務の実践
・病院内清掃・洗濯、事務業、検査一般、など
・受付、診察、手術補佐（見学）等
・掃除、入院動物のお世話、診察補助、手術見学・補助、薬の準備、各検査　など
・掃除、入院動物の世話、診察補助、薬の分包、病院見学
・基本的な実習内容は、動物病院ごとの業務に準拠したものであり、実習先によって指示される業務は様々
・働くことによって身近に仕事を感じてもらい雇用されたときとの違いがないように
・研修先の病院により異なる。掃除、保定、カルテの整理、手術見学など
・清掃、診察見学・補助、預かり・入院動物管理の手伝い、その他業務
・各動物病院のスケジュールに合わせ、犬舎掃除や保定など、動物看護に必要な技術を学ぶ

【 3年次 】

● 動物病院実習の目的

≪有効回答校数　19≫

回答あり	19校
回答なし	0校

● 3 年次の動物病院実習の目的（自由回答・記述での回答）

・本学科は 2 年制課程のため実施せず【5 校が記載】
・動物病院での仕事を身に付ける。就職活動も含む
・コアカリキュラムにおける総合臨床実習として
・動物医療現場にて臨床経験からより実践的な看護と専門職としての意識を身につける
・就職活動／高度医療への理解
・新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任感を養う
・就職活動兼病院業務内容の習得
・就職に向けて意識・技術の向上
・企業研究を重ねた上で、希望就職先でのインターンシップとする
・2 年次の目的と同じ。一次診療施設の他、高度医療施設、保護動物診療施設などの実習をとおし見識を深める
・前回の実習で学んだこと、学校で学んだことを発揮する
・就職活動の一環として現場を体験し、現場における様々な事柄を体験する
・就職活動を視野に入れ、動物病院・動物看護師の業務内容を理解し現場で必要な力を身につける。学校で学んだ知識・技術がどの程度身についているか確認し今後の課題を見つける
・2 年制のため、3 年次はなし
・現場経験を積む。就職活動

【 3年次 】

● 動物病院実習の内容

≪有効回答校数 19≫

回答あり	18校
回答なし	1校

● 3 年次の動物病院実習の内容（自由回答・記述での回答）

・本学科は 2 年制課程のため実施せず【5 校が記載】
・動物病院での仕事を身に付ける。可能であれば飼主さんへの対応も含む
・コアカリキュラムに法り実施
・①院内清掃②病院受付 ③診療補助④臨床検査 ⑤入院動物の管理 ※これらで、可能な範囲
・動物病院業務全般／CT・MRI検査の見学、手術見学
・動物病院での体験実習
・各病院によって実施内容が異なる
・スタッフ候補生として病院内の仕事全般を担当する
・保定補助、カルテ作り、清掃、診察補助、入院動物世話
・上記（診察・外科手術等の見学、環境整備・衛生管理（院内の清掃など）、器具の滅菌、糞便検査・尿検査・血液検査等の準備、診療補助、患者動物の看護補助など）に加え、臨床検査の補助または実施、調剤の補助、飼主応対、患者動物の看護、外科手術の補助など
・掃除、洗濯、診察補助、備品補充受付、薬作り
・動物病院での開院準備～閉院作業までの業務全般
・研修先の病院により異なる。掃除、保定、カルテの整理、手術見学など
・2 年制のため、3 年次はなし

3. 平成28年度に実習を受け入れた動物病院についてご記入ください。

3－1. 貴校の学生実習を受け入れた動物病院数は？

≪有効回答校数 57≫

平均	52.1 院
最大	178 院
最少	1 院

3－2.　動物病院に勤務している獣医師数(院長含む)は？ ※常勤・非常勤は不問

● 1人
≪有効回答校数 48≫

平均	10.7 院
最大	65 院
最少	0 院

● 2～5人
≪有効回答校数 48≫

平均	17.8 院
最大	89 院
最少	0 院

● 6人
≪有効回答校数 49≫

平均	5.7 院
最大	54 院
最少	0 院

● 不明
≪有効回答校数 47≫

平均	6.7 院
最大	68 院
最少	0 院

3－3.　動物病院に勤務している認定動物看護師数は？※常勤・非常勤は不問

● 1～2人
≪有効回答校数 47≫

平均	4.0 院
最大	38 院
最少	0 院

● 3～6人
≪有効回答校数 47≫

平均	8.4 院
最大	90 院
最少	0 院

● 7人以上
≪有効回答校数 48≫

平均	2.5 院
最大	30 院
最少	0 院

● 不明
≪有効回答校数 45≫

平均	25.2 院
最大	124 院
最少	0 院

3－4.　動物病院がこれまでに貴校の実習学生を受け入れている継続年数は？

● 1年(新規)
≪有効回答校数 47≫

平均	9.0 院
最大	89 院
最少	0 院

● 2～5年
≪有効回答校数 48≫

平均	10.1 院
最大	58 院
最少	0 院

● 6年以上
≪有効回答校数 45≫

平均	9.6 院
最大	66 院
最少	0 院

● 不明
≪有効回答校数 44≫

平均	9.8 院
最大	124 院
最少	0 院

3－5.　動物病院が1回の実習で受け入れた貴校の学生数は？

● 1名

≪有効回答校数 49≫

平均	43.9 院
最大	178 院
最少	0 院

● 2～3名

≪有効回答校数 49≫

平均	0.2 院
最大	3 院
最少	0 院

● 4名以上

≪有効回答校数 51≫

平均	2.8 院
最大	29 院
最少	0 院

● 不明

≪有効回答校数 50≫

平均	0 院
最大	0 院
最少	0 院

3－6.　実習先の動物病院へ実習指導料、もしくは謝礼金を支払いましたか？

≪有効回答校数 59≫

支払った	3 院
支払っていない	56 院
回答なし	0 院

● 支払っている場合は、実習動物病院の件数）病院

≪有効回答校数 3≫

平均	4.67 院
最大	12 院
最少	1 院

3－7. 学生の動物病院でのアルバイト（報酬有）を正規の動物病院実習として認めていますか？

≪有効回答校数 59≫

認めている	8 院
認めていない	49 院
その他	2 院
回答なし	0 院

● **その学生の動物病院実習に対する評価は行っていますか？**

≪有効回答校数 8≫

行っている	3 院
行っていない	5 院

● **「評価を行っている」と答えた場合、どのような方法で評価しているか具体的にご記入ください（自由回答・記述での回答）**

・報酬無しの実習と同じ内容で評価。研修評価表を毎回提出させている
・実習先に研修評価表を送付し、記入いただいたものを評価に使用する
・学生は本校様式に従ってレポートを提出させ、研修先には別途様式で簡単な評価をつけてもらう

● **3-7 で「その他」を選んだ場合の具体的内容について（自由回答・記述での回答）**

・内定先の病院でのアルバイトは認めているが動物病院実習の実習単位としては認めていません。評価も求めません
・対象無し

3－8. 平成26年、27年、28年の3年間で、実習動物病院のうち、貴校の学生を採用した動物病院の件数をご記入ください。

全動物病院 （ ）病院のうち （ ）病院が学生を採用

● 全実習動物病院

≪有効回答校数 41≫

平均	126 院
最大	689 院
最少	2 院

● 貴校の学生を採用した動物病院の件数

≪有効回答校数 42≫

平均	47.4 院
最大	145 院
最少	2 院

● 全実習動物のうち、貴校の学生を採用した動物病院の割合

≪有効回答校数 41≫

平均	43.5 %
最大	100.0 %
最少	10.9 %

4. 貴校の学生が実習を受ける動物病院の決定方法についてお聞かせください。

4－1. 実習動物病院の選定に関し、実習前に学生と事前の相談の機会を設けましたか？

≪有効回答校数 59≫

設けた	59 院
設けていない	0 院
回答なし	0 院

4－2. 実習動物病院はどのような方法で決定しましたか？（複数回答）

≪複数回答あり≫

学生が自主的に探して決めている	22 校
学校が主導して学生の実習先動物病院を決めている	10 校
原則学生が主体的に決めているが、学校で支援する場合もある	39 校
その他	7 校

4－3. 学生の実習を受け入れる動物病院を確保するために、学校ではどのような活動や取り組みを行いましたか？

≪有効回答校数 59≫

行った	43 校
特に行っていない	16 校
回答なし	0 校

● 行った場合、その活動や取り組み内容をご記入ください （自由回答・記述での回答）

・教員による電話依頼、直接訪問などにより依頼することもある【5 校が記載】
・地元の獣医師会へ協力を依頼した。獣医師の学会やセミナー等で広報を行った
・電話でのアポイントメント
・地道に電話連絡での受入の確認
・地元の獣医師で構成する会へのセミナー会場の提供。会員動物病院は学生をできるだけ受け入れるよう取り決めてくださっています
・合同企業説明会・OBOGセミナー・各学会ブース出展（WJVF・動臨研）・情報誌への掲載
・学生が希望した動物病院すべてに電話をかける
・一括求人依頼の際、実習が就職に直結する旨を文章に記載している
・求人情報の収集、学生からの希望実習先のリストアップ等
・県獣医師会への協力依頼、獣医学会への参加、獣医師会の主催するフェスティバルへの参加
・獣医師会の賛助会員になり、イベントへの参加及び協賛。セミナー・懇親会などへの参加

・開校時、院長先生に特別顧問となっていただき、研修等の受け入れを依頼
・地元の獣医師会への協力依頼、病院への訪問、獣医師会の学会やセミナー等での広報
・電話で実習の受け入れが可能かを確認した
・動物病院への個別訪問
・訪問を行い、研修の依頼などを実施した
・千葉県獣医師会との連携や学内での就職セミナーの積極的な運営
・求人票フォームを同封した就職活動用パンフレット送付。インターンシップ登録票受理→掲示
・動物病院訪問および来校時に、インターン受け入れの依頼を行う／インターンシップ実施確認のアンケートを動物病院に送付
・新規開拓の訪問活動。講師会での実習受け入れ先紹介依頼
・直接訪問し、依頼した。また、電話で依頼した
・ホームページや個別訪問で求人票や研修受け入れ票の掲出をお願いしている
・各エリアの AH へ実習依頼の書状を送付など
・キャリアセンターの担当者が病院訪問等行う。また病院側からご連絡頂き、求人が届くケースが多い
・学生が行きたい病院を探し、学校側から実習の可否を確認し、改めて学生から受け入れ願いの電話をかけさせた
・地元獣医師会の会合や動物愛護フェスティバルへの参加、定期的な訪問活動を実施
・学生が出身地での実習を希望している場合で実績が無い場合は、自校において新規開拓をしている。実習受け入れの実績がある動物病院様へは、年に一度、挨拶に伺っている
・獣医師会へ協力を依頼した
・随時、実習生受入希望を求人先へ調査している
・学科教員はすべての実習先へ依頼電話をする。また実習内容について訪問説明を実施する
・直接病院に連絡し実習の受け入れをお願いした
・栃木県獣医師会と協力体制をとっている
・企業訪問
・インターンシップを始めた当初は、可能な限り研修先を訪問して御礼に周った
・就職担当が昨年度実習に行った病院に挨拶に行った
・卒業生が就職した動物病院や、以前にも実習を受け入れていただいた動物病院にお礼の挨拶のため伺い、その際に実習への協力を依頼した
・地元獣医師会への協力依頼。学校より学生の実習希望動物病院へ直接依頼
・実習先への巡回や、動物愛護イベントやボランティア活動に積極的に参加し、情報収集を行った。また、新規先へは、丁寧な説明とお願いに回っている

● 特に行っていない場合、その理由をご記入ください （自由回答・記述での回答）

・長年の付き合いがあるため
・県内の動物病院様とは、継続的にインターシップや卒後セミナー開催、就職求人依頼などで関わりがある為、実習受け入れに関しても動物病院様もプラスに考えてくれる院長が多いため
・依頼を行えば、受け入れていただける

・これまでに受け入れていただいている病院や非常勤講師の病院へ依頼しているため
・実習を受け入れてくださっている個々の動物病院とのコミュニケーションをしているので、受け入れ先の確保の必要性が、現状ではない
・本来ならば行った方がいいと思うが、人員的に難しくて行えていない
・学生主体で実習先を選定しているため、学校としては特にしておりません
・研修先は学生が研修に行きたいところを探させており、新規でも前向きに受け入れていただいている。探せない学生には教員が過去の研修先に連絡し受け入れていただいています
・実習の依頼について、目的を理解し協力をしていただけることがほとんどであるため。受け入れの体制が整っていないなどを理由に断られることの方が少ない
・道内（特に札幌圏は協力的）
・新卒採用を予定している病院の大多数がインターンシップ（実習）受け入れを行っている為
・学生が自己の意志により主体的に行動することで、現状では実習先の確保は難しくない
・当校が少人数のため、比較的受け入れていただきやすい
・繁忙期を避けている

5. 貴校の学生が不安感を持たずに動物病院実習に臨めるような工夫や支援を行いましたか？

≪有効回答校数　59≫

行った	59 校
特に行っていない	0 校
回答なし	0 校

● 「特に行っていない場合、その理由をご記入ください（自由回答・記述での回答）

----　回答 0 校のため、記入なし　----

● 行った場合、その内容をお知らせください

≪複数回答あり≫

事前説明会、オリエンテーション等の実施	50 校
実習動物病院に関する情報の提供	50 校
実習に関わる特別授業の実施	29 校
先輩動物看護師からのアドバイス、情報の提供	35 校
その他	4 校

● **上記にて「その他」を選んだ場合の具体的内容について （自由回答・記述での回答）**

・初めてのインターンを提携先に設定し立ち振る舞いを事前・現場・事後に指導している
・1 年次から日常的に意識づける
・実習先にてキチンと自己PRが出来るように個人面接試験の実施
・マナー等の指導や事前説明、質問等の受付

6. 実習先の動物病院と事前に打ち合わせを行いましたか？

〈 学校から実習動物病院に対して 〉

≪有効回答校数 59≫

行った	53 校
特に行っていない	6 校
回答なし	0 校

● **行った場合、その内容をお知らせください**

≪複数回答あり≫

実習目的・到達目標の提示	34 校
実習内容に関する要望・提案	37 校
実習の期間・時間について	49 校
実習の動物病院側の担当者について	19 校
学生情報の提供（履修状況、成績、通勤ルート、時間等）	36 校
実習での注意事項、動物病院の就業規則等について	31 校
学生の保険加入状況、その保険のカバー範囲について	38 校
学校側の緊急の場合の担当者、連絡先について	44 校
実習終了後の評価と回収の方法について	45 校
その他	1 校

● **上記にて「その他」を選んだ場合の具体的内容について （自由回答・記述での回答）**

・履歴書・誓約書の送付について

7. 実習先の動物病院から事前に貴校に対して学生の受け入れに関する注意事項、受け入れ要綱などの提示はありましたか？　〈 実習動物病院から学校に対して 〉

≪有効回答校数　59≫

提示があった	59 校
特に提示はなかった	0 校
回答なし	0 校

● 提示があった場合、提示があった動物病院数

≪有効回答校数：26/41校のうち回答した学校≫

平均	29.5 院
最大	250 院
最少	1 院

● 提示があった場合、動物病院から提示を受けた内容

≪複数回答あり≫

職場のルール・方針など	16 校
実習の時間・スケジュール、内容について	32 校
実習学生に関する情報提供の依頼（履修状況、成績、通勤時間等）	17 校
動物病院の実習担当者	11 校
その他	6 校

● 上記にて「その他」を選んだ場合の具体的内容について （自由回答・記述での回答）

・就職希望の有無、意志の確認
・実習受け入れ期間
・就職する意図の有無
・服装、交通手段、インターンシップ保険加入

8. 実習前に行った貴校の学生への教育や指導、準備等についてお聞かせください。

8－1. 動物病院実習に関わるカリキュラムマップを整備しましたか？

≪有効回答校数 59≫

整備した	6 校
整備していない	52 校
回答なし	1 校

8－2. 実習日誌などの報告書の規定について整備しましたか？

≪有効回答校数 59≫

整備した	58 校
整備していない	1 校
回答なし	0 校

8－3. 実習前教育として特別授業等を実施しましたか？

≪有効回答校数 59≫

整備した	44 校
整備していない	15 校
回答なし	0 校

8－4. 実習前教育で特に注力した指導項目、内容、教科はありましたか？

≪有効回答校数 58≫

あった	57 校
特になかった	0 校
回答なし	1 校

● あった場合、その内容をお知らせください

≪複数回答あり≫

マナー（挨拶・言葉使い・身だしなみ等）	57 校
連絡・報告の徹底	53 校
守秘義務、守秘事項について	47 校
マナー（SNS、携帯電話等での情報発信、写真の撮影）	46 校
看護実技の復習・確認	28 校
動物病院で予定されている実習内容の復習	20 校
特に注力した教科	13 校
その他	2 校

● 上記にて「特に注力した教科」を選んだ場合の具体的内容について（自由回答・記述での回答）

・飼育管理実習【3 校が記載】
・臨床検査学実習
・動物看護実習等
・キャリアガイダンス
・サービス接遇、ビジネスマナー等
・一般教養、コミュニケーショントレーニング
・院内コミュニケーション
・看護実習・コミュニケーション・サービス接遇
・院内コミュニケーション、臨床検査学実習Ⅰ
・ビジネスマナー・動物看護実習Ⅰ・総合臨床実習

● 上記にて「その他」を選んだ場合の具体的内容について（自由回答・記述での回答）

・1 年次、2 年次では異なります。1 年次はマナー・立ち振る舞い重点的、2 年次は専門力、アピール、動きなどを重点的

8－5. 動物病院実習の意義・目的についての指導は十分に行いましたか？

≪有効回答校数 59≫

行った	59 校
行っていない	0 校
回答なし	0 校

● **行っていない場合、その理由をご記入ください（自由回答・記述での回答）**

---- 0 校のため、記入はなし ----

8－6. 動物病院での実習に能力・スキルのレベルが達していない、または実習が困難と思われる学生には、どのような対応をとりましたか？具体的にご記入ください。

● **具体的内容について（自由回答・記述での回答）**

・最低限度の挨拶、マナーの遵守指導、受け答えのロールプレイング、動物病院内で想定される事例研修を行った【4 校が記載】
・学生個別相談・面談・指導／実習先の選定と精査／実習先への学生情報の事前共有【2 校が記載】
・そのような学生はいなかった
・病院に学生の現状を伝え、ご理解ご協力を頂く
・動物病院実習には参加せず、学校の通常カリキュラムに専念するよう指導した
・遅刻欠席が多い学生について、1か月学校に来させ、休まなかったら実習へ。コミュニケーションが難しい学生について、事前に動物病院へ説明し、OK であれば実習
・学内において実習を実施（実習期間、時間は他の学生と同様に行う）
・個別指導・保護者との連携
・個別指導、実習を次の回へ見送るなど
・学内にて、動物病院で看護師が行う業務と同等の作業を実施
・実習の実施を検討や中止（学内での実習に変更）
・実習を依頼する学生について事前に説明したうえで、受け入れ可能な施設で実習を行った
・本人へは、学校側より動物病院を案内し、受け入れて頂ける動物病院の院長へは、本人の状況（実習困難だと思われる点）は説明し、目標レベルも共有し実習を行っています
・1 年次はインターンを見送る。もしくは病院側（良く話ができそうな所をピックアップして）に承知いただく（事前相談）／動物病院が難しいと判断した場合はペットショップや他企業をあっせん
・受け入れ動物病院と密に連絡を重ね、学生の能力・スキルを可能な範囲で伝え、理解していただいた上で、実習を行ってもらう。学生と学校の話し合いも重ね、互いの同意の上で、実習を決定する
・オリエンテーションの実施及び、実習の代替となるメニューを学校で構える
・追加課題、個別相談
・三者面談を行い、実習に行かせられない理由を説明し理解してもらった。今後の課題を明確にし、目標を持たせた
・学内で実習を行い学生のレベルの把握をする
・学内での特別実習の実施、理解のある動物病院で特別に受け入れていただく
・担任教員と共に面談を行い、まずは学内での学習に注力させる。その後、実習に行けると判断できれば時期を見て行かせている
・事前に動物病院に連絡し,該当学生について説明を行った
・習熟度が低い学生に関しては、先方への事前連絡等により了解を得、仕事の内容に差別化をしていただく等をしました。実習困難と思われる学生は過去に該当ありません

・研修の時期を遅らせスキルアップを行った後、本人の意思を確認後研修に出している。また問題のある学生を研修に出す場合、病院の院長先生に事前に学生のスキル状況を相談した上で研修の許諾をいただくことにしている
・他の職種のアルバイトを経験させるように指導した（コミュニケーション能力の向上のため）
・特になし（全員必修、自らアポイントを取り実習を依頼、実施していただいた）
・最低限度の挨拶、マナーの遵守指導、受け答えのロールプレイング、動物病院内で想定される事例研修を行った
・個別指導
・実習を受け入れてもらえるか学生の状況説明をした上での依頼を行った
・学生の事情をご理解いただいている動物病院での実習
・先方に学生レベルを正直に伝え、受け入れ可能か確認した
・学年ごとの目的や実習内容ではなく、当該学生の習熟度にあった内容に変更し、個別の指導を実施する。実習の依頼時は、院長他　実習担当者と面談し詳細を伝え、受け入れ可能か検討していただく
・個別指導で対応している
・実習の評価表を元に面談を行う。自己の振り返りを行い、将来の進路への不安や迷い、悩みが無いかを確認し、問題点や課題、次の研修への目的、目標の設定など個別対応を行う
・挨拶、マナーの遵守指導。指示受け答えのロールプレイングなど
・本人の意思確認を行った上で、他の実習先（動物病院以外）の紹介を行った。行きたい場合は個別で課題作成や補習を実施するなどの対応を取った
・特に改善が必要と思われる要素について、他学生より時間をかけて指導することと、実習中の具体的な行動内容の指示（挨拶をいつどのようにするか、指示を受けるさいはどのようにうけるかなど）をわかりやすく説明した
・道内（特に札幌圏は協力的）
・前提として、弊校は、単位制となっており実習は必須単位である。過去の対応としては、動物病院の担当者様へ学生の情況（精神疾患等）を説明して実習を受け入れて頂き、見学実習という形で実習へ参加させた
・校内実習を行った。職員室内の業務の補助など
・事前に個別で指導した
・開設時（平成 15 年）からの動物病院とのお付き合いの中で、能力・スキルが低い学生にとっても十分な指導をしていただくことが出来る動物病院に実習を依頼している。また、受け入れ先にはその学生についての情報（どこまで理解が進んでいる等）を提供して実習時のミスマッチングが生じないよう工夫している
・あらかじめ病院に学生の学習状況や学力到達度を伝えた
・マナーの確認（メモを取らせるなど）、教科の復習など
・日頃から、あいさつ、清掃や衛生面の指導については厳しく行っており、実習が困難と判断される学生はおりませんでした
・放課後、長期休暇中の補講授業（実習、座学）、学校の飼育実習の実施
・学内の実習に振り替えて、外部研修への参加を制限した

・信頼できる付き合いの長い動物病院の獣医師にやや能力が不足している旨の説明をし、ご理解ご協力いただける先生には本人の希望により実習に出向かせた／保護者面談等実施し、病院実習が必須である統一の受験資格等について相談し決定する
・実習が困難な学生には、まずは短い時間からの施設見学を依頼した。その後学生との個別面談を行い、今学生に足りない部分の課題を見つけさせる
・事前に学生と簡単な面談等を行い、学校で実習をした
・本人・保護者とのカウンセリング。対応可能な動物病院への依頼
・本学院は在学中に最低5回の動物病院実習を義務付けているが、初回はプレインターンシップとして、併設する動物病院で動物病院実習を行い、能力・スキルのレベルが達していない場合には、レベルに達するまで実習の延長や担当教員による補習を行う

8－7. 実習中における緊急時の連絡方法、連絡先は事前に学生へ提示しましたか？

≪有効回答校数 59≫

提示した	57 校
提示していない	1 校
回答なし	1 校

8－8. 実習を受けた学生は、学校で保険に加入しましたか？

≪有効回答校数 59≫

加入した	58 校
加入しなかった	1 校
回答なし	2 校

● 保険に加入しなかった場合、その理由は？（自由回答・記述での回答）

---- 上記 1 校の理由の回答に、記載なし ----

● 加入した保険の種類は？（自由回答・記述での回答）

・学生総合保障制度【4 校が記載】
・インターンシップ保険【3 校が記載】
・学生・生徒災害傷害保険、インターンシップ活動賠償責任保険
・賠償責任保険、傷害保険
・傷害総合保険
・インターンシップ活動賠償責任保険／専修学校各種学校生徒災害障害保健

・学生保険
・団体傷害保険、賠償責任保険
・一般財団法人職業教育・キャリア教育財団インターンシップ活動賠償責任保険
・インターンシップ活動賠償責任保険
・インターンシップ用保険
・職業教育・キャリア教育財団　インターンシップ保険
・傷害保険
・団体傷害保険、賠償責任保険
・学生・生徒災害損害保険
・インターンシップ賠償責任保険
・日本看護学校協議会共済会(Will)／個人情報漏えい保険
・学生災害傷害保険、インターンシップ活動賠償責任保険、学生総合保障制度
・傷害保険　賠償責任保障
・①専修学校学生・生徒災害障害保険
②こども総合保険=このなかにインターンシップ保証が入っている
・インターンシップ活動賠償責任保険
・学生・生徒災害傷害保険
・職業教育・キャリア教育財団/インターンシップ活動賠償責任保険
・キャリア教育共済協同組合　学生ベーシック
・インターンシップ活動賠償責任保険
・傷害保険、インターンシップ保険
・インターンシップ賠償責任保険
・損害保険ジャパン日本興亜株式会社　学生総合保険
・学校生徒災害傷害保険
・学生総合保険
・インターンシップ活動賠償責任保険
・学生総合保障制度（キャリア教育共済協同）
・学生生徒災害傷害保険等インターンシップ活動賠償責任保険
・インターンシップ傷害保険
・全員加入している（入学時に必須である）
・インターンシップ活動賠償責任保険
・学生保険
・インターンシップ活動賠償責任保険、東京海上日動
・損害保険ジャパン日本興亜株式会社
・生徒災害傷害保険、賠償責任保険
・災害補償保険、施設賠償責任保険、受託賠償責任保険
・学生・生徒災害生涯保険

● **加入した学生の割合は？（約　○%）**

≪有効回答校数　51/56校のうち回答した学校≫

平均	99.9 %
最大	100.0 %
最少	95.0 %

8－9.　その他、学生に対して行った取組みや工夫がありましたらその内容をご記入ください。

● **具体的な内容について（自由回答・記述での回答）**

・学生間でのロールプレイング【3 校が記載】
・欠席連絡の行い方
・面接練習・電話練習・スーツセミナー・ペット業界人によるセミナー
・必ず、事前挨拶に伺い、実習をスタートする前に目的や保険、評価の依頼等を実施する。また実施後はお礼状、校内新聞作成を実施しクラス内でプレゼン会を行い情報の共有を図った。
・病院が求めている人材（それぞれ異なる）や相性を良く考え、学生主体にせず割り当てています
・実習ノートを必ず書かせるよう指導。課題点・反省点・疑問点・指導内容・その日の仕事内容・注意を受けた事等について毎日記入し、実習指導者のチェックを受ける
・人間力強化のための、あいさつ活動、清掃活動
・学外の実習参加者全員を対象に心得やルールについての研修を行った
・研修の際に取り交わす覚書を病院、学校両者で確認を行い研修目的以外の業務（運転業務など）を学生に指示されないようにしている。ケガした場合の具体的な対処方法、治療費支払い、保険の手続きなどの説明を事前に行っている
・インターンシップでの個々の目標の明確化
・卒業生の記入した実習日誌を見せるなど
・卒業生が、病院実習の体験談を講演する機会を設けた。企業説明会を実施し、受け入れ病院と学生が事前に接点を持てるようにした
・研修中のサポートとして期間中に担任が施設へ訪問し、学生、スタッフとコミュニケーションを図り円滑に研修が実施されるよう工夫した
・実習先への誓約書（遵守等）の提出させることにより緊張感と実習への意欲を向上させる。又、動物病院での実習期間中、実習内容を実習日誌へ記録させ、学習の度合いを図る。又、実習日誌へは、毎日、実習担当者様からコメント等アドバイスいただき学習成果の向上へ繋げている
・あいさつ、返事など出来て当たり前のことが普通にできるように普段の時から指導している
・卒後セミナーや卒業生による特別授業などを行い、卒業生から直接情報提供を受けられるよう配慮した。また、年に 2 回本学院の施設を提供し、地元の獣医師主催の TNR 活動に参加することで、全国から 30 名近く集まる獣医師との交流が生まれ、新たに実習を受け入れてもらっている

9. 貴校の学生の実習期間中、実習先の動物病院へ巡回を行いましたか？

≪有効回答校数　59校≫

行った	40　校
行っていない	18　校
回答なし	1　校

●　行っていない場合、その理由は？（自由回答・記述での回答）

・実習中は各病院へ一任し、何かあれば学校へ連絡をいただくよう事前に打ち合わせをしたため
・他学年の授業対応
・人手不足
・担当教員が授業を抱えており巡回する時間が取れないため
・基本的には学生に任せているため
・他の業務があったため
・学生の自主性に任せる
・インターン中以外（前後）で行っている
・実習終了後におこなっているため
・2 年次の就職に関わる研修先には巡回は行っていません
・実習期間終了後に挨拶回りを行う際に学生の様子も聞き取るため
・必要に応じて行うため
・通常業務の妨げになる可能性を考慮して
・訪問先が多く広範囲にわたり、診察時間も中休みがあって調整が難しく、すべてを周りきれないため
・遠方であったり、見回りたいが教務の人数が不足しているため
・学生によって実習時期が異なるため

●　行った場合、巡回を行ったのはどなたですか？

≪複数回答あり≫

担任の教員	23　校
就職課の担当者	20　校
教職員全員で分担	12　校
その他	4　校

●　「その他」を選んだ場合、具体的な内容について　（自由回答・記述での回答）

・教務課長
・学科の教員で分担
・看護教員・獣医師教員・部長
・学科担当の職員で分担

● **巡回を行った実習動物病院の件数は？**

≪有効回答校数　26/40校のうち回答した学校≫

平均	32.2 院
最大	116　院
最少	1　院

● **巡回を行った実習動物病院は全体の約何％？**

≪有効回答校数　35/40校のうち回答した学校≫

平均	73.0　%
最大	100.0　%
最少	4.0　%

● **巡回を行った目的は？**

≪複数回答あり≫

実習先動物病院の責任者（院長）への挨拶	38 校
学生の実習状況の把握、激励	37 校
実習先動物病院の実習指導者への挨拶と状況確認	33 校
トラブルやクレームへの対応	31 校
巡回者（教員）自身の実習動物病院の把握	28 校
その他	4 校

● **「その他」を選んだ場合、具体的な内容について（自由回答・記述での回答）**

・学校教育への要望など【3 校が記載】

・就業した卒業生の訪問、採用の御礼

10. 実習終了後に学校が行った対応や取り組みについてお聞かせください。

10－1.　実習を受けた学生の評価方法について

≪有効回答校数　60校 ≫

実習動物病院が評価したものに、学校の評価を加えて総合的に評価した	36 校
実習動物病院が評価したものを、そのまま学校の評価として使用した	16 校
その他の方法で評価した	6 校
実習の評価はしなかった	2 校

● 「その他の方法で評価した」を選んだ場合、具体的な内容について
（自由回答・記述での回答）

・学生に直接渡すコメント用紙と学校に対する学生を見ての率直なご意見を頂く用紙と2枚提出いただいています
・学生から提出させるノート、レポートも含め総合評価
・個別面談により、実習内容や反省点の振り返りをヒアリング
・実習日誌、実習記録にて
・実習参加日数・時間で評価

● 実習の評価はしなかった場合、その理由は？ （自由回答・記述での回答）

・実習評価がそのまま就職につながるため

10－2. 実習先の動物病院に対する対応・取り組みについて 【複数回答】

≪複数回答あり≫

実習を受けた学生の評価を依頼	54 校
評価結果の回収を依頼	39 校
実習を受けた学生の感想、意識の変化など実習効果のフィードバック	33 校
その他	8 校

● 「その他」を選んだ場合、具体的な内容について （自由回答・記述での回答）

・お礼状を郵送
・お礼状の送付(学校からと学生から)
・就職希望の学生には採用の可能性を病院からヒアリング
・教職員が訪問し、実習の状況を把握と受け入れに対する挨拶
・実習証明書を依頼
・実習先で行ったアンケートの集計も共有する
・お礼状の作成（学生）、直接お礼に伺う(職員)

10－3. 貴校の学生に対する対応・取り組みについて 【複数回答】

≪複数回答あり≫

十分なヒアリング（実習の振り返り）	48 校
評価後の面談と課題の再設定	43 校
その他	3 校

● 「その他」を選んだ場合、具体的な内容について （自由回答・記述での回答）

・実習報告書の提出
・実習中の様子について自己評価をしてもらい、教員が実習先からいただいた評価表と比較。よく出来ていた点とあまりできていなかった点、相違点等を把握し、学生本人に伝える
・全職員による実習日誌の回覧、アドバイス記入

10－4. 動物病院実習を受けた学生を評価した際、学生自身の成長や意識の向上のために、学校が工夫をしたこと、気を付けたこと等がありましたらご記入ください。

● 具体的な内容について（自由回答・記述での回答）

・病院側から頂いた評価コメントのうち、厳しい表現についてはある程度和らげて学生に伝え、良いコメントは、その原文のままこちらからも褒めて伝えたこと
・面談を実施し、実習中にみえた課題を再確認させた
・学生と面談をし、就職活動へのフィードバックできる部分を明確にし、目標設定をする
・振り返り授業、事例検討
・評価書を基に個人面談を行い、評価項目に対して振り返り及びデバッグを行った【4 校が記載】
・企業様からの言葉をそのまま伝えるべき時と、そうではない時とある。ペット業界の現実を見た学生へのフォローなど
・実習評価表のフィードバック
・実習先の評価を受けて、学生の振り返り（個人面談）を行う
・各学生と個別相談を実施
・本人からのフィードバックを下に進める（報告書を学生自ら作成し提出しています）
・回収した評価結果を基に、学生の課題点を伝え、向上の為に指導する。そのまま評価結果を学生に提示するとマイナスに作用する事がある為、その点は注意が必要
・面談後の課題設定。生体管理実習
・病院側から指摘されたことから、今後の課題を見つけ次回の実習に生かせるよう指導した
・実習終了後に、実習に関してのフィードバックと今後の活動への動機付け
・講師間で情報を共有化し、普段の授業に活かしている
・研修後、校長面談で病院からの評価表を元に、研修の振り返りを行い、次の研修に繋げる。担任と面談し、失敗や上手く仕事ができず落ち込んでしまった学生の心のケアをする
・面談時に評価根拠を学生自身が理解をしているかを聞き、今後の更なる飛躍へと導く様に指導を行う（気づきと目標の再設定）
・「研修報告書」にご担当者より記入いただいたコメントより、担任・就職担当が個別面談。また必要に応じて、就職担当が直接ヒアリングした内容をフィードバック
・面談の上で個別に課題を設定し、授業内外で改善方法を考え、取り組ませた
・コミュニケーションが足りない学生には、面接指導をした（担任・就職担当など）
・学生への面談やカウンセリングを、評価表を渡す際に行う。次の研修につなげられるよう、前向きにと

らえられるように実施
・評価書を基に個人面談の実施
・1 年次の実習終了後は 2 年次のカリキュラム開始前に個人面談を行い、2 年次スタートと同時に目標や目的意識をもてるように指導した
・実習日誌の最終ページに動物病院様より5段階における評価を頂戴し活用をしている。評価の高い項目は、褒めて、低い項目は振り返りをさせ改善させている。又、クラス別に実習報告会を実施している。一人ひとり学生自身が発表をしてそれぞれ現場で学んだこと、失敗した事など情報を共有し成長や意識向上へ反映をさせている。なお、報告会の最後では、個人情報や守秘義務について改めて指導を行っている
・実習後に学生とスタッフで評価表を確認し、次の課題を提示する
・学校で学んできた知識が現場では違う方法をとっている等で困惑する場合があります。人が違えばやり方も違う為、たくさんの獣医師と接することの大切さを説明しています
・個別面談を実施し、病院からの評価を伝え今後の課題について一緒に考えた
・同一学生の評価が施設によって異なるため、評価を学生へフィードバックする際に伝えるべきこと・伝えずにおくべきことを選別
・実習後、実習日誌を全職員で回覧し、それぞれに感想やアドバイスを記入して学生達へ返却しているその際、気になる点などは学生と直接話し、時間が経たないうちに解決している

11. 動物病院実習に関して用意をした書類についてお聞かせください

11－1. 学生が実習を受ける動物病院に対して、用意をした書類はどれですか？【複数回答】

≪複数回答あり≫

(実習学生の)評価書	52 校
履歴書	48 校
実習内容が記載された依頼書	31 校
協定書	26 校
実習内容が記載されていない依頼書	25 校
その他	16 校
カリキュラム表	4 校

● 「その他」を選んだ場合、具体的な内容について （自由回答・記述での回答）

・誓約書【2 校が記載】
・指導項目シート、加入させている保険のチラシ、実習学生の名前など個人情報
・所定のレポート用紙
・学生の自己紹介用紙

・覚書
・自己紹介シート
・実習日記
・身分証明書として使用する本校書式の個人データ
・成績証明書、卒業見込証明書
・自己紹介、メッセージ、学びたいこと、目標を事前に回収し提出し個々の学生の状況も伝え実習がスムーズに進められるようにする
・実習後のお礼状・実習日誌返信用の封筒
・履歴書ではなく個人票を作成して提出しています
・学生の氏名、学校のカリキュラム特色
・実習日程表
・実習日誌

11－2.　実習を受ける学生に対して、用意をした書類はどれですか？【複数回答】

≪複数回答あり≫

実習の報告書	48 校
（実習病院への）御礼状	45 校
誓約書	42 校
実習後の感想文	35 校
評価書	32 校
その他	11 校

● 「その他」を選んだ場合、具体的な内容について （自由回答・記述での回答）

・実習先動物病院とやり取りをした覚書：配布はせず、参照のみ
・所定のレポート用紙
・事後報告書・自己紹介書
・実習ノート
・保護者同意書　インターンシップ申請書
・病院実習の届け出
・実習申請書
・病院実習中のスケジュールや概要
・研修記録
・お礼のハガキ
・実習日誌　出席表

○　貴校がこれまで（平成28年度に限りません）に実施した動物病院実習、及び現在の状況についてお聞きします

12. 動物病院実習に関するトラブルやクレームについてお聞かせください。

12－1.　これまでに貴校の学生を受け入れた実習動物病院から、トラブルやクレームの報告を受けたことはありますか？

≪有効回答校数　59≫

ある	43　校
特にない	18　校
回答なし	0　校

●　ある場合、その内容と、対応について、具体的にご記入ください　（自由回答・記述での回答）

○　学生自身の実習に臨む姿勢、意欲、マナー

・マナー面についてのクレーム（声が小さい、基本的な挨拶できない）
・敬語と友達言葉が混在
・消極的な行動
・腕を組むなどの実習態度の粗悪さ）
・マナー面について（声が小さい、基本的な挨拶できない、敬語と友達言葉が混在、消極的な行動、腕を組むなどの実習態度の粗悪さ）
・学生のレベルが低い
・学生の実習意欲があまりない。→実習前の学生との面談を密にし、実習先や就職先等の希望を確認学生の性格に合った実習先の提案。実習先へ実習生の情報提供
・身だしなみ・・・注意によりすぐに改善がみられる
・コミュニケーション不足・・・個別面談・オリエンテーションを実施：意識の向上を目指す
・病院実習時の学生のマナーが悪かった→直接謝罪に伺った
・礼儀やマナー面。あいさつができないことについて、クレームを頂いた。すぐに学生に連絡をとり注意することと、実習期間終了後に自覚を持たせるよう注意した
・粗悪な実習態度→実習動物病院への謝罪と学生への指導の徹底
・実習の休憩中の学生の態度が悪過ぎると報告を受け、即日謝罪に行った
・叱られて途中で帰った→謝罪→理解いただけたがその学生は実習終了
・マナー面についてのクレーム（声が小さい、基本的な挨拶できない、敬語と友達言葉が混在、消極的な行動、実習態度の粗悪さ）
・やる気が伝わらない
・実習中にやる気がみられない、積極性がない
・返事、挨拶の声が小さいなど→院長からも指導、担任からも指導

・身だしなみ　→　爪が伸びていた（実習中止）　など
・やる気が感じられない→実習の中止と学内での学生指導
・挨拶ができない。
・就職意欲の欠如→学生面談を実施し、改善指導の徹底
・就職希望の学生を送ってほしいと依頼があった病院に送った学生が、そこに行く前（第１クール）に行った病院実習で気落ちしてしまい、やる気がないとみなされクレーム。→　謝罪に伺った。（やる気があったことを伝えたが、動物看護師に向かないと学校をやめさせた方がいいとまで言われ、その学生は後日退学した。）
・社会人として求められる基本的なことが出来ない（挨拶、時間厳守など）。
・過去16年間で1件だけだが、学生の態度が悪いとクレームがあり、診察時間終了後に謝罪に行った
・学生が他の研修先病院の話をしたとのことでトラブル→お詫びに伺った
・態度が悪い、挨拶ができない。→保険で対応、謝罪して訪問
・学生のやる気が感じられない

○　実習中の欠勤、遅刻など勤怠に関するもの、報告・連絡の不備
・欠勤や遅刻
・連絡なしで休んだことなどについて、クレームを頂いた。すぐに学生に連絡をとり注意することと、実習期間終了後に自覚を持たせるよう注意した
・初日から連絡なく休んだ→実習受け入れ不可
・遅刻・無断欠席など。→　クレームの内容によるが、基本的には直接病院までお伺いし、謝罪する
・無断欠席・遅刻・実習辞退。→　学校責任者が謝罪に行った
・遅刻、欠席が多い
・遅刻の際に電話連絡なし　→　学生に状況を確認した上で挨拶周りに際に謝罪
・無断欠勤→直接病院へ出向きお詫び
・遅刻・無断欠勤
・無断欠席、遅刻
・遅刻、無断欠勤
・遅刻　、無断欠席→先方への謝罪と学生指導
・遅刻、欠席をした。→学生面談を実施し、改善指導の徹底
・無連絡で遅刻、実習うちきり→謝罪、学生本人にフィードバック
・無断欠勤
・連絡せずに遅刻や欠勤→学生とキャリアセンタースタッフでお詫びに伺った
・学生が連絡なく欠席、事業所に電話にて謝罪
・無断欠席⇒動物病院への謝罪。学生に対しては個人面談にて指導。学年主任・担任への報告後、教職員会議にて防止策を検討

○　学校と動物病院との取り決め、事前打ち合わせに関するもの
・アルバイト決定後に他の病院にインターンに行くことに対する叱責→カリキュラムで定めているのでご

理解していただくよう依頼
・就職する気がないのに実習に来る意味を問われた

○ 実習中の動物看護技術、知識、対応に関すること
・診察補助の時に保定がきちんと出来ていないので指導をして欲しい→看護実習にて一人ひとり指導する。又、保定だけの特別講義を設けて実施した。
・動物の落下事故
・動物への障害 →保険で対応、謝罪して訪問
・作業ミス／動物のケガ⇒すべて直接病院施設へ謝罪に行った
・クライアントからのクレーム→直接病院施設へ謝罪に行った
・病院スタッフとのトラブル
・実習先のルールが順守されなかった（禁止されていた患者動物への接触、飼主との会話など）

○ SNS、秘密保持に関するもの
・SNS関連へのクレーム（無許可で建物内を撮影しSNSにアップしてしまった）【3 校が記載】
・SNS で病院名を出してマイナスな内容を投稿しており、スタッフの方が見つけた
・SNS にての守秘義務違反（入院動物の写真投稿）
・SNSでの情報漏えい

○ 院内での医療器具、物品・備品の破損等
・備品を壊した→謝罪と同等の物品の賠償
・備品を壊した→謝罪のみで OK
・物損
・病院の物品を壊してしまい、学生がどうしたら良いかわからず病院から連絡があり、何か起きた時の対応の仕方を教えておくように言われたこと
・備品破損→保険対応／採用条件の詳細確認
・飼い主のケージを誤って破損→直接謝罪するとともに保険で代替品を弁償した、電話での事実確認など
・器物破損などのクレーム有。すぐに謝罪電話もしくは訪問
・病院施設内の器具を壊してしまった
・実習中の器具等の破損→謝罪訪問。物損の弁償。場合によっては実習の中止
・備品の破損→すべて直接病院施設へ謝罪に行った
・物品の破損:弁償。:実習動物病院への謝罪と学生への指導の徹底
・器具を破損させた。身だしなみ。出勤してこない（寝坊）
・機材の破損→謝罪と学生保険による弁償
・物損事故→動物病院への謝罪・弁償等。学生に対してはインターンシップ手続き。学年主任・担任への報告後、教職員会議にて防止策を検討
・物品損壊 →保険で対応、謝罪して訪問

○　本人の健康、体調に関するもの

・実習中の体調不良：学生へ自己管理をするよう指導
・体調不良
・クレームではないが、オペ見学中に倒れたという報告は複数件あった（謝罪対応）
・実習中、学生（女子）学生が貧血にて倒れた。病院側では、人手が不足しており学校側で対処をして欲しい⇒学校が実習先まで行き貧血で倒れた学生を家まで送った
・実習中に具合が悪くなったと学生から報告があり、もともと基礎疾患がある学生でしたので、本人はそのことを病院側に伝えたのですが、後程電話連絡したところ事情があるなら報告してください。とご注意頂きました
・体調不良による実習の中止
・通勤時の交通事故
・怪我

12－2.　これまでに実習中の学生からトラブルやクレームの報告を受けたことはありますか？

≪有効回答校数　59≫

ある	33　校
特にない	25　校
回答なし	1　校

●　ある場合、その内容と、対応について、具体的にご記入ください　（自由回答・記述での回答）

・実習先の病院が遠く、体力的にきついため違う病院に変えて欲しい→他の学生と行き先を交換した
・備品を壊した→学校からも謝罪するが、本人からも謝罪するように伝える／先生、スタッフが怖くて話せない、行きたくない→引き続き実習を続けるよう指示／アンプルで指を切ってしまった→病院に連れて行っていただいた。後日インターンシップ保険で支払い
・裸の針を投げつけられた／昼食は必要ないと指示を受け、持参しなかったら自分以外のスタッフの方は昼食をとっていた→事実確認をして双方と話を行った
・物損・怪我・セクシャルハラスメント
・研修のつもりで行ったが、何も教えてもらえなかった。院内の職員から邪魔扱いされた。服を隠すなどの嫌がらせをされた。仕事の指示を聞く際に無視をされた
・研修のつもりで行ったが、何も教えてもらえなかった
・院内の職員から邪魔扱いされた
・トラブル・クレームとまではいかないが、研修先の病院内での犬・猫の扱いについて
・夜 23 時までの実習が長い→書面での詳細な伝達／病院スタッフによるパワハラ、セクハラ→ブラックリストにて管理
・セクハラ・パワハラ
・実習動物病院の先生や動物看護師の考え方による不満、高圧的で怒り放置された
・実習場所へ行く途中での事故・・・本人と学校から実習病院への連絡、実習日程の変更依頼

・病院側から提示された実習時間を大幅に超えての実習。過度の強要が合った場合は学校から病院への直接対応
・実習先の獣医師(勤務医)らの暴力・暴言。院長にお伝えし今後そのようなことがないようお願いした
・備品の破損／作業ミス／動物のケガ⇒まずは学生に謝罪をさせ後日職員が謝罪に伺う
・12－1と同一の事案で、病院からの連絡もあったが、本人からの報告もあった
(事案:飼い主のケージを誤って破損→直接謝罪するとともに保険で代替品を弁償した／病院実習時の学生のマナーが悪かった→直接謝罪に伺った)
・セクハラを受けた学生がいる。即実習を打ち切り、その後実習や就職は行かせていない
・研修のつもりで行ったが、何も教えてもらえなかった。院内の職員から邪魔者扱いされた
・雇用形態が実習中に聞いていたものと、就職が決まってから聞かされたものとが違っていたことでクレーム→辞退
・機材の破損→謝罪と学生保険による弁償／遅刻・無断欠席→先方への謝罪と学生指導
・院長先生に蹴られた。→　こちらの落ち度も認めつつ、本人の体調不良により続行不可能と連絡。(実際は、怖くて行けないと泣いて訴えられたため)
・実習時間が、夜間に及ぶ長時間であった。実習と無関係な個人的な連絡がある
・受入先の対応が冷たい。
・研修のつもりで行ったが、何も教えてもらえなかった。院内の職員から邪魔扱いされた
・事後報告にて「セクハラ」と思われる行為の報告(今後実習先としては依頼しない)
・休憩場所がない、実習先によって内容が異なる、パワハラ的な言動、時間が長すぎる
・前の実習先の事を聞かれた場合の対処。具体的には、前の実習先の動物病院は、どんな雰囲気だったとか、手術の際、器具とかどういう風に使っていたか、患者さんは多かったか少なかったか、料金の事とか聞かれたようでした。現在は、守秘義務について講義等をおこないきちんと指導をしているが、今後も突発的な質問が予想される
・学生本人の怪我、患者動物にけがを負わせた。→学生の怪我は、学校の保険等で対応。患者動物には、治療費、直接謝罪に伺うなどで対応
・学生受け入れの実習日を忘れられた(休診日になっていた)
・実習先の動物病院の輸液機器を破損させてしまったという報告。→対応としては、学校教員が後日訪問の上、謝罪を行った
・過去に1例しかないが、生徒が院長からセクシャルハラスメントを受けそうになって、保護者からクレームを受けた
・乳鉢を割ってしまった。遅刻してしまった
・上記(12-1 の質問)に同じ。実習中に具合が悪くなったと学生から報告があり、もともと基礎疾患がある学生でしたので、本人はそのことを病院側に伝えたのですが、後程電話連絡したところ事情があるなら報告してください。とご注意頂きました
・実習終了時間に帰れない／動物病院の院長がそのまま就職またはアルバイトをするようしつこく迫る
・実習先の動物病院長が個人情報を知りたがる(SNS や携帯番号)

12－3.　その他、これまでに動物病院実習に関するトラブルやクレーム、事故等の発生がありましたら、その内容や対応についてご記入ください。

● 具体的な内容について（自由回答・記述での回答）

○　機器・備品の破損

・検査機器やデジタルカメラ等の備品を破損させてしまった
・動物病院の遠心分離器を破損　→　謝罪のみで済んだ
・動物病院の壁に穴を開けた（医療機器を隣の部屋へ移動中）　→　保険利用で後日修理
・診療施設の物品の故障、破損
・病院内の物品破損および紛失

○　実習中の事故や怪我に関すること

・お客様の大型犬をPAへ繋ごうとした時、犬の力が強くリードを離してしまい犬が外へ飛び出してしまった⇒飼い主さんに犬の名前を呼んで確保した。リードの持ち方、絶対離さない事を指導／
・学生が動物にかまれたりしてケガをしてしまったケースが何度かあり、学校で加入している保険で対応しました
・犬に噛まれて学生が怪我をし、病院に連れて行っていただくケースがありますが、本校の学生は入学時、インターンシップの保険に全員加入しているため問題は起きていません
・動物からの咬傷
・動物病院に入院していた猫に咬まれた。→病院に行ったのち、加入している保険にて対応。何かあったら学校にもすぐに連絡するように指導している
・実習先への移動中のトラブル→担任と連携して事故や遅延の状況や治療等を進め、実習先との情報共有を行い学生保険適応の確認した
・診療の補助で、咬傷事故などで通院を伴う怪我。
・性格がきつい看護師さんからの指導が厳しく実習を途中で中止⇒動物看護師としての綱領を確認し、動物の命を守る者の試練だと自分の心を置き換える考えを提示した
・ワクチン保管場所の誤り

○　学生の姿勢・マナー

・漫画、雑誌を持参し、休憩時間に読んでいた
・タバコの匂い
・学生の遅刻。体調不良による欠席。

○　学校と実習動物病院との関係、事前打ち合わせに関すること

・インターン前に交わす覚書の内容に関しての病院からのクレーム→事前に協議のうえで覚書を作ってほしかったとのこと
・就職と絡んだ場合、実習と就業の差が大きすぎ、卒後に混乱するのが悩みです
・直前で内定辞退をしたため叱咤を受け、学校長が謝罪に向かった

○ その他 （保護者との関係）

・就職（内定）の話をいただき、学生本人は内定を受けたが、保護者に反対をされ、結果的に内定を辞退することになった。本人と保護者の食い違い。

13. 動物病院実習の実施に関して、現在貴校が有している問題点や課題をお聞かせください。

● 具体的な内容について（自由回答・記述での回答）

・動物看護師養成カリキュラムの総合臨床実習について、コマのテーマ及び内容と実際の実習内容が一致しないケースが多々ある。受け入れ先の動物病院は、診療内容の都合もあり、学生対応ばかりにかまっていられないことは十分承知しているので、本学としても無理なお願いが出来ない状態【4 校が記載】

・実習中に体調不良を訴える学生がとても多いこと／相手側動物病院に指導項目を伝えているが、多忙な診療業務の中、指導が不完全なことがある点

・上級生が下級生に向けて実施する研修報告会を行い、実際に経験した上級生からアドバイスをし、少しでも不安がなくなるよう配慮した

・実習日の設定（病院側の予定と学校行事との関係）／実習先の受入と就職のリンク／実習は出来るが、求人はしていないなど

・学生の状況、学ばせたい内容の作成と動物病院との打ち合わせの時間をとりたいこと／研修後の動物病院へのフィードバックが不十分なため必要性を感じている

・就職活動としての実習を依頼した際に、本校の規定では原則 1 週間以内と定めているが、病院がそれ以上の実習を求めてくることがある

・実際の仕事を目の当たりにした際に生じる、理想との相違やギャップに対する指導の難しさ

・各種検査を積極的に行わせてくれる病院もあるが、基本は掃除や洗濯がメインになる事が多く、病院側からも勉強にならないかもしれないと実習を断られる事がある

・学生の自主性に任せて実施している為、学校側から動物病院へのフォローや実習状況の確認、巡回が不足している

・学生全員を動物病院実習に参加させられない、問題のある学生もいる

・実習前に受け入れて頂ける動物病院様に学生の実習目標、希望する実習内容を提示しても現場の状況で実施できない場合も多々あります。また、動物病院本社と現場との情報共有ができておらず、希望する実習内容さえも伝わっていない場合もあります。根気よく継続的に依頼していくしかないと思っています

・教員による巡回を行えていない（書類上でのやりとりのみ）→教員と企業との繋がりがやや薄い／学校側として、学生に対しどのような教育状況で、どのような業務をさせていただきたいかの詳細依頼ができていない

・病院との実習期間・日程の調整

・〖県外就職希望の学生に関して〗宿泊費や交通費がかかるため、短期間（1～2日）の実習になってしまう。複数の病院の実習に行くのが困難

・コアカリキュラムにある内容を動物病院に提示したところ、細かすぎてうちでは対応できない、うちでは実習生にやらせていないなど評価ができないと回答を頂いた
・無償で受け入れていただいていることもあるし、個々の動物病院の方針や考え方もあるので、動物病院実習で実施していただきたい内容を強く要望することはあまりできない
・実習先の拡大、学生のマナー指導
・それぞれの学生の実習時期により実習内容や診察内容、手術内容などのばらつきがある／動物看護師教育に理解の薄い動物病院での実習だと学区制にとってマイナスな経験になることもある
・求人や実習の依頼を多くの病院様から頂くが学生数の減少の為なかなかご希望に添えない。地元志向が強く、なるべく近くの病院にしたい学生が多い
・学校が受け入れてほしい日数と病院が受け入れてくれる日数が違う場合がある。研修内容について、どこまで学校が要望をだしていいのかわからない
・学力が低い学生の実習の実施
・遠方動物病院へのアプローチ （他校との依頼方法の違いから先方が戸惑うケースあり）
・コアカリキュラム導入に伴い、実習時期や期間の調節について（グループ校に統合する為スケジュールを合わせる方向で進んでいる）。学生のコミュニケーション能力の向上について（おとなしい学生の日頃の指導含む）
・平日休日の受け入れにかかわらず、日ごろの業務の中で実習生を指導することが人員的に難しい部分がある
・実習先が毎年固定化されていること。新規の実習先、就職先の開拓を行っていく必要性。学生が労働力として使われてしまうこと
・病院によってマンパワーや環境の問題で十分な指導ができないこともあると思うが、受け入れた以上はしっかり指導していただけるとありがたい（指導できないなら初めから断ってくれたほうがよい）
・具体的な評価基準、実習内容の設定と評価の標準化、通う手段が乏しく選択肢が限られる
・課題　○個人情報保護法と守秘義務・・・学生達が実習先において他の病院の事などをよく聞かれるので引き続きセミナーを実施して指導をして行く。SNSによる風評被害、写真配信問題も／○実習の評価内容・基準・・・動物病院も職域のレベル（個人・総合病院・二次診療）差があり実習内容の提示や評価の基準、測定などまだきちんとした評価ツール、評価内容が整備されていない
・巡回指導の充実（カンファレンスの実施）
・実施する病院を増加させること
・本来ならば実習内容を指定して研修をお願いしたいが、動物病院の負担を考慮すると難しいため、各院に研修内容をお任せしてしまっている。結果、病院によっては研修内容が掃除や入院動物の世話だけの場合もある
・安定した実習先の確保。不安のある学生を学ばせるための実習先の確保
・動物病院によって実習内容に差がある。その為統一認定機構で、ある程度決められた病院での実習を取り入れるとレベルもある程度そろえることができるのではないかと思う
・社会人としてのマナー指導の強化／実習後、動物病院との継続的な連携（複数回の実習や、学生への求人案内等）／実習後、学生に対してのヒアリング等アフターケアの強化（就職内定の決定まで）
・学生数が少ないため、動物病院実習を受け入れたいという病院に対して、学生の派遣ができない

14. 貴校が動物病院実習をよりうまく進めていくために現在工夫していることや、取り組んでいることがありましたらお聞かせください。

● 具体的な内容について（自由回答・記述での回答）

・教員は可能な限り、実習開始前に受け入れ動物病院へ連絡をし、コアカリキュラムのコマテーマ、内容に沿った実習ができるように、実習内容の依頼をしている。また、学生とも連動し、学生から依頼をする際に、要望する実習内容を動物病院に説明できるようにしている【4 校が記載】
・特になし【2 校が記載】
・実習受け入れ先である獣医師会会員病院とのつながりを大切にしている
・情報共有、事前打ち合わせ、事後の意見聴取などを行い、「院内実習」のシステムやその内容は、都度改変していくよう努めている
・予習と復習（保定、検査、準備）、見学の心構え、実習の心構え、掃除
・行事やイベントに参加した際、直接院長にご挨拶させていただきコミュニケーションを取るよう心掛けている
・カリキュラムが活きる実習内容設定／就職につながる実習／病院側の要望も満たせる学生への指導
・研修に行った上級生から研修に行く前の下級生へのアドバイスや情報の共有。実習報告書を作成し、いつでも閲覧できるようにしている
・学生との面談を積極的に行う／他行との情報共有、企業説明会の開催
・受け入れ先との連携、コミュニケーション、信頼関係の構築
・学生の考えていることを細かく把握する。個別面談の実施。卒業生のいる病院であれば、卒業生にも連絡を入れる
・実習依頼書、お礼状などの書面による取り交わし／実習マナー習得を目的としたセミナーの開催／クラス担任による個別指導
・出来る限り院長先生や担当者と話す機会を作り、病院実習での要望や改善点、病院で必要な知識や人物像などを聞き取る。そして次回の動物病院実習に役立てる
・あいさつ・笑顔・元気の徹底
・動物病院さんとの連携（年 3 回ほどの動物病院訪問）の実施　※インターンシップ挨拶、卒後セミナー案内、新年度パンフ設置の依頼など
・インターン日数／職業教育専門課程委員での評価表フォーム、自己紹介書の見直し
・実習は実際の現場に身を置き、その仕事に対しての理解を深めるという意義も有りますが、この実習を希望就職先へ行くことにより、就職内定に繋げるという両面の効果をもたすようにしている
・1年生の初実習については、事前のオリエンテーションを十分に行い、スムーズに実習病院に慣れていけるようにする。また、上級生の研修日報などを提示し、注意すべき点を確認させる
・企業説明会の実施。現役獣医師による講義
・実習前に個人面談を行い、実習に対する心構えや注意事項を伝える。できるだけモチベーションをあげるようにしている
・動物病院への挨拶回り
・個々の動物病院とのコミュニケーションを大切にしていることと、県獣医師会とのコネクションを形成す

ることに努めている
・自主性を育てるため、実習先も自分で探させ、実習依頼もまず、自分たちからさせるようにしている。
・1年次の実習時には学生だけでなくクラス担任（動物看護師）が同行し、診察や検査の内容を説明している／2年次の実習時には事前に学びたい項目等を各自明確化してから実習を行う／本校卒業生が働いている動物病院で実習を行う
・獣医師会主催のイベントお手伝いをし、各病院長の方と面識を深めていくことはしています
・社会性について意見をよくいただきます。あいさつや「はい」という返事、ミスした時の謝り方、質問の仕方、メモの取り方など、学生では許されていた事が病院、企業ではきちんとしなければならない対応などを授業で指導している
・千葉県獣医師会を窓口とした実習の運営／基本的な挨拶の再徹底や基礎学力向上のための授業運営
・卒業生が勤務している動物病院が実習先の場合、事前に学生に伝える。また、卒業生から、在校生の実習内容や評価などを随時ヒアリング、学生へのフィードバックに活かす
・学生への指導の強化。学内にて模擬実習を経験させる
・遠方や初めてのインターンシップ先へは必ず訪問または職員から電話連絡をし、挨拶と依頼、学校カリキュラム等の情報をお伝えする
・実習前に病院宛に送る依頼文に求人情報の記入も依頼、また実習評価表に実習した学生の内定の可能性などの記入欄を入れるなど
・遠方の病院にも巡回指導に伺うなど
・実習受け入れ病院への訪問が、その後の実習に結びついている。卒業生の勤務病院であると、実習の趣旨が理解されやすく、先方の状況もよく分かるため円滑に進む
・1年次の病院実習においては学生のより良い効果的な学びとなるよう病院側と密に連絡を取り、学生へのフォローや病院担当者やその他のスタッフとの交流を積極的に行うよう努めている
・実習開始前に受け入れ動物病院へ連絡をし、カリキュラムの内容に沿った実習ができるように依頼をしている。また、学生とも連動し、学生から依頼をする際に、要望する実習内容を動物病院に説明できるようにしている
・長年受け入れてくださる動物病院様からどういった学生を求めるのか等聞き取りを行い、学生への情報提供を行っている
・後期より毎週講義として実習対策を実施している
・実習内容の標準化を期して、近くの病院へ、入れ替わり学生が実習できるよう計画したが、小規模病院のため、期間をせっていするのが難しく、実現はできなかった
・弊校は開学して14年目になります。地域に密着した専門学校であり、ある程、度地元の動物病院様とは、きちんとしたパイプは繋がっており卒業生も多数お世話になっております。特に工夫はしておらず定期的な挨拶と、もし、実習生にトラブル等が生じたらタイムラグをおかずにすぐ対処するように心がけをしております
・学生への事前指導、あいさつ、敬語、マナーの徹底
・学生への情報開示
・1年時実習出発前に「実習出発式」を実施して学生の意識高揚に努めている／事前オリエンテーショ

ンの実施／巡回指導の徹底／実習報告会の実施　2年次終了時は1年生も参加して実習についてイメージを固める
・直接病院へ依頼することと、病院の企業説明会を実施している
・各病院訪問をした際の学生状況の把握、など
・新規開業先の動物病院等への挨拶訪問、就職内定の実績がある病院への訪問など
・本校では2年次から生徒をインターンシップに参加させているが、そこに至るまでに学内でのオリエンテーションだけでなく、1 年次からビジネスマナーや接客の授業を履修させるようにしている
・実習に行ったときに動けるように各実習で取り組んでいる
・卒業生に情報提供をお願いし、動物病院実習の受け入れや、求人情報などをいち早く入手し、早い段階で就職を意識した実習を行うよう促している。また、医療機器や薬品、フードなどの最新情報を、各業者や専門家を招いて実際現場で働く動物看護師とともにレクチャーしてもらうことで、卒業してから即戦力で働ける知識やスキルを身に付ける意識付けを行っている

15. この調査票の結果を参考に、より学生への教育効果、動物病院での就業に役立つ「動物病院実習ガイドライン」の作成を予定しています。この「動物病院実習ガイドライン」について、要望や意見、提案等がございましたらお聞かせください。

● 回答 （自由回答・記述での回答）
・動物病院実習の学習目標を達成するためには、文部科学省などから動物病院への協力要請が必要かと思われる【3 校が記載】
・実習受け入れ先である獣医師各獣医師会に要請し、連携授業という体系をとるのがよいと考えます
・動物病院の地域差（医療レベルや求人状況など）を考慮したガイドラインを希望／病院の規模に沿ったガイドライン／実務に反映できる内容のガイドライン
・地域特性を考慮した柔軟性のあるガイドラインの作成をお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします
・実習に関して、病院側が理解していない部分がある為、依頼をしにくい点がある。獣医師会等にも周知していただき、病院、学生、協会、学校と連携をして動物病院実習を行う必要がある
・他校の工夫など参考になる内容を期待しています
・実習期間：5 日間／総合臨床実習企業：原則は動物病院にし、総合実習時間の 30～50％程度は動物関連企業も可とする。（ペットショップ、老犬施設、猫カフェ、動物園、犬の保育園、ペットホテル等）
・事前に提示する学生情報（どんな学生でどんな能力があるのか）のフォームの見本があれば助かります／どうしても病院側へ「～をさせてほしい」という依頼がかけにくいので病院側に対するガイドライン（概要や指針）も使って欲しい
・動物病院によって、実習内容が違うというのが現実である。この「ガイドライン」が専門学校でなく、動物病院にも理解され、効果的な動物病院実習が実施できる事を期待します
・実習中どのような部分をみられているのか、何に気を付けるべきか、実習までにどのような知識と技術が必要か、身だしなみやマナーなど学生が見ても理解できる学生向けのものも希望いたします

・動物病院実習全体を通して経験しなければならない項目程度のものにしていただきたい
・働くにあたって必要とされるマナー等
・全国の動物病院に作成した「動物病院実習ガイドライン」を送付し、動物看護の動物病院実習に関して理解を得られるようにしていただければ、教育現場としては非常に助かります
・本校としては、就職活動を兼ねた実質的な実習（各動物病院の受け入れ体制に合わせた）を実施していきたい。学生が実習を依頼する場合、「（単位取得のための）学校の研修か。それであれば、（過去やる気が見えない実習生がいたので）お断りしている」と言われるケースがあり、学生の選択肢を狭める可能性がある
・動物病院実習は動物病院のご理解と動物病院・各校の信頼関係で実施されている。ガイドライン作成またはその経過により、各校の実習運営に不具合が生じるような事態は避けるべきである
・本校が実施している動物病院実習でいいのか、改善点があれば是非参考にしたいと思いますので、できるだけ早期の完成を期待致します
・動物病院の意見も掲載されているのか？送る側（学校）の意見と受け入れる側の意見が揃って効果的な指導が可能となる。他校の実態を知ることよりも現場の意見を知りたい
・標準化ができればありがたいです。実技項目は具体化してみましたが、実際行えるものかを詰めているところです。総合的に情報収集をして提案していただけるとありがたいです。参考に、実習評価表を添付します
・これまで全国的に未整備であった動物病院での実践的な実習教育がガイドライン化することにより認定動物看護師としてのキャリア形成の場が段階的に整備され動物医療業界に従事する者にとっては、大変有用であると思えます。実習教育の質・保証の向上のためにも「動物病院実習ガイドライン」を下に認定動物看護師養成校として又、企業との連携機関として活用して行く所存でございます
・動物看護師の資質向上において実習の充実は重要と思われます。実習について制度化され実施されることを望んでいます。実習の施設要件・実習指導者要件・学年ごとの実習項目・巡回指導等に基準ができることを希望します
・本校作成の評価表はあるが、病院実習に特化した評価表があると良いと思う／病院実習に特化したマナーに関する冊子などもあると良い
・1週間以上の実習については、学びの機会という意味合いが薄れ、単なる労働力として扱われる可能性があると考えます。よって、実習の受け入れ期間や実習時間帯については具体的な取り決めがあった方が良いと考えます
・受入可能な病院を Web 等で随時更新して表示してもらえると、学生が研修先を選択しやすくなり、動物病院にとっても人材確保の機会が増えて良いと思う。また、生徒に対しては SNS や身だしなみ等のルールを、受け入れる動物病院にとってはセクシャルハラスメントや暴力などの倫理を、学校に対しては病院からの要望などを掲載して、お互いが守るべきルールを掲載してもらえると良いと思う
・動物看護師資格をより保持者の質保障につながるものにするためには実習のガイドラインはある程度必要かと思いますが、受け入れ側である動物病院側にも規模や実習生受け入れ体制等それぞれ事情が異なるため、教育機関だけでなく動物病院からの意見も反映させる必要があると考えます。
・当校は平成 29 年度開校でございます。動物病院の実習につきましてはこれからの予定となりますので、平成 28 年度もしくは以前の状況について問われました今回のアンケートについてお答えするに

は適さないと存じます。

・動物病院実習は学生達にとって就職を意識する大切なものだと認識しています。しかし、各動物病院によって、評価や内容は様々であるため、達成目標と評価の基準が難しいのが現状です。学校側も先方の事情をどこまで配慮して評価をお願いすべきか、悩ましいところです。他校の学生と比べられることも多くあるため、全体として統一した評価表方法や決まった様式などがあれば、わかりやすいのではないかと思います

1-2. 実態調査結果からみる考察と課題

専門学校 61 校から得られた情報・データから考察された事項、課題点等を以下に記します。

〈動物病院実習の実施状況について〉

- 実習実施時期は、1 年次は春期、2 年次は夏期が最も多く、3 年次は通年で行われていることが読み取れた。
- 調査を行った全学校が、学生が不安感を持たずに実習へ臨めるように事前説明会や特別授業を実施する等の工夫や支援を行っている。

〈動物病院との事前打ち合わせ・対応について〉

- 実習先の動物病院との事前打ち合わせもほぼすべての学校で行われている。行っていないと回答した 6 校がなぜ実施していないのか、日頃から関係が良好で改めて実施する必要がないためなのかは現状では不明である。
- 動物病院から学生受け入れに関する注意事項や受け入れ要綱等の提示の有無を問う設問では、有効回答数の 6 割強程度は提示があったと回答した。特に提示がなかったと回答した学校は、従来から親しい関係を構築できているからなのか、それとも専修学校と動物病院の連携が円滑でないからなのか明らかにする必要があるだろう。事前打ち合わせをし、実習先からの注意事項の受け入れは義務化すべきである。実習内容、スケジュール、指導担当者は事前に確定させておくべきである。
- 実習前に学生へ教育指導は多くの学校で実施されていたが、病院側からは挨拶やマナーが不十分であると指摘されていた。また、守秘義務について事前に対応している学校が多かった。これは必要であり良い取り組みである。
- 実習に能力・スキルのレベルが達していない学生への対応については多くの回答が得られた。マナーや欠席連絡に関して動物病院からは指摘意見を出された。専修学校は個別面談の実施、学校の中で再教育をして実習に出す、理解のある動物病院へ送り出す等で対応していることが読み取れた。

〈実習中～実習後の対応について〉

- 実習期間中に巡回を行った学校が 40 校(69%、40 校 /58 校)に対し、18 校が「行っていない」結果となった。
- 巡回を行っていない 18 校については、その理由についても記述での回答を得ているが、その多くは人員や時間の不足による人的な問題を挙げた。
- 巡回を行っていない学校の属性、傾向を分析し、巡回を可能にする学校内での取り組み、運用方法の改善を検討する必要がある。
- 学生に対して行った取り組みとして、卒業生による実習報告を行っている学校がある。先輩の実習実態を聞くことは学生にとって印象深く、報告する卒業生も成長できる素晴らしい取り組みである。

- 実習後の学校の取り組み・評価方法について聞いたところ、「実習動物病院が評価したものに、学校の評価を加えて総合的に評価した」が 36 校と一番多く、次に「実習動物病院が評価したものを、そのまま学校の評価として使用」が 16 校となった。学生の成長や意識の向上のために、学校で既に実施・導入されている良い事例を以下に挙げる。

  ・学生の意欲を高める工夫（伝え方）について

  病院側から頂いた評価コメントのうち、厳しい表現や評価についてはある程度アレンジして学生に伝え、良いコメントは原文のまま伝える。

  ・課題の確認、目標の設定

  面談を実施し、実習中にみえた課題を再確認させる。

  ・学生間、教職員間での情報共有

  一人一人学生自身が発表をしてそれぞれ現場で学んだこと、失敗したことなどの情報を共有し、成長や意識向上へ反映をさせる。
- 動物病院実習を学生だけでなく、学校、動物病院それぞれにとって意義、成果のあるものとするためには事前の作業（動物病院との綿密な打ち合わせ）と合わせて、実施中の状況の確認（巡回）と事後の確認（評価、振り返り）の実施が重要であることが再確認された。
- 実習中のクレームやトラブルに関しては、アンケート設計段階から学校から回答が得られるかどうか議論があったが結果的に多くの回答を得ることができた。今後の重要な課題として取り上げ、解消・解決に向けて反映させていけるよう分析、検討を重ねたい。
- 現在抱えている実習に関する問題点や課題、より良く進めていくために工夫していること等の自由回答で調査した。非常に多くの意見が得られ、貴重なデータを収集することができた。
- 根本的に動物病院へ実習を依頼しづらい状況の中で、獣医師会との関係を持ち始めている学校もある。良い前例を各地で活用していきたい。
- 病院側の実習受け入れ態勢も各地で差異がある。病院側の支障にならないよう配慮が必要だが、実習は質が担保された有効な形となるよう実習内容を考えていく必要がある。
- 学校はマナーや挨拶を学生に指導しているが、病院側からすると不十分であると認識されている。学生の問題に関しても検討していかなければならない。

〈動物病院実習の就職～採用の視点から〉

- 1 年次は業務の把握を実習目的で行っており、2 年次になるとキャリア教育（就職活動）を目的に実習が行われている傾向にあった。1 年次と 2 年次で実習目的を変えたガイドラインの作成を検討する必要がある。
- 動物病院実習が動物病院にとって新人動物看護師の採用の機会と捉えている動物病院が多いことも分かり、実習時の教職員、就職課の担当者による巡回は動物病院実習の実際、学生の状況を把握する重要な機会と考えられる。
- 動物病院実習は学生の主たる就業先となる動物病院の実務を体験することで、動物看護師としての役割、職責への理解を深め、より技術や知識の習得意欲を高めることが大きな課題となる。そのためその指導にあたる教職員の指導方法、実習後の評価、学生へのヒアリングとフィードバックをそれに活かせるよう学内での工夫と取り組みが必須であると考えられる。

2. 動物病院を対象とした実態調査の集計結果

2-1. 動物病院における動物病院実態調査　調査票の集計結果

質問内容	合計
1－1. 学生を受け入れるようになってから何年になりますか？	
10年以上	20
5～9年	4
2～4年	0
1年	0
1－2. 1年に平均何人の学生を受け入れていますか？	
4人～7人	11
2人～3人	7
8人以上	5
1人	1
1－3. これまでに累計で何人の学生を受け入れましたか？	
30人以上	17
20人以上	5
10人以上	2
10人未満	0
1－5. 貴院が学生の実習を受け入れている理由、目的をお聞かせください。【複数回答】	
学校から依頼されたので	21
動物病院の現場での実習が学生にとってとても大事な教育になると考えているので	20
受け入れた実習学生の能力や資質を見ることができ、採用・内定に繋がる良い機会と考えているので	19
学生から直接依頼があったので	18
スタッフが学生に直接指導することは、スタッフ自身にとっても勉強になると考えているので	15
学生を受け入れると、動物病院の犬舎・猫舎の清掃や洗濯などスタッフの業務が軽減されるので	0
2－1. 学校と学生の実習前に行う打ち合わせ項目はどれですか？ 【複数回答】	
実習の日数、時間について	24
学生のプロフィール（氏名、住所、連絡先等）	23
実習中の服装、マナー、ルールについて	16
緊急時の連絡方法について	10
実習で学生に指導する具体的な内容について	8
学生が加入している保険についての情報	8
学生の評価方法について	6
実習で学校が望む目標、到達点について	5
実習に臨む学生の意識、意欲について	3
学生のカリキュラムの習得度合、学習レベル	2
2－2. 学生が実習に入る前に学校と取り交わしている文書・書類はありますか？【複数回答】	
履歴書	16
（実習学生の）評価書	14
実習内容が記載された依頼書	13
実習内容が記載されていない依頼書	8
協定書	5
カリキュラム表	1
2－3. 学生を実習で受け入れる際、学校の対応は十分だと思われますか？	
十分にできている	14
やや不足しているように感じている	10

質問内容	合計
3－1. 学生の実習中の指導担当者は決まっていますか？	
決まっている	12
看護師長が指導する	5
院長が主に指導する	2
同じ学校出身者の先輩動物看護師が指導する	1
特に決めていない	10
気付いたスタッフや勤務医がその都度指導、注意する	9
実習内容によって指導担当を変えているため担当は決めていない	3
朝、その日の予定を伝え、終了後の日報でチェックしている	2
3－2. 貴院での学生に提供している実習内容、実習プログラムについてお聞かせください。	
動物病院で独自に考えた、学生のレベルに合わせた実習を実施している	12
学校と事前に打ち合わせで決めたことに加えて、動物病院で実習に適切と思われる内容も実施している	9
学校と事前の打ち合わせで決められたことだけを実施している	2
4－1. 学生への評価をしていますか？（ 1. ～2. ）	
している	24
→ 評価方法についてご記入ください	
あらかじめ学校側から示された評価表をもとに評価している	21
動物病院独自の評価方法で評価している	3
していない	0
→ していない理由は？	
学校から要求されていないため	0
評価が行えるレベルに達していなかった	0
もともと評価できる業務をさせていないため	0
4－2. 院長、もしくは指導担当者が大事にしている評価のポイントをお聞かせください。【複数回答】	
マナー（挨拶、言葉遣い、身だしなみ等）	23
実習に対する意欲、意識、姿勢	23
コミュニケーション力	22
性格（明るい、前向き）	20
連絡・報告の徹底	13
動物の扱い方	9
飼い主様への対応	9
動物看護に関する知識	3
保定技術	2
動物看護に関する技術	2
5－1. 貴院で実習を受け入れた学生を卒業後に採用した実績はありますか？	
採用したことがある	23
期待通りの勤務状況ですか？	
はい	19
いいえ	5
採用したことはない	
採用したかった学生はいたが、採用に至らなかった	2
実習の受け入れ採用は別のことと考えている	0
採用したいと思った学生がいなかった	0

設　問	記述による回答				
1－5.　貴院が学生の実習を受け入れている理由、目的をお聞かせください。で、その他を選んだ場合の具体的内容	今の学生、特に10代後半～20代前半の仕事に対する意識の変化を知ることができるため。				
2－1.　学校と学生の実習前に行う打ち合わせ項目はどれですか？　で、その他を選んだ場合の具体的内容	詳細についてはかなり少ないです。	本院への実習希望理由			
2－2. 学生が実習に入る前に学校と取り交わしている文書・書類はありますか？の設問で、「その他」を選んだ場合の具体的内容	学校側からレポート・評価表かがあれば	就職希望の方に限り履歴書の持参をお願いしています。			
2－3. 学生を実習で受け入れる際、学校の対応は十分だと思われますか？の設問で「やや不足しているように感じている」場合の、不足していると思うのはどの部分？	病院への連絡事項および連携（病院の受け入れ体制の確認や学生レベル等の情報提供等）	2－1. に準ずる内容ですが、学生に指導するべき具体的な内容、最低限習得すべき項目などのガイドラインがあればよい	実習の目的についてのディスカッション	以前、個人で病院見学に行っている学生さんと全然連絡が取れなくなり学校へ問い合わせたところ何もご存じなく、それからも一切連絡がなく困りました。	事故などの対応
	学生教育不足。目標設定が幼稚すぎ	敬語の使い方、話し方	実習内容の統一化	学校での履修状況が分からない	事前の連絡やカリキュラムについての詳細が少ない時がある。
その他、学校への要望事項があればご記入ください	学校のHPに実習の受入動物病院名の開示	実習中の怪我などに対するマニュアル	何を目的としてどのようなことを学べたのか詳しい内容を教えてほしい。		
3－1. 学生の実習中の指導担当者は決まっていますか？で、決まっている→その他を選んだ場合の具体的内容	若手看護師が指導する	その日いる勤務年数の長い者が指導する。あらかじめシフトで決めておく。	師長以外の動物看護師も行う	先輩看護師が日にちによって担当看護師を決める。	2～3年目の先輩動物看護師があたる。
	看護師が主に指導する。	当日出勤の看護師の中からあらかじめ一人決めている	その日にいるスタッフでこちらが手配する。		
3－2. 貴院での学生に提供している実習内容、実習プログラムについてお聞かせください。→その他を選んだ場合の具体的内容	日常の診療を見学してもらう中で指導担当者がアドバイスする形式。	通常の看護師の補助作業がメインです（詳細な指導、実習内容について聞いていないため）			
4－1. 学生への評価をしていますか？している→その他を選んだ場合の具体的内容	学校から持参があった時のみ				
4－2.　院長、もしくは指導担当者が大事にしている評価のポイントをお聞かせください。→その他を選んだ場合の具体的内容	実習生には診察台の清掃をさせます。患者様をお迎えする心構えを教えています。				
5－1. 貴院で実習を受け入れた学生を卒業後に採用した実績はありますか？採用したことがある→不足しているのはどのような点ですか？	全員ではないですが、年々意欲が落ちているのかスキルアップを望まない方がいます。	社会人としての自覚	一部の人材はすぐに退職してしまう	人材によるので。社会人力。	とても良い人材を確保できたことも当然あるが、実習という短い期間では本当の性格や考え方、協調性、社会性を評価することは困難なこともある。

2-2. 動物病院実態調査 ヒアリング調査結果サマリー

動物病院への実態調査は調査票に加え、実際に動物病院へ訪問し院長、指導担当者に話を聞き、情報を収集した。現状の動物病院実習に対する考え方や意見、提案なども含まれており大変貴重なデータとなった。以下にその中から主なものを紹介する。

＜質問事項＞1－①
受け入れている学生数には無理はないか？

→ 動物病院の規模（獣医師数）によって、受け入れている学生数も異なるが、無理や負担の無い範囲でほぼ全ての動物病院が学生を受け入れていた。

- 1年に2～3人、累計20人以上受け入れているが、受け入れに特に問題はない。一度に5名が受け入れの上限と考えている。
- 1年間に4～7名の実習生を受け入れているが、無理は生じてはいない。
- これまで 30 人以上受け入れているが、その状況に応じて受け入れに無理がないよう、同じ期間に多くの人数が集まらないようにせず、実習に来る生徒の日程をずらしているので、無理が生じるといったことはない。
- 受け入れについては一定期間、10日や2週間の期間の中で、1人ずつ受け入れるのであれば、別にどの時期でも構わない。教えること自体は、スタッフが身につく面とか学習につながるので、受け入れること自体は、どんどん受け入れていきたいと思う。

＜質問事項＞1－②
毎年同様の実習内容か、毎年変えているか？

→ 学生の受け入れを継続している動物病院では、毎年、実習内容は変えていないとする回答が多くみられた。変えていると回答している場合は、学校の要望や学生のレベル、入院動物に合わせて実習を実施しているといいた内容であった。

- 学生を10年以上受け入れているが、実習内容はそんなに変わらない。やらせる範囲が決まっているので特別に意識して内容を変えようとしたこともない。
- 学生を10年以上受け入れているが、実習内容については1年生が来る場合もあるし、2年生が来る場合もある。どちらかといえば、その学生に合わせた形で実習をさせている。
- 毎年変えているというよりは、その時々によって変えている。ただ、これまで 5～9 年トータルで見てみると、おおよそ同じ。1年単位でみるとそれほど変わらない。
- 学生を10年以上受け入れているが、実習内容は実践に即したことをやってもらうのでほぼ同じ。

＜質問事項＞1－③

継続して受け入れている場合：長年受け入れている中で、学校や学生の変化に気づいたことはあるか？

→ 学校、学生とも良い面とマイナス面の両方の意見がみられた。

- 長年実習学生を受け入れているが、学校や学生に変化は感じない。
- しっかりした学生がだんだん多くなっている。学校もきちんとしてきているなという印象がある。
- 学校や学生に変化を感じている。この頃の学生は知識がある。本当になろうという気持ちが高いかもしれない。
- 学校に変化はない。学生の質が毎年だんだん落ちている。気がきかない学生が増えており、毎回言わないとだめ。

＜質問事項＞1－④

複数の学校から実習生を受け入れている場合：学校によって対応の違いを感じるか？　具体的にはどのような違いか？（例：学生の差、学校への不満、学生への不満）

→ 「違いを感じる」、「感じていない」の両方の意見があった。学校によって、取り組み方が異なることがうかがえる。

- 現在、学生を4校から受け入れているが、学校によって対応の違いを感じたことはない。
- 現在、学生を４校から受け入れているが、そのうちの１校は最近エントリーシートに記入する項目が多くなったように思う。また、条件なども細かく聞かれる。学生側に立った立場にどんどんシフトしていっている印象。ほかの 3 校はチェックをつけて送ったらそれで終わり。細かいことはあまり言ってこない。
- 現在、学生を4校から受け入れているが、学校によって違いはある。学校の学習が実際に現場に結びついてくる学校もあるし、学校でこれだけのことを習っているのに、これだけしかできないのかなという学生もたくさんいる。

＜質問事項＞1－⑤

動物病院側の実習の目的は、「採用」か「教育を通したスタッフのモチベーションやスキルの UP」か「獣医療発展のための（社会的）貢献」か。優先順位とその理由。

→ 学生の実習を受け入れる理由の優先順位は動物病院によって異なる回答となった。院長の考え方、方針によるものと思われる。

- 学生の実習を受け入れている理由・目的について、重要と考えているもの、優先順の1番は採用。2番は学生からの依頼。3番がスタッフ自体も勉強になる。社会的貢献はあたりまえのこと。そのために学生実習はあると思っている。
- 1番が教育。2番が学校からの依頼。3 番が学生からの直接依頼。4番が採用・内定。教育が1番の理由は、動物医療の底上げというか、レベルアップを考えた場合、よその病院へ行く学生であっても、ちゃんと動物看護学を学んでほしいなという気持ちがある。スタッフが教えることでモチベーションアップ、スキルアップというところに関しては副産物のようなもの。スタッフの勉強云々よりは、まず来る学生を中心に考えていかないといけない。
- 1番は「受け入れた実習学生の能力や資質を見ることができ、採用・内定に繋がる良い機会と考えている」。2 番は「動物病院の現場での実習が学生にとってとても大事な教育になると考えている」。3 番は「学校から依頼された」。その理由は、実際に受け入れる人間を選ぶかどうかにかかわらず、いまどういう学生がいるかを見られること。次に、獣医療の発展には動物看護師は必要不可欠。動物看護師教育に動物病院が一役担えれば、それは結果的には獣医業界が発展する。

＜質問事項＞2－①

現在実施している事前打ちあわせは、十分と感じているか？十分と感じている場合：特記できる満足点は？過不足がある場合：具体的にどのような点に過不足を感じているか？

→ 不足と感じていない、感じている、両方の回答がみられた。学校の事前打ち合わせ時の取り組み対応も異なっていることが伺える。

- 学校側と病院側の事前打ち合わせの内容については、やや不足に感じている。学校がどれぐらいさせたいのかわからない。
- 学校側と病院側の事前打ち合わせの内容については、十分と感じている。少なくともどういう学生だとか何を考えているかというのを伝えてもらっている。また、履歴書等を先に受け取ってもいるので、事前に学生に対する情報を把握する点で評価している。
- 学校側と病院側の事前打ち合わせの内容について、十分と感じている。実習生のプリントが送られてくるのと、親の承諾書をもらっているのは助かる。動物を触らせるので病院にとっては一番大きい。
- 学校側と病院側の事前打ち合わせの内容については、やや不足しているように感じている。具体的には事故などの対応。人間の病院では「研修医を受け入れているので、ご協力をお願いします」というのが提示されている。そういう制度が動物看護師にもあれば、病院でもっと学生に実習をさせてあげられる。

＜質問事項＞2－②

事前打ち合せで、学校側からの目的・目標が具体的な業務内容に落とし込まれた状態で、動物病院は実習の依頼を受けているか？

→ 回答からは具体的な提示を受けている動物病院は少ないことがわかる。また、「任せてもらっている」と判断している動物病院も少なくない。学校側の提示の仕方、伝達が様々であることがわかる。

- 実習内容については、学校側からの具体的な目的・目標の提示や、こういう理由でこういった業務内容でお願いしますという連絡はなく、動物病院に任せいただいている。
- 事前打ち合わせで学校側から目的や目標を固められて提示されるというよりも、どちらかというと病院側に任せてもらっている。これを絶対させてほしいとか言われたことはない。できる仕事をさせてほしいと言われるので、怪我をしなさそうな範囲内で、その学生ができそうなことをやってもらっている。
- 事前打ち合わせで、A校さんからは具体的な目的・目標が業務内容に落とし込まれた状態で動物病院実習の依頼を受けている。その他の学校は、書類だけが送られてきて、日数と大枠の作業内容、たとえば手術室の麻酔管理を一緒に入るとかなので、「その作業を終えました」みたいな感じで、正直、事前の打ち合わせがどこまで必要なのかというぐらいのものしかない。

＜質問事項＞2－③

事前打ち合せで、病院側からも専門学校側に要望を提示され実施しているか？実施している場合はその具体例について。

→ 動物病院から学校へ何らかの要望の提示をしているケースは極めて少ない。「事前打ち合わせ」の打ち合わせ内容や打ち合わせ自体の意味、目的が一様でないように感じる。

- 動物病院側から学校に対して要望を出したことはない。事前打ち合わせでは日数、時間、人数とかの基本事項のやりとりが多い。
- 要望を出したことはない。実習に関して不満を感じたことはないというか、学生という目で見ているから、当然できなくてあたりまえ。現場の人間と同じにやれというほうが無理。まずは、こんなことをやっているということを学生に見てもらっている。
- 動物病院側からはうちで大事にしている理念や思いを説明させてもらっている。事前に説明をしようと思った理由はせっかく来てもらったのに、誰も担当もできずに、本当にいるだけということを避けたいから。事前に病院の思いと、実際こういったことをします、という説明があれば、より教育効率としては高まると思う。
- 動物病院側から学校に対して、日程のことは要望を出したことがある。ある程度ベテランの動物看護師でないと対応できないことが多いので、指導できる人がいない時期があれば、それは変えてもらうかもしれない。

＜質問事項＞2－④

これまでの実習で、専門学校・動物病院間でトラブルや事故に発展してしまったことはあるか？　その際の学校の対応はどうだったか？

→　全ての動物病院が「専門学校・動物病院間でトラブルや事故に発展してしまった」ことはない、との回答であった。動物病院側も事故の防止に配慮がされていることがわかる。ただし、「学生が連絡なしに来なくなった」「貧血で倒れた」といった回答があった。

- 学校と動物病院間でトラブルや事故に発展した事例はない。こちらも気をつけている。咬む犬は絶対に触らせないようにしている。それこそ必ず誰かがついてきちっとやっている。
- 学校と動物病院間でトラブルや事故に発展した事例はない。
- トラブル対策については動物病院が非常に気をつけている。動物看護師に関しては、動物を触らせない。そういった意味で事故が起こりにくいと考えている。
- トラブルや事故に発展した事例ではないが、気持ちが悪くなって倒れた、ということはあった。

＜質問事項＞2－⑤

事前打ちあわせで、起こりうるトラブル対策についてのすり合わせは行われているか？

→　事前打ち合わせの中で、トラブル対策を話し合うことはない、との回答がほとんど。しかし、動物病院側で実習中の事故防止への取り組みがとられていることがうかがえる。

- トラブル対策についてのすり合わせを学校・病院間ではしていない。
- トラブル対策についてのすり合わせについては、事故に遭うようなことをさせていないということのほうが多い。
- すい合わせは行っていない。あまり危ないことはさせないから。専門学校からも誓約書をもらっているから、あまり無理させない。

＜質問事項＞2－⑥

事前打ちあわせで、専門学校から動物病院に学校内実習についての説明はあるか？

→　「説明はない」の回答が多くみられた。動物病院実習前段階での打ち合わせの内容、目的に含まれる事項になるが検討改善が必要と考える。

- 学校側や学生から、「学内でこういう実習を行った」という説明を受けたことはない。

- 学校側や学生から、「学内でこういう実習を行った」という説明を受けたことはない。逆に言うと「全部です。病院業務全般に関して」というふうに伝えてくる。掃除、保定、手術の準備の助手。うちは全部やってもらう。あれをやらないでいいよ、これをやらないでいいよ、はないので、もし余裕があれば爪切りまでやる。多分学校側は、各論的なものは任せますと考えているように思う。
- 学校側や学生から、「学内でこういう実習を行った」という具体的な説明を受けたことはほとんどない。「学校内でこういう実習をやっているので、それを前提でお願いします」といったことがあれば、もちろん対応できる範囲では行う。

＜質問事項＞3－①

動物病院が学生指導者を選ぶ際に優先順位が高いのは、以下のどれか？

「（院長クラスが担当し）安全性などを踏まえた責任」にあるから

「（看護師長クラスが担当し）実践力の向上」にあるから

「（同じ学校出身者の先輩動物看護師が担当し）教育に慣れさせることや、学生との親和性・相性」があるから。

るから

→ 動物病院の規模、方針にもよるが、動物看護師が指導にあたるとの回答が多くみられた。

- 指導者についてはキャリアが長いスタッフから教えてもらうことを優先したほうがいいと考えている。1年目でも 2 年目でも「学生を見てあげてね」と言っている。看護師長という役職はないが、看護師長レベルのスタッフが 1 番で、ほかの若いスタッフが 2 番、院長の自分からは最後。優先順は 1 番目に「実践力を身につけていただくため」、2 番目が「お互いのやりやすさ、学生との親和性」。
- 動物病院が学生の指導者を決めるのに、明確な基準がないが、動物看護師長が指導者を決めている。また、動物看護師長から他の動物看護師に指示をする。指導のポイントは実習生にどこまでやらせたらいいのかといつも聞かれるので、判断する人が必要だと考え、それを動物看護師長がしている。
- 学生の実習中の指導担当者は気づいたスタッフや勤務医がその都度指導、注意をしている。 専属の人がいればその人がやっているが、当院のシフトの関係で休みになればずっとついているわけにもいかない。その時に気づいたことはその場のスタッフが注意している。
- 動物病院が学生指導者を選ぶ際、先輩動物看護師がその日によって担当動物看護師を決めている。学生は1回に 3 名から 4 名来るので、1 人の動物看護師に対して学生 4 人がつくと、しっかり伝えられない。できたら 1 人 1 名にしたい。少なくとも 1 対 2 ぐらい。したがって、その日の出勤の動物看護師によって、「あなたはあの人について」みたいな形での割り振りを意図的にしている。1 対 1 での指導が学生にとって一番いい。2 番目の理由が、スタッフが学生に直接指導することによって、スタッフ自身にとっても勉強になる。
- 実習学生を誰が担当して指導するかについては特に決めず、気付いたスタッフや勤務医がその都度指導、注意するなど学生との親和性・相性に重きを置いたうえで指導している。

＜質問事項＞3－②　3－③

実習の進行は動物病院にとってやりやすいものになっているか？やりやすいものと答えた病院に対してその理由は以下のどれか？

・学校提示のカリキュラムが充実しているから
・動物病院側で適時変更しているから
・病院側主導でのカリキュラムだから

→　回答の多くは「やりやすいものになっている」であり、その理由は、「動物病院側で適時変更しているから」であった。学校側からの詳細な実習内容や要望があった場合等は、回答も変わってくるように思われる。

- やりやすいものになっている。その理由として長年やっているので、やらせても大丈夫な学生というのが経験上わかる。逆に、学生から「これをやらせてください」と言われたときに、うちでやらせるにはリスクが高いなと思う場合は、やらせるのかどうなのか迷う。
- やりやすいものになっている。ある程度は事前の打ち合わせ等で決められているが、そこに病院のその日の状況を踏まえて対応している。やりやすい理由としては、学校提示のカリキュラムを動物病院側で適時変更しているから。
- 実習の進行は動物病院側主導でのカリキュラムなのでやりやすい。
- 実習の進行は動物病院にとってやりにくいと感じたことはない。やりやすいと感じているのはある程度は病院主導で実施できているからだと思う。
- やりやすい理由としては、学生のレベルに合わせた、うちの病院でできることしかしていないという意味で。病院独自のカリキュラムとしては積極的に飼い主さんとコミュニケーションをとることは初日からしてもらうようにしている。どうしても遠慮して後ろに下がったままになる学生もいるが、初日は指示もあまり出さず、最初にやってほしいことだけを伝えて、来た人たちがどの程度できるかを見る。あとは、何しろコミュニケーションを必ずとる。
- 実習の進行は学校からは実習内容について「動物病院全体のことを学ぶ」という総論はあっても、「検査の項目について」「コミュニケーション」「マナー」といった各論で提示はされていない。そのため、やりやすいかどうか、動物病院側に負荷がかかるかどうかは、生徒個人による部分が大きい。学校側からある程度の各論の提示があるとさらにやりやすいと思う。

＜質問事項＞3－④

これまで学校が提示した実習カリキュラムで、動物病院側に無理や負荷が生じてしたため、中止・変更したことはあるか？

→　全ての動物病院が「ない」の回答であった。実際は無理のない実習内容を実施しているようである。

- これまで学校が提示した実習カリキュラムについてはなるべくこなせるような人数配分でしか受け入れていない。そういった理由で中断や中止したことはない。
- 最初から病院主導で自由にやっていたため、これまで学校が提示した実習カリキュラムが、病院側の無理や負荷が生じたために、中止・変更したことはない。
- 中止・変更したことはないが、途中で向こうから断ってきたことがある。初日に来て、次の日から来なくなった。理由はよくわからないが、訓練士科の学生のようで、健康な犬を触りたいのに、そんな話聞いてないと言われた。

＜質問事項＞4－①

学校側から明確な評価方法を提示されているか？されていない場合、動物病院ではどのような基準で評価をしているか？

→ 評価補法については提示している専門学校が多い。

- あらかじめ学校側から示された評価表をもとに評価しており特に問題はない。
- 学校側から示された評価表をもとに評価しているが、その評価表自体は明確で妥当性がある。
- 評価表は文章で書いたり 5 段階になったり様々だが、形式については学校の指示に従っている。評価自体は皆でしているが年齢が近い方に意見を聞くと「よく質問して、よくやってくれた」ということもあるので、自分（院長）だけの考えではなく、より年齢が近いスタッフの意見を参考にしている。
- 学校側から明確な評価方法が提示されているが、学校によって評価方法はかなり違う。

＜質問事項＞4－②

評価について、学校と動物病院で、実習後の打ちあわせを行っているか？

→ 実習後の打ち合わせについては実際には行っていない学校が多い。

- 学校と病院側で実習後に打ち合わせの場はない。
- 学校と動物病院で、実習後の打ち合わせは行っていない。本来はすべきと思うが、自分たちがした評価がどこまで単位に影響するのかなと思いながら、変なことは書けない。ただ、遅刻したら、正直に遅刻したと書く。
- 学校と病院側で実習後に先生と打ち合わせをしている。
- 学校と病院側では実習後に打ち合わせはしていないが、評価表と、評価表に各項目があり、それに我々が実習で感じたことに関しては逐一報告している。学生の評価については学校から提示されたのを使っている。内容的には非常に満足している。

＜質問事項＞4－③

病院側で最も重要視している評価のポイントは？またその理由は？

→ 重要な質問。全般に、動物看護師としての知識、技術よりも、意欲や実習にのぞむ姿勢、マナー、コミュニケーションといった資質が重要視されている。

- 評価のポイントの優先順は、1番はマナー。2番が実習に対する意欲、意識、姿勢。3 番が連絡・報告の徹底。4番はコミュニケーション力。5番は動物の扱い方。6番は性格。明るい、前向きな性格の方が、評価は高くなる。まず最低限のマナー、人間力がないと、動物の扱い方とか技術とか知識といったところまでたどりつかない。マナーを1番にあげた理由は、やる気があるだけでマナーがない場合は、結構自分に自信がありすぎて、何でもできると思ってしまって、やらかしちゃう子がいるから。
- 病院側で最も重視している評価のポイント、優先順の 1 番は連絡・報告の徹底。2 番がコミュニケーション力。3 番がマナー。4 番が実習に対する意欲、意識、姿勢。最後が動物看護に関する知識。その理由は知識よりも何よりも、私が考えるに、動物看護師の適性ということで考えた場合、動物看護師は我々と患者さんとのかけ橋になってもらわないといけない。きちんと相手とコミュニケーションがとれるかどうか。それをちゃんと我々のところに伝えてくれるかどうかを重要視している。知識の面に関しては学校で学習できることなので、実習の場であえてすることでもない。知識が一番後の理由はそれ。
- 病院側で最も重視している評価のポイント、優先順の1番は意欲。だいたい学生は最初緊張しているものなので、自分のポテンシャルはなかなか出てこない。やはりやる気は一番最初から出せるものかなと思うので、一番重要視しているというよりは、注目して見てあげるところという意味。2 番は動物の扱い方。3 番はコミュニケーション力。4 番は診察台を必ず掃除させること。5番が飼い主様への対応。診察台を必ず掃除させる理由は患者様をお迎えするという意味で、診察台が汚かったら病院が汚れているというのと同じことになるので、そこをあなたは拭きますという意識を持たせています。これは必ず実習生にやらせます。拭き方一つできない学生がいっぱいいますから、「ここの上すらきれいにできない。患者様がここを見るんだよ。どういう拭き方をする？」と言います。5 番目が飼い主様への対応への理由は、当然そこまでいかない学生もいる。患者さんとしゃべらせるというのは、うちとしてはその学生を表に出すということになる。正直、それがさせられないで終わる学生もいる。最初から意欲がまったくない学生、何しに実習に来たの、というような学生もいる。そういう学生は患者さんの前にも出しません。3 日なり 1 週間そのまま、この辺でうろうろしているだけです。それで終わる学生もいる。
- 病院側で最も重視している評価のポイント、優先順の1番はマナー。2番目が意欲、3番目が性格。コミュニケーション力と言いたいが、コミュニケーション力が必要じゃない場所も用意できる。特に動物看護師の場合は、人は好きではなくて動物が好きでやっている子もいるので、動物が好きというところをうまく伸ばそうと考えると、コミュニケーション力は結果的に必要になってくるが、優先順位的には性格が重要かと思うが微妙なライン。

- 病院側で最も重視している評価のポイント、優先順は1番が意欲、意識、姿勢。2番がマナー。3 番目がコミュニケーション力。4 番が動物の扱い方。1 番に実習に対する意欲、意識、姿勢を挙げた理由はプロとなるには、それなりの本人の意識がないといけないと思う。いまの学生はみんな受け身。受け身の中でも、どれだけ本人が仕事に携わりたいのかどうかというのは意識なので、これがないと何を教えても結局むだ。学校から言われてきた実習でも、どれだけ自分の中に目標を持っているかが一番大事。2 番にコミュニケーション力よりもマナーを挙げたのは、コミュニケーション能力は個々によって差が激しい。これを同じレベルにというのは難しい。基本的に、大人としてある程度人間としてのマナーがある人は、その先、何とかなる。要するに親から受けたしつけがちゃんとしていれば、注意すれば直るが、そこがないと、結局脱落し本人にとってもつらくなってくる。動物の扱い方が最後なのは皆さん好きで来ている。下手でも数をこなせば上手になるという意味で、これは順番を下げた。だけど、基本的なマナーや挨拶できない方は難しい。
- 病院側で最も重視している評価のポイント、優先順は1番が性格。2 番がコミュニケーション力。3 番がマナー。4番は実習に対する意欲。性格を 1 番にされた理由は素直な子は伸びる。言うことも聞くし。コミュニケーション力を2番にした理由は、技術はここに来てから教えることができるが、最初からコミュニケーション力があれば、それだけで飼い主さんと対応できる。

＜質問事項＞4－④

病院側で重要視している評価ポイントと、学校が重要視しているポイントにズレを感じたことはあるか？ある場合、どのあたりに感じるか？

→ 両方の回答が見られた。この内容についても「事前打ち合わせでの内容」に関連する。

- 病院側が重要視している評価ポイントと、学校側で重要視している評価のポイントにズレはあなく、基本的に一致している。
- ズレはない。実習に対する意識などは指導されていると感じる。
- ギャップはある。おそらく学校側は看護技術、知識、動物の扱い方、飼い主への対応の順だと思う。しかし、病院側はコミュニケーション力を重要視している。
- 学校側で重要視している評価のポイントについては、学校が何を望んでいるのかわからない。学生にしてみれば、学校から行けと言われてやっているかどうかはわからないが、一応向こうも看板を背負って来るから、ひどいなという学生はいない。
- 病院側が重要視している評価ポイントと、学校側で重要視している評価のポイントにズレについては、事前のやりとりも、後の評価についてのやりとりもあまりないので、わからない。

＜質問事項＞4－⑤

動物病院から学校に実習の評価のフィードバックを行う際、やりとりはスムーズに進んでいるか？　もし言いにくいことがあれば、どのあたりが言いにくいか？　言いにくい原因はなにか？

→　回答からは特に問題はなくスムーズに進んでいることがうかがえるが、これも動物病院に「任せている」部分が多いように思われる。

- スムーズに進んでいる。
- 動物病院から学校に対して、実習の評価についてのフィードバックを行う際、うちの病院は長く密接におつきあいしているので、こういうことが問題だなと思う場合は、直接話す。
- 動物病院から学校に対して、実習の評価についてのフィードバックを行う際、日誌の評価を郵送か、担当の教員の先生が取りに来られるという形式で、「今回はありがとうございました」という形でお渡しして、多少「どうでしたか」「よかったですよ」というやりとりはあるが、「学生にとってどの部分がよかった、悪かった」といった具体的な内容までは、いまのところはない。
- 動物病院から学校に対して、実習の評価についてのフィードバックを行っていない。できるのであれば、そういうすり合わせはやってみたい。学生に期待をさせてしまっているのではないかなと思っている。ただ、事前には必ずそういうお話はさせてもらっている。患者さんには触れられないが、病院内で飼っている子は咬まないので、そういう子は触っていいというお話はさせてもらっている。フィードバックをしたことがないのは忙しいため。
- 動物病院から学校に対して、実習の評価については学校に評価表を郵送し、それだけ。それで終わっている。

＜質問事項＞4－⑥

学生に動物病院実習を通して学んで欲しいこと、気づいて欲しいことは？

→　重要な質問。動物病院実習の基本的な目的にも関連し、動物看護師として求められる資質、職責にもつながる内容。貴重な意見と捉え、今後の参考にしていきたい。

- 学生に実習を通して学んでほしいこと、気づいてほしいことは、動物病院にはいろんな動物がいて、いろんな患者さんがいて、思ったとおりに進まないこと、段取りをいろいろ踏まなきゃいけないとか、優先順位をつけないといけないことがあり、そういう仕事のやり方とか意識を現場に来て感じてほしい。
- なるべく自分に向いた動物病院に将来行ってほしいとか、業界に対して希望を持ってほしいといった部分。また、重要なのは技術だけじゃない、掃除などもやはりあたりまえのこととして重要だと思ってほしい

- 社会人になるって大変なことだよと。動物を診るというのは、命を預かることだし、そこには必ずそこを心配している飼い主さんがいる。私たち側と動物と飼い主さん、そういう三者関係なんだよ、ということはわかってもらいたいなと思う
- 「生き物」を相手にしているということ。同じ薬を出して、同じようにやっているかもしれないけれども、病気も、治療も、同じものはないと思っている。動物看護師の性格が一人ひとりあるのと同じように、動物にも性格がある。それがわかる学生だと、人ともうまくできるし、動物ともうまくできると思う。
- たくさんある。動物看護師としての意識をしっかり持つということと、あとスタッフ間のコミュニケーション能力もとても大事。それと、病院の顔になるのが看護師。だから、人に好かれる明るい性格で、はきはきとした対応ができるようになってもらいたい。あと、知識については基本的なことさえしっかりわかっていれば十分。通年の努力があれば、教えていくことができるので問題ない。基本的なマナーとか、明るさだとか、コミュニケーション能力が欠落していると、長く続けてもらいたいという気持ちがとても強いので、どうしても難しいという感じがする。
- 自主性。それだけ。指示を待つのではなくて、自主的に判断するとか、自分で何を質問すればいいのか、何が聞きたいのか、自分のことを気づくといったこと。
- お金をいただいているプロとしての自覚。飼い主様からその対価をもらっている。また、飼い主様から「助けてくれてありがとう」と。手術もそう。私はそのために仕事をしているようなもの。だから、その喜びが学生の時に味わえるかというと、それは絶対味わえないですから、職場で感謝されるというのをぜひぜひ体験してほしい。
- 実習を非常に重要視しているのは、学校で学ぶことはあくまでも座学。座学の知識は、きちっとした知識として身についていないと思っている。それが本当に社会に出て役に立つことを知る機会が実習だと思っている。だから、学校で学んだことを現場で「学習したことがここでこういうふうに出てくるんだな」と。今度は逆に、学校でまだ学んでいないことであっても、うちで経験したことをまた学校で勉強したら、「これはあそこで見たあれだな」ということで、それが実際の必要な知識としてきちんと頭に整理されると思っている。それを具体化するための手段が実習だと思う。そういった意味で、実習はものすごく有意義であることを学んで欲しい。
- 動物看護師の仕事はいい仕事だなと思ってほしい。きつい、汚い、危険といわれるが、ありがとうと直接ダイレクトに言ってもらえる仕事かなと思う部分がある。嫌な辛いことだけじゃなくて、実習中にそういうことを実感してもらえたらと思う。
- やっぱりチームに入るために、挨拶とかマナーとかいろんなものが必要なので、そういうところが大事なんだなというのをまず気づいてほしい。学んでほしいことは、現場は健康な子も来ているが、病気な子も来ていて、患者や動物に気を使う場面も結構ある。そういう現場を見てもらって、自分の仕事を自覚してもらう。死んじゃったり、うまく伝わらなかったり、勘違いされることもあって、場合によっては患者が怒ったりということもある。そういう現場を体験するのは必要。学校ではなかなかそういうのは理解できない。

● 「いろいろやる」という姿勢が最低限大事。学習意欲を持って挑んでほしい。現在は優秀な学生が多いという印象。飼い主さんへの対応や、社会人力については、1 週間とか 10 日で急に性格が変わるわけじゃない。ただ、たとえば、学校にいて座学とか実習をやるばかりではなくて「なんだ。動物病院じゃなくて人に対する病院じゃないか」ということは、外に出て初めて気づかされる。結構人前に立って話す機会が多い仕事なんだよというのは、少しでも実習を通して伝わるのかなと思う。たとえば、待合室で患者さんと二人きりにさせてみたりとか、受付対応をさせてみたりとか、電話をとらせてみたりとかはしている。そういう「人に対する」部分が大事だと思う。

＜質問事項＞5－①

実習で受け入れた学生を採用した実績がある場合、どのような点を評価したか？

→ 現状、動物病院実習が動物病院にとって「採用」の機会と捉えていることが今回の調査でも確認されている。どういった点で学生を評価したか、採用の決め手となったか、そのよい情報となった。

● 採用は基本的な実習のマナーとか人間性というところから入るのと同時に、うちの場合は特に、いまいるスタッフとうまくやっていけるかどうかというところを非常に重要に考えて採用した。
● 採用は「マナー」が実際できるかどうか。そこができる子は絶対仕事ができる。できない子は絶対できない。仕事だけできる子はまずいない。仕事は後から覚える。
● 採用は実習の評価ポイントと同じ。性格、意欲、意識、姿勢、コミュニケーション力といった部分を評価している。またほかのスタッフとうまく連携できるかという部分も、楽しく働いていくうえで大きい。
● 採用の際は技量をそれほど多く求めることはない。コミュニケーション面、性格面を重視している。
● 採用は、マナー、意欲の点を評価した。
● 採用は性格を重視している。
● 採用はマナー、意欲、コミュニケーション力、明るい性格を評価した。
● 採用で評価する点は意欲。意欲があるということは、勉強もしているということだから、知識もあるということ。それは、うちの病院でのやり方に対応できるということ。
● 採用で評価した点はマナー、実習の時の意欲、姿勢。あと笑顔。今年、F校から 2 人来たが、すばらしい笑顔。実際前向きに仕事をしてくれていて、看護師のミーティングの時には、彼女らが司会をして、書記もする。そういう意味ではコミュニケーション能力も高い。結局3年、5年かけてうちの病院なりの人材を育てていくという気持ちが強いので、その受け皿としての素質というか、そこが重要なのかなという気がする。

＜質問事項＞5－②

実習中と採用後の実習生の働きぶりにギャップがある場合、どのようなギャップがあったか？

→ 多くは「ギャップはない」の回答であったが、学生の実習の期間、また動物病院の評価方法にも関連しているようである。

- 採用後、実習時の印象とのギャップは感じない。
- 採用後、実習時の印象との違いについては仕事をしてもらうと、最近の学生はみんなしっかりしているなという印象のほうが多い。
- 採用後、実習時の印象とのギャップについて、インターシップを十分に使いながら学生を見ると、1週間、2週間とか、できれば、それを2回繰り返して採用した学生に関しては、ギャップはほとんどない。
- 採用後、実習時の印象とのギャップは感じたことはない。当然仕事の流れもスムーズだったり、楽しんでやってくれるところは、むしろよりいい方向に向かっている。
- 採用後、実習時の印象とのギャップは実習の期間も長いので感じない。ただ「来年来てくれる予定の生徒に、週3で午後だけバイトに来てもらう」といった取り組みはしている。採用して4月は急に繁忙期になる。それもちょっと負担かと思うので。それはバイトとして時給を出してなので、おとなしい犬であれば、保定してもらったりとかしながら、急に負担がかからなくなるようにはしている。
- 採用したが、期待通りの勤務状況ではなかった理由としては反りが合わなかったというか、うまいこといかなかった動物看護師がいた。もう少し社会人としての自覚がほしかった。実習中はさすがにわからなかった。勤務してずうっと実習生のそのままというわけにいかない。ちょっとずついろいろ知識を身につけて仕事もしてもらわなければいけない。その段階で追いついていかないと、そのあたりから本人も病院の足手まといになっているのではないかとか、思い通りにいかないと感じて、どんどん落ち込んでいき辞めてしまった。

＜質問事項＞5－③

実習後の学生の採用や動物病院の今後のビジョン、要望等はあるか？

→ 動物病院の要望、意見として、様々な回答が得られた。

- 動物看護師の地位を向上させるために必要なものについては、いまの状況は、動物看護師の学校に入る学生自体が減ってきているという話を聞くが、動物病院自体は、「必要だ必要だ」と言っているわりに、じゃあ努力はしていますか？と。そういったブラックな状況をつくって、魅力的ではない病院をつくっているにもかかわらず、それでないと経営が成り立たないみたいな言い方をしている。結局、企業として、より付加価値の高いビジネスモデルをつくらなければ、その病院には人が来ない。高い給料で人を呼ぶこともできないわけですよね。いまこれ自体が問われていると思う。企業努力していない先生方が、動物看護師が足りない、何とかしろというのは違うと思う。入りたいと思うような病院をつくりましょうよ、そういう業界をつくりましょうよということだと思う。そこの中で需要と供給の関係があって、競争が生まれて、そして優秀な人だけが残る業界になれば、それは動物病院業界全体

のレベルアップが図れる。足りないからどんな子でもいいよとなれば、業界全体としては沈んでいく。そこがいま苦しんでいるところと思う。

- 実習後の採用について、「この方は学校ではこうだ」といった、意見が言い合える場があるといい。個人情報の問題などがあるから難しい部分だと思うが、判断材料になるものが多いほど、現場としてはより助かる。
- 実習後の採用について、今後のビジョンや要望は、いまのカリキュラム上、授業だけで精いっぱいだと思うが、たとえば 3 年制になったら、3 年の最後の半年は実習を主軸にする。ちょっと無謀なお願いかも知れない。
- 実習後の採用については動物病院業界の難しい点だが、各病院によってやり方とか雰囲気がばらばら。学生も実習でいろんなところに行って、多分違いに戸惑うことが多いと思う。そういうのを学校のほうでフォローしてもらったり、うちも一つの病院として考えている。
- 実習後の採用について、今後のビジョンや要望は、動物看護師の供給が不足してくると、いい動物看護師を採用するのが難しくなりそうな時代になる。だからこそ逆に、こういった実習の機会を使って、いい動物看護師になってもらえる実習の場にしていけたら、少しは採用にもつながると思う。あとは、なるべく人材を喪失しないように。いわゆるマッチングが悪いと、業界自体に愛想をつかして、業界からいなくなる人もいるので、入り口の段階で、できるだけ「この業界に来てよかったな。また来たいな」と、子どもの手が離れたらまたやりたい、産休をとってちゃんとやりたいと思ってもらえるように、その病院に適した人材を入れられるようにしたいなと思う。
- 学校で求められている最低限の知識は習得して欲しい。我々獣医師もそうだが、学校で勉強したことは現場に出ると、「やったな」程度の糧にしかならない。ただ、やったこと自体はむだにはならないので、しっかり勉強はしてほしいが、知識よりも、人間性とか意識のほうが重要。勉強は後からでもできるので。また、事故を起こさないための知識はほしい。たとえば動物扱い方、機械、器具の扱い方みたいなものとか、自分が触れるものに対する知識はほしい。
- 実習後の採用については、採用が決まったら、週 1 回でもいいから顔を出して、病院やスタッフになじんでいってもらって、その間にコミュニケーションをとれるようにしている。その期間が短かったりすると、いきなり 4 月に来て、お話をする相手もあまりいなくて、仕事に振り回されて、となってしまうので。採用については、早く決まるといいと考えている。また、動物看護師の仕事の範囲については、ガイドラインがもう少しはっきりしてくれるとありがたい。そのガイドライン次第では、獣医師の採用人数と看護師の採用人数もすごく変わってくると思うので。長期的なビジョンで、獣医師を増やしたほうがいいのか、動物看護師を増やしていったほうがいいのかというのは、経営的な側面でも重要視している。
- 実習後の採用については基本的にはいまの形と、ある程度の学校とのやりとりがあれば、やり方としては良い。ただ、学生、学校、病院のコミュニケーションをもっと密にできれば。学校からの総評みたいな形でも良いかもしれない。「今回のインターンでは全部で何病院、学生は何人受け入れがあった」「よかった点、悪かった点」ということや、傾向的なものもあってもいいのかもしれない。また「次こうしよう」とか、意見が出てきても良い。学校側として「こういう授業をしていて、結果としてはこうでした」というのが見えてくると、また協力してくれる病院も増えるのではないか。

3. 事業成果の次年度活用について

3-1.事業実施結果及び所感

今回の実態調査では、専門学校生の動物病院実習に関する広範囲な情報、データの収集に努めた。専門学校においては、68 の調査対象校のうち 61 校から回答が得られ、動物病院実習の実施状況、実習前の準備、実習中の対応、実習後の評価方法、学生へのフォロー、実習先である動物病院との関係性などについて各学校の正確な現状を把握することができた。61 校の中で共通する課題や取り組みを確認し、同時に動物病院実習の重要性についての位置づけ、学校の背景や環境、動物病院との連携度合い、体制の違いなどから、異なる部分も少なからずあることが判明した。コアカリキュラムに準じて実施されている「動物病院実習」ではあるが、ぞれぞれの学校における実施方法、取り組み方、課題にも幅があることが、ガイドラインの作成に着手する前の段階で、確認・共有できたことは、成果の一つと考える。

学生の実習を受け入れる動物病院側の調査については、今回、専門学校 12 校にそれぞれ 2 病院の選出を依頼し、全24の動物病院に対して調査票の提出と実際にその動物病院に訪問しヒアリング調査を実施した。調査票の回答による結果だけでなく動物病院の院長をはじめ実習責任者に直接に動物病院実習から専門学校や学生についての卒直な意見や考え方について話を聞けたことも大きな成果となった。今回得たこれらの情報は、適切に分析を進め、専門学校、動物看護師として就業を目指す学生、地域の動物医療を担う動物病院、それぞれに有益となる効果が生じる「動物病院実習ガイドライン」の作成に最大限に活かすよう努める。

最後に多忙の中、また短期間の日程で今回の実態調査に協力いただいた専門学校、そして動物病院には心から感謝を申し上げる。

3-2. ガイドライン骨子案

集計結果から次年度実際に作成していく動物病院実習ガイドラインについて、以下のことが見出された。見出された事項と、デュアル教育のガイドライン作成の主旨に沿って骨子案を作成し、次年度の検討課題とする。

① 専門門学校においては、1 年次、2 年次そして 3 年制の学校は 3 年次に動物病院実習を行っている。
② 実習動物病院の選定は学生が主体で行い、その選定理由は就職を目指した実習としているからが多かった。
③ 履修内容については、実習中のヒアリング等で動物病院側に伝えている。
④ 実習依頼は学生が行っているケースと学校側（担任等）が行っているケースがあった。
⑤ 事前情報として、履歴書に属する書類で提示しているケースが多かった（就職を目的とする為）。
⑥ 実習中は担任もしくは担当者が巡回し、挨拶程度の訪問をしている。
⑦ 評価というより、実習ノートなどで実習での体験をまとめる場合が多かった。
⑧ 実習内容は当日の診療により適宜変える場合が多かった。
⑨ 実習指導者は獣医師（主に院長）の場合と動物看護師の場合があったが動物看護師が担当することが理想的と考える傾向にあった。
⑩ 事後の報告、連携については、行えていない状況にある。
⑪ カリキュラムマップなど、履修経験を示すケースは少ない。
⑫ 限定されたガイドラインは対応が難しいと予測している動物病院もあった（弾力的なガイドラインの必要性）。
⑬ 地方獣医師会（県獣医師会）と密に連携を取り、カリキュラム内の動物病院実習を展開している地域があった。
⑭ 動物病院側からの希望（要望）として、マナーや社会人力を養成して実習に臨むことを希望している。
⑮ 学習内容について申し出（希望）があれば、できるだけ対応したいという動物病院が多かった。

平成 29 年度文部科学省委託事業 「専修学校による地域産業中核的人材養成」事業
認定動物看護師養成における効果的な連携事業を行うための
動物病院実習ガイドライン作成事業

中 間 実 績 報 告 書

平成 30 年 2 月

一般社団法人　全国動物教育協会
〒154-0011　東京都世田谷区上馬 4-3-2(国際動物専門学校内)
TEL　03-5430-5121　FAX　03-5430-4448

● 本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。

本報告書は、文部科学省の生涯学習振興事業委託費による
委託事業として、一般社団法人全国動物教育協会が実施した
平成29年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
の成果をとりまとめたものです。